第百五拾九條 若シ所爲カ輕罪ニモ又違警罪ニモ當ラサル時ハ裁判所ニ於テ其呼出狀及ヒ其呼出ノ後ニ爲シタル諸件ヲ取消シ且ツ之ト同一ノ裁判ニ依リ損害賠償ノ訟求ヲ裁定ス可シ(治一九一三二三二九三六六)

第百六拾條 若シ所爲カ懲治ノ刑又ハ更ニ重劇ナル刑ニ當ル所ノ輕罪ナル時ハ裁判所ヨリ關係人ヲ檢事ノ面前ニ移送ス可シ(治二二以下五三五四二七九以下)

第百六拾壹條 若シ犯罪被告人カ違警罪ヲ犯シタルノ證アル時ハ裁判所ヨリ其刑ヲ宣告シ且ツ之ト同一ノ裁判ニ依リ物件返還及ヒ損害賠償ノ訟求ヲ裁定ス可シ(治一三七一八九)

第百六拾貳條 敗訴トナリタル者ハ公訴原告人ニ對スルト雖モ費用ノ償還ヲ言渡サル可シ

其費額ハ裁判書ヲ以テ之ヲ算定ス可キモノトス(治一九四三六八訴一三〇刑五二四六九)

第百六拾三條 凡ソ處刑ノ確定ノ裁判書ニハ之レカ理由ヲ附シ且ツ適用シタル法律ノ文面ヲ記入ス可ク若シ之ニ違フ時ハ無效タル可シ

其裁判書ニハ終審ノモノタルヤ又ハ始審ノモノタルヤヲ記載ス可シ(治一七二一九五三六九四〇八四一三四一四)

第百六拾四條 裁判書ノ細字ノ正本ハ審問席ヲ開キタル裁判官遲クトモ二十四時內ニ之ニ署名ス可ク若シ之ニ違フ時ハ書記ニ對シテ二十五「フランク」ノ罰金ヲ言渡ス可ク又別段ノ理由アル時ハ書記ト裁判所長トニ對シテ損害賠償ヲ求ムルノ訴ヲ爲スヿヲ得可シ(治一九六二三四三七〇訴一三九五〇五以下)

第百六拾五條 檢察官及ヒ民事原告人ハ各々其關係アル所ノ事ニ付キ裁判ノ執行ヲ要求ス可シ(治一九七)

○第貳款　警察裁判官タル邑長ノ裁判權

第百六拾六條 縣ノ首地タラサル各邑ノ邑長ハ現行犯罪ニ於テ召捕ヘラレタル各人ノ其邑內ニ於テ行ヒタル違警罪又ハ證人モ亦其邑內ニ居住シ或ハ其邑內ニ在リ且ツ要求ヲ爲ス者ノ十五「フランク」ニ過キサル特定ノ金額ヲ損害賠償トシテ得ント求ムル時ニ於テハ其邑內ニ居住シ又ハ其邑內ニ在ル各人ノ行ヒタル違警罪ヲ治安裁判官ト抗競シテ審理ス可キモノトス」

右ノ邑長ハ第百三十九條ニ依リ專ラ治安裁判官ノ職權ニ歸セラレタル違警罪ヲモ又民事裁判官ト看做サレタル治安裁判官ニ其審理ヲ歸シタル何等ノ事項ヲモ決シテ審理スルヿヲ得ス(本條ハ千八百七十三年一月二十七日ノ法律第二條ヲ以テ削除シタリ)

第百六拾七條　檢察官ノ職務ハ邑長ノ違警罪ノ事項ニ付キ審理ヲ爲ス時ハ邑長ノ副職ニ於テ之ヲ執行ス可ク若シ又其副職ノアラサル時又ハ副職カ警察裁判官ノ職務ニ於テ邑長ニ代ハル時ハ邑會議員中ニテ檢事ヨリ滿一年間特ニ指定セラレタル者其檢察官ノ職務ヲ執行ス可シ(本條ハ千八百七十三年一月二十七日ノ法律第二條ヲ以テ削除シタリ)

第百六拾八條　違警罪ノ事項ニ於ケル邑長ノ書記ノ職務ハ邑長ヨリ申立テタル國士ニ於テ之ヲ執行ス可シ但シ其國士ハ書記タルノ分限ヲ以テ懲治警察裁判所ニ於テ誓ヲ爲ス可キモノトス○其國士ハ書類ノ副本ノ爲メ治安裁判官ノ書記ニ附與セラルヽ所ノ利得ヲ收受ス可シ(本條ハ千八百七十三年一月二十七日ノ法律第二條ヲ以テ削除シタリ)

第百六拾九條　關係人ヲ呼出スニ付テハ使吏ノ參涉ヲ必要トセス但シ其呼出ハ被告人ノ其罪ヲ訴ヘラレタル所爲ト其出席セサル可カラサル日時トヲ報告スル所ノ邑長ノ通知書ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得可シ(本條ハ千八百七十三年一月二十七日ノ法律第二條ヲ以テ削除シタリ)

第百七拾條　證人ノ呼出ニ付テモ亦右ニ同シカル可シ但シ其呼出ハ其證據ノ申述ヲ受ク可キ時期ヲ指示シタル通知書ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得可キモノトス(本條ハ千八百七十三年一月二十七日ノ法律第二條ヲ以テ削除シタリ)

第百七拾壹條　邑長ハ邑廳ニ於テ審問席ヲ開キ而シテ關係人及ヒ證人ノ申立ヲ公ケニ聽ク可シ

右ノ外治安裁判所ノ豫審及ヒ裁判ニ關スル第百四十九條、第百五十條、第百五十一條、第百五十三條、第百五十四條、第百五十五條、第百五十六條、第百五十七條、第百五十八條、第百五十九條、第百六十條ノ成規ハ之ヲ遵守ス可シ(本條ハ千八百七十三年一月二十七日ノ法律第二條ヲ以テ削除シタリ)

○第三款　警察裁判ノ控訴

第百七拾貳條　警察ノ事項ニ於テ爲シタル裁判ヲ以テ禁錮ヲ宣告スル時又ハ罰金物件返還及ヒ其他ノ民事ノ補償カ費額ノ外五「フランク」ノ金額ニ過クル時ハ控訴ノ方法ヲ以テ其裁判ヲ駁撃スルヿヲ得可シ(治一九九五〇五)

第百七拾三條　控訴ハ停止ノ效力アルモノトス(治二〇三訴四五七)

第百七拾四條　警察裁判所ヨリ爲シタル裁判ノ控訴ハ懲治裁判所ニ之ヲ申告ス可ク而シテ其控訴ハ本人又ハ住所ニ裁定書ノ送達ヲ受ケタル時ヨリ十日內ニ之ヲ爲ス可ク又其控訴ハ治安裁判所ノ裁定書ノ控訴ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ續行シ及ヒ裁判ス可シ(治一七六二〇三訴四五五以下)

第百七拾五條　若シ控訴ノ上ニテ檢事又ハ關係人中ノ一方ヨリ請求ヲ爲ス時ハ更ニ再ヒ證人ノ申述ヲ聽キ又然ノミナラス更ニ他ノ證人ノ申述ヲ聽クヿヲ得可シ(治一五五以下)

第百七拾六條　豫審ノ法式、證據ノ性質、確定裁判ノ方法、其裁判ノ公正ナル事及ヒ其署名費用辨濟ノ言渡ニ關スル前數條ノ成規並ニ其數條ニ於テ定メ

タル刑ハ控訴ノ上懲治裁判所ヨリ爲ス所ノ裁判ニ共通ノモノトス(治一五三一五四以下)

第百七拾七條　檢察官及ヒ關係人ハ別段ノ理由アルニ於テハ警察裁判所ヨリ終審ニテ爲シタル裁判ニ對シ又ハ警察上ノ裁判ノ控訴ニ付キ懲治裁判所ニ於テ爲シタル裁判ニ對シテ破毀ノ爲メニ上告スルヿヲ得可シ其上告ハ特定ノ方法ト期限トニ於テ之ヲ爲ス可シ(治二一六三七三四一三以下四一六以下四二七)

第百七拾八條　各三月期ノ初メ毎ニ治安裁判官ハ其以前ノ三月期內ニ爲シタル警察上ノ裁判書ニシテ禁錮ノ刑ヲ宣告シタルモノヽ抜書ヲ檢事ニ送付ス可シ○其抜書ハ書記ヨリ無費ニテ交付ス可キモノトス

檢事ハ其抜書ヲ懲治裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

又檢事ハ控訴裁判所ノ檢事長ニ其簡略ナル報告ヲ爲ス可シ

本條第一項治安裁判官ノ下ニ及ヒ邑長ノ語アリシヲ千八百七十三年一月二十七日ノ法律ヲ以テ削除シタリ

○第貳章　懲治ノ事項ニ於ケル裁判所

第百七拾九條　民事始審裁判所ハ右ノ外懲治裁判所ノ名義ヲ以テ行政官廳ノ求メニ依リ訴フル所ノ森林ノ各犯罪並ニ五日ノ禁錮及ヒ十五「フラング」ノ罰金ニ過クル所ノ刑ニ處ス可キ總テノ輕罪ヲ審理ス可シ(治一三〇、一三七一七四五四〇、刑六八、林一五九、一七一、一九〇)

第百八拾條　其裁判所ハ懲治ノ事項ニ於テハ裁判官三名ニテ宣告スルヿヲ得可シ

第百八拾壹條　若シ審問席ヲ開ク間ニ其搆内ニ於テ懲治輕罪ヲ行フ者アル時ハ裁判所長其所爲ノ調書ヲ作リテ犯罪被告人及ヒ証人ノ申立ヲ聽ク可ク而シテ裁判所ハ其場ニテ法律上ニ定ムル所ノ刑ヲ適用ス可シ

右ノ成規ハ控訴裁判所ノ審問席又然ノミナラス民事裁判所ノ審問席ヲ開ク間ニ其搆内ニ於テ行ヒタル懲治輕罪ノ爲メニモ亦之ヲ執行ス可シ但シ此場合ニ於テ民事裁判所又ハ懲治裁判所ヨリ爲シタル裁判ノ法律ニ據レル控訴ト相關ルヽヿナカル可シ(治五〇四以下、訴一〇以下、八八以下、刑二二二)

第百八拾貳條　其裁判所ハ懲治ノ事項ニ於テハ前第百三十條及ヒ第百六十條ニ從ヒ爲サレタル所ノ移送ニ依リ若クハ民事原告人ヨリ犯罪被告人及ヒ民事上ニテ其犯罪ノ實ニ任ス可キ各人ニ直接ニ送付シタル呼出狀ニ依リ又森林ノ犯罪ニ關シテハ森林ノ保存人、監察人又ハ副監察人或ハ監守人長ヨリ右ノ各人ニ直接ニ送付シ又如何ナル場合ニ於テモ檢事ヨリ右ノ各人ニ直接ニ送付シタル呼出狀ニ依リ其管轄ニ係ル輕罪ノ審理ヲ掌轄スルモノトス(治六四、一四五二三〇、林一七一以下)

第百八拾三條　民事原告人ハ呼出ノ証書ヲ以テ裁判所々在ノ都府ニ於ケル住所ノ撰定ヲ爲ス可シ但シ其呼出狀ニハ犯罪ノ所爲ヲ表示ス可キモノニシテ之レヲ以テ告訴狀ニ代用ス可シ(治六六、六八、一四五、一八二)

第百八拾四條　呼出ト裁判トノ間ニ三ミリアメートル毎ニ一日ノ外少クモ三日ノ猶豫アル可シ若シ之ニ違フ時ハ呼出サレタル者ニ對シ缺席ニテ宣告スル所ノ刑ノ言渡ハ無效ノモノトス

然レモ其無效ハ總テ抗辨ノ憑據又ハ答辨ノ前ニ最初ノ審問席ニ於テスル

ニ非サレハ之ヲ申立ツルヿヲ得ス(治一四六昨一七三一〇三三)

第百八拾五條　禁錮ノ刑ニ當ラサル輕罪ニ關スル事件ニ於テハ犯罪被告人自己ノ代理人トシテ代書人ヲ差出スヿヲ得可シ然レ𪜈裁判所ハ其犯罪被告人ノ自カラ出席ス可キ旨ヲ命令スルヿヲ得可キモノトス(治一五二)

第百八拾六條　若シ犯罪被告人ノ出席セサル時ハ缺席ニテ裁判セラル對シ(治一四九一八七)

第百八拾七條　(千八百六十六年六月二十七日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)若シ犯罪被告人又ハ其住所ニ缺席裁判言渡書ヲ送達シタルヨリ五日內ニ其犯罪被告人ヨリ其裁判書ノ執行ニ付キ故障ノ申立ヲ爲シ而シテ檢察官ト民事原告人トニ其故障申立書ヲ送付シタル時ハ其缺席裁判言渡書ヲ無效ノモノトス但シ右五日ノ期限ハ五〔ミリアメートル〕毎ニ一日ヲ加フ可シ缺席裁判書ノ寫ヲ得テ之ヲ送達スルノ費用及ヒ故障申立ノ費用ハ犯罪被告人ノ負任ト爲スヿヲ得可シ

然レ𪜈若シ本人ニ送達ヲ爲サヽル時又ハ裁判書執行ノ証書ニ依リ犯罪被告人ノ其裁判ヲ知リタリト推知スルヲ得サル時ハ其刑ノ期滿效ノ期限ノ終ニ至ル迄故障ノ申立ヲ受理ス可キモノトス(治六八一五〇)

第百八拾八條　故障ノ申立ハ當然最初ノ審問席ニ於ケル呼出ヲ惹起スルモノトシ若シ故障申立者ノ其最初ノ審問席ニ於テ出席セサル時ハ其故障申立ヲ無效ノモノトス而シテ又裁判所ヨリ其故障申立ニ付キ爲シタル裁判ハ其故障申立ヲ爲シタル者ニ於テ以下ニ記スル如ク控訴ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ駁撃スルヿヲ得ス

裁判所ハ別段ノ理由アル時ハ假定ノ金額ヲ許與スルヿヲ得可シ而シテ其處分ハ控訴ニ拘ハラス執行ス可キモノトス(治一五一一九九)

第百八拾九條　(千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)懲治輕罪ノ証據ハ逆警罪ニ關スル前第百五十四條、第百五十五條、第百五十六條ニ定メタル方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ○書記ハ証人ノ申述及ヒ犯罪被告人ノ答詞ヲ覺書ニ書留ム可シ○書記ノ覺書ハ裁判宣告ノ時ヨリ三日內ニ裁判所長之ニ檢署ス可シ○第百五十七條、第百五十八條、第百五十九條、第百

六十條、第百六十一條ノ成規ハ懲治ノ事項ニ於ケル裁判所ニ共通ノモノトス

第百九拾條 豫審ハ公ケタル可ク若シ之ニ違フ時ハ無效ナリトス

檢事、民事原告人又ハ其代辨人及ヒ森林ノ犯罪ニ關シテハ森林保存人、監察人又ハ副監察人若シ又此等各員ノアヲサル時ハ一般ノ監守人長ヨリ其事件ヲ辨明シ、調書又ハ報告書ヲ作リタル時ハ書記之ヲ讀上ケ、犯罪被告人ノ爲メノ証人及ヒ犯罪被告人ニ對スル証人ノ申述ヲ聽ク可キ時ハ之ヲ聽キ、其排斥ヲ申立テ、之ヲ裁判シ、有罪ノ証又ハ無罪ノ証トナル可キ証據物ヲ各証人及ヒ關係人ニ示シ、犯罪被告人ヲ訊問シ、犯罪被告人及ヒ民事上ニテ責ニ任ス可キ各人ヨリ其辨護ヲ申立テ、檢事ハ其事件ヲ縮約シテ自己ノ請求ヲ爲シ、犯罪被告人及ヒ民事上ニテ犯罪ノ責ニ任ス可キ各人ハ更ニ之ニ答フルヿヲ得可シ

其後直ニ裁判ヲ宣告シ又ハ遲ク已其豫審ヲ終リタル審問席ノ次キノ審問席ニ於テ裁判ヲ宣告ス可シ(治一五三一七一林一七四)

第百九拾壹條 若シ其所爲カ輕罪トモ又違警罪トモ看做サレサル時ハ裁判

所ニ於テ其豫審、呼出及ヒ其後ニ爲シタル諸件ヲ取消シテ犯罪被告人ヲ免訴シ且ツ損害賠償ニ於ケル訟求ヲ裁定ス可シ(治一五九三一二三六六)

第百九拾貳條 若シ其所爲カ違警罪ノミタル時公訴原告人又ハ民事原告人ヨリ其移送ヲ訟求セサルニ於テハ裁判所ニ於テ其刑ヲ適用シ且ツ損害賠償ヲ裁定ス可キ時ハ之ヲ裁定ス可シ

此場合ニ於テ其裁判ハ終審ノモノタル可シ(治一三七一七四三一三三〇三六五)

第百九拾三條 若シ其所爲カ施体又ハ加厚ノ刑ニ當ル可キ性質ノモノタル時ハ裁判所ヨリ直チニ拘留狀又ハ收監狀ヲ發スルヿヲ得可シ而シテ其裁判所ニ於テハ犯罪被告人ヲ該管豫審裁判官ノ面前ニ移送ス可キモノトス

(治九五以下一六〇三一四)

第百九拾四條 凡ソ犯罪被告人ニ對シ及ヒ民事上ニテ犯罪ノ責ニ任ス可キ各人ニ對シ又ハ民事原告人ニ對シテ爲ス所ノ懲罰ノ裁判ニハ右ノ各人ニ公訴原告人ニ對スルト雖モ費用ヲ償還ス可キ旨ヲ言渡ス可シ

其費用ハ右ト同一ノ裁判ヲ以テ之ヲ算定ス可キモノトス(治一六二三六八四三

六(訴一三〇刑五二)

第百九拾五條 凡ソ懲罰ノ裁判書ノ要旨中ニハ其呼出サレタル各人ノ罪ヲ犯シタリト裁判セラレ又ハ其責ニ任ス可シト裁判セラレタル所爲ト其刑ト民事上ノ言渡トヲ表示ス可シ

其適用ヲ爲ス所ノ法律ノ正條ハ審問席ニ於テ裁判所長之ヲ讀上ケ而シテ其調上ノ旨ヲ裁判書ニ記載シ且ツ法律ノ正條ヲ其裁判書ニ記入ス可ク若シ之ニ逃フ時ハ書記ニ對シテ五十「フランク」ノ罰金ヲ言渡ス可シ(治一三〇二六三三六九四〇八)

第百九拾六條 裁判書ノ細字ノ正本ハ其裁判ヲ爲シタル裁判官遅クモ二十四時内ニ之ニ署名ス可シ

裁判書ニ署名セサル前ニ其裁判書ノ副本ヲ交付スル所ノ書記ハ僞造者ナリトシテ其罪ヲ訴ヘラルヘシ

檢事ハ毎月裁判書ノ細字ノ正本ヲ檢視シ若シ本條ニ違背シタル場合ニ於テハ相當ノ處分ヲ爲ス爲メ其調書ヲ作ル可シ(治一六四三三四三七〇訴一三九一四〇)

第百九拾七條 裁判ハ檢事及ヒ民事原告人ノ請願ニ依リ各々其各員ニ關スル所ノ事ニ付キ之ヲ執行ス可シ

然レトモ罰金及ヒ沒收物ヲ收受スル爲メノ手續ハ檢事ノ名義ヲ以テ簿冊登記稅及ヒ國領財産管理局ノ幹理者之ヲ爲ス可シ(治一六三三七六)

第百九拾八條 檢事ハ裁判宣告ノ後十五日内ニ其裁判書ノ拔書ヲ控訴裁判所ノ檢事長ニ送付ス可シ(治二七一七八)

第百九拾九條 懲治ノ事項ニ於テ爲シタル裁判ハ控訴ノ方法ヲ以テ之ヲ駁撃スルヿヲ得可シ(治一七二一九二五〇五)

第貳百條 懲治警察ノ事ニ付キ爲シタル裁判ノ控訴ハ郡ノ裁判所ヨリ州ノ首地ノ裁判所ニ之ヲ申告ス可シ○州ノ首地ニ於テ懲治警察ノ事ニ付キ爲シタル裁判ノ控訴ハ同一ノ控訴裁判所ノ管轄地内ノモノタル時ハ隣州ノ首地ノ裁判所ニ申告ス可シ然レトモ各裁判所ハ如何ナル場合ニ於テモ相互ニ其裁判ノ控訴裁判官タルヿヲ得サルモノトス

其控訴ヲ申告ス可キ首地ノ各裁判所ノ表ヲ作ル可シ(本條ハ千八百五十六年六月

十三日ノ法律ヲ以テ削除シタリ)

第貳百壹條 (千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)控訴ハ控訴裁判所ニ申告ス可シ(沿一八〇)

第貳百貳條 (千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)控訴スルノ權能ハ左ノ各人ニ屬スルモノトス

第一 犯罪被告人又ハ責ニ任ス可キ各人

第二 民事原告人但シ其民事上ノ關係ノミニ付キ

第三 森林ノ管理局

第四 始審裁判所ノ檢事

第五 控訴裁判所ノ檢事長(沿一九八、二〇五)

第貳百三條 以下第二百五條ニ記載シタル例外ヲ除クノ外若シ裁判ヲ宣告シタル日ヨリ後遲クも十日內ニ其裁判ヲ爲シタル裁判所ノ書記局ニ控訴スル旨ノ申述ヲ爲シ又缺席ニテ裁判ヲ爲シタル時ハ其言渡ヲ受ケタル者又ハ其住所ニ右裁判書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ後遲クも十日內ニ右ノ控

訴スル旨ノ申述ヲ爲シタルニ非サレハ控訴ノ權利ヲ失フ可シ但シ右十日ノ期限ハ三ミリアメートル毎ニ一日ヲ加フ可キモノトス

右ノ期限ノ間及ヒ控訴ノ訴訟ノ間ハ裁判ノ執行ヲ停止ス可シ(沿一七三、一七四、訴四五七)

第貳百四條 (千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)控訴ノ憑據ヲ記シタル請願書ハ右ト同一ノ期限內ニ右ト同一ノ書記局ニ之ヲ差出スヿヲ得可シ但シ其請願書ハ控訴者又ハ代書人又ハ總テ其他ノ特別ナル代理人之ニ署名ス可キモノトス

右最後ニ記シタル場合ニ於テハ其代理委任狀ヲ請願書ニ添ユ可シ

其請願書ハ亦直接ニ控訴裁判所ノ書記局ニ差出スヿヲ得可シ(沿四一七)

第貳百五條 (千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)控訴裁判所ノ檢事長ハ裁判宣告ノ日ヨリ起算シテ二月內ニ犯罪被告人若クハ民事上ニテ犯罪ノ責ニ任ス可キ者ニ其控訴ヲ通知セサル可カラス又關係人中ノ一人ヨリ法ニ適シテ其裁判書ノ送達ヲ受ケタル時ハ其送達ノ日ヨ

リ一月内ニ右ノ各人ニ其控訴ヲ通知セサル可カラス若シ然ラサル時ハ其控訴ノ權利ヲ失フ可シ(沿一九八)

第貳百六條(千八百六十五年七月十四日ノ法律)放免ノ場合ニ於テハ其犯罪被告人ヲ控訴ニ拘ハラス直チニ釋放ス可シ(沿一一三一二六)

第貳百七條(千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)請願書ヲ始審裁判所ノ書記局ニ差出シタル時ハ其請願書及ヒ証據物ヲ控訴ノ申述又ハ控訴ノ通知書交付ノ後二十四時内ニ檢事ヨリ控訴裁判所ノ書記局ニ送付ス可シ

若シ其裁判ヲ受ケタル者ノ拘留ノ景狀ニアル時ハ其者ヲ檢事ノ命令ニ依リ右ト同一ノ期限内ニ控訴裁判所々在地ノ收監場内ニ移ス可シ(沿二三三二四三)

第貳百八條(千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)控訴ノ上缺席ニテ爲シタル裁判ハ懲治裁判所ニ於テ爲シタル缺席裁判ト同一ノ方法及ヒ同一ノ期限ニ於テ故障申立ノ方法ニ依リ之ヲ駁撃スルヿヲ得

可シ

其故障申立ハ當然最初ノ審問席ニ於ケル呼出ヲ惹起スルモノトシ若シ故障申立人ノ其最初ノ審問席ニ於テ出席セサル時ハ其故障申立ヲ無效ノモノトス○其故障申立ニ付キ爲シタル裁判ハ其故障申立ヲ爲シタル者ニ於テ大審院ニ上告スルノ外之ヲ駁撃スルヿヲ得ス(沿一五〇一五一二七七一八七一八八二一六四一六)

第貳百九條(千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)控訴ハ一月内ニ控訴裁判所ノ裁判官一名ヨリ報告ノ上審問席ニ於テ之ヲ裁判ス可シ

第貳百拾條(千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)報告ヲ爲シタル後其報告員及ヒ各裁判官ノ其論說ヲ發スル前ニ放免セラレタルト刑ヲ言渡サレタルトヲ問ハス犯罪被告人犯罪ニ付キ民事上ニテ責ニ任ス可キ各人民事原告人及ヒ檢事長ハ第百九十條ニ定メタル方法及ヒ順序ヲ以テ其申述ヲ聽カル可シ

第貳百拾壹條（千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス）豫審ノ法式、証據ノ性質、始審確定裁判書ノ方法、其公正及ヒ手署費用ノ冒渡ニ關スル前數條ノ成規並ニ前數條ニ定ムル所ノ刑ハ控訴ノ上ニテ爲ス所ノ裁判ニ共通ノモノトス（治一五三ヨリ一六一ニ至ル、一八九、一九〇、一九四ヨリ一九六ニ至ル）

第貳百拾貳條（千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス）若シ其所爲カ如何ナル法律ニ依ルモ輕罪トモ又逆警罪トモ看做サレサルノ故ヲ以テ始審裁判ヲ更改シタル時ハ控訴裁判所ニ於テ犯罪被告人ヲ免訴シ且ツ其犯罪被告人ノ損害賠償ヲ裁定ス可キ時ハ之ヲ裁定ス可シ（治一五九、一九一、二二九、三六六）

第貳百拾三條（千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス）若シ其所爲カ逆警罪ノミニ當ルノ故ヲ以テ始審裁判ヲ取消シタル時公訴原告人及ヒ民事原告人ヨリ其移送ヲ請求セサルニ於テハ控訴裁判所ニ於テ其刑ヲ宣告シ且ツ損害賠償ヲ裁定ス可キ時ハ亦之ヲ裁定ス可シ（治一三七以下、一九二）

第貳百拾四條（千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス）若シ其所爲カ施体又ハ加辱ノ刑ニ當ル可キ性質ノモノタルノ故ヲ以テ始審裁判ヲ取消シタル時ハ控訴裁判所ニ於テ別段ノ理由アルニ於テハ勾留狀又然ノミナラス收監狀ヲ發ス可ク且ツ其犯罪被告人ヲ該管官吏ノ面前ニ移送ス可シ然レトモ其始審裁判ヲ爲シ又ハ豫審ヲ爲シタル官吏ノ面前ニ之ヲ移送ス可カラサルモノトス（治一六〇、一九三）

第貳百拾五條（千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス）若シ無效ノ罰欵ヲ以テ法律上ニ定メタル法式ノ補正セラレサル逆犯又ハ逆脫ノ爲メニ始審裁判ヲ取消シタル時ハ控訴裁判所ニ於テ其本案ニ付キ裁定ヲ爲ス可シ（治一七四）

第貳百拾六條（千八百五十六年六月十三日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス）民事原告人、犯罪被告人、公訴原告人、犯罪ニ付キ民事上ニテ責ニ任ス可キ各人ハ控訴裁判所ノ裁判ニ對シテ破毀ノ爲メ上告スルヿヲ得可シ（治一七七、三七三、四〇七、四一三、四一六、四二七）

○第貳卷　陪審ニ附セサル可カラサル事件(千八百八年十二月九日決定同月十九日宣令)

○第壹章　重罪裁判所ニ移ス事

第貳百拾七條　控訴裁判所ノ檢事長ハ第百三十三條又ハ第百三十五條ニ據リ已レニ送付セラレタル証據物ヲ收受セシ時ヨリ五日内ニ其事件ヲ整理シテ遅クモ次キノ五日内ニ其報告ヲ爲ス可シ

右ノ時間ニ於テ民事原告人及ヒ犯罪被告人ハ其相當ナリト思考スル所ノ覺書ヲ差出スヿヲ得可シ但シ之レカ爲メ其報告ヲ遲延スルヿヲ得サルモノトス(治六六以下二一八以下二七一以下)

第貳百拾八條　(千八百五十六年七月十七日ノ法律)之レカ爲メ特ニ組成シタル控訴裁判所ノ一課ハ其必要ナル度毎ニ檢事長ノ報告ヲ聽キ且ツ其請求ニ付キ裁定スル爲メ檢事長ノ求メニ依リ其課長ノ招集ニ從ヒ集會ヲ爲ス可キモノトス

檢事長ノ別段ノ求メアラサルニ於テハ右ノ課ハ少クモ毎週一回集會ヲ爲ス可シ(治二五七)

第貳百拾九條　(千八百五十六年七月十七日ノ法律)裁判所長ハ檢事長ノ報告ノ後直チニ右ノ課ヲシテ宣告ヲ爲サシム可シ若シ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其課ハ遅クモ三日内ニ宣告セサルヲ得ス

第貳百貳拾條　若シ其事件カ高等法院又ハ大審院ノ爲メニ貯存ス可キ性質ノモノタル時ハ檢事長ニ於テ其停止及ヒ移送ヲ請求シ而シテ右ノ課ハ之ヲ命令ス可キモノトス(治四八二以下四八五以下)

第貳百貳拾壹條　前條ニ定メタル場合ヲ除クノ外裁判官ハ其犯罪被告人ニ對シテ法律上ニ重罪ノ名稱ヲ附スル所爲ノ証據又ハ証憑ヲ存在スルヤ否ヲ調査シ又其証據又ハ証憑ノ頗ル重劇ニシテ重罪裁判所ニ移ス旨ヲ宣告スルニ足ル可キヤ否ヲ調査ス可シ

第貳百貳拾貳條　書記ハ檢事長ノ面前ニ於テ裁判官ニ其訴ノ總テノ証據物ヲ讀聞カセ然ル後其証據物並ニ民事原告人及ヒ犯罪被告人ヨリ差出シタル供書ヲ事務局ニ存シ置ク可シ

第貳百貳拾三條　民事原告人、犯罪被告人、各証人ハ出席セサルモノトス

第貳百貳拾四條　檢事長ハ其署名シタル請求書ヲ事務局ニ納メタル後書記ト共ニ退席ス可シ（第二七六）

第貳百貳拾五條　各裁判官ハ何人トモ語ヲ參ユルヿナク其場ニテ相互ニ評議ス可シ

第貳百貳拾六條　裁判所ハ相率連シタル犯罪ノ証據物ヲ同時ニ差出サレタル時ハ一箇同一ノ裁判ヲ以テ其相率連シタル數箇ノ犯罪ヲ裁定ス可シ（第二二七三〇七三〇八四三三五二六）

第貳百貳拾七條　數人相集合シテ同時ニ犯罪ヲ行ヒタル時若クハ時期及ヒ場所ノ相異ナルト雖モ數箇ノ人ノ豫メ相互ニ共議シタルニ依リ犯罪ヲ行ヒタル時若クハ犯罪人ノ甲ノ犯罪ヲ行フ可キ方便ヲ已レニ得ル爲メ又ハ甲ノ犯罪ヲ容易ナラシムル爲メ又ハ甲ノ犯罪ノ執行ヲ成就スル爲メ又ハ甲ノ犯罪ニ付テノ罰ヲ免カルヽ爲メニ乙ノ犯罪ヲ行ヒタル時ハ其數箇ノ犯罪ヲ相率連シタルモノトス（第二二六三〇七以下）

第貳百貳拾八條　裁判官ハ別段ノ理由アル時ハ更ニ新タナル豫審ヲ命令スルヿヲ得可シ

裁判官ハ亦別段ノ理由アル時ハ始審裁判所ノ書記局ニ納メ置キタル有罪ノ証據物ノ差出ヲ命令スルヿヲ得可シ

右ノ諸件ハ極メテ短キ期限内ニ之ヲ爲ス可キモノトス（第二三五二三六二五〇）

第貳百貳拾九條（千八百五十六年七月十七日ノ法律）若シ裁判所ニ於テ法律上ニ定メタル犯罪ノ痕跡ヲ看ス又ハ裁判所ニ於テ有罪ナル事ノ充分ナル証憑ヲ見出サヽル時ハ犯罪被告人ノ釋放ヲ命令ス可シ但シ犯罪被告人ノ更ニ他ノ原由ノ爲メニ留置セラレサル時ハ即時ニ右ノ命令ヲ執行ス可キモノトス

右ニ同シキ場合ニ於テ若シ裁判所カ豫審裁判官ノ命令ニ依テ宣告セラレ

タル犯罪被告人ノ釋放ニ付テノ故障申立ヲ裁定ス可キ時ハ裁判所ニ於テ右ノ命令ヲ是認ス可シ但シ其命令ハ前項ニ記シタル如クニ執行ス可キモノトス(治一二八、一三五、一五〇、一九一、二四六、二九二)

第貳百三拾條 (千八百五十六年七月十七日ノ法律)若シ裁判所ニ於テ犯罪被告人ヲ單一ナル警察裁判所又ハ懲治警察裁判所ニ移送セサル可カラスト思考スル時ハ該管裁判所ヘノ移送ヲ宣告ス可シ但シ單一ナル警察裁判所ニ移送スル場合ニ於テハ犯罪被告人ヲ釋放ス可キモノトス(治一二九、一三〇、一三一、二九二、三一三)

第貳百三拾壹條 (千八百五十六年七月十七日ノ法律)若シ其所爲カ法律上ニ重罪ノ名稱ヲ附スルモノニシテ且ツ裁判所ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ理由タル可キ充分ナル犯罪ノ徵憑ヲ見出ス時ハ其犯罪被告人ヲ重罪裁判所ニ移送スル旨ヲ命令ス可シ

如何ナル場合ニ於テモ又豫審裁判官ノ命令如何ヲ問ハス裁判所ハ檢事長ノ請求ニ依リ其審理スル所ノ各個ノ犯罪被告人ニ關シテ其訴ノ手續ニ依

リ知ルヿヲ得タル總テノ重罪、輕罪、違警罪ノ關係ニ付キ裁定ス可キモノトス(治二二一、二七一)

第貳百三拾貳條 (千八百五十六年七月十七日ノ法律)若シ裁判所ニ於テ重罪裁判所ニ移ス旨ヲ宣告シタル時ハ其重罪被告人ニ對シテ拘引ノ命令書ヲ發ス可シ

其命令書ニハ重罪被告人ノ姓名、年齡、出產ノ地、住所、職業ヲ記シ且ツ其重罪公訴ノ目的タル所爲ノ簡畧ナル說明及ヒ其法律上ノ名稱ヲ記ス可シ若シ之ニ違フ時ハ無效ナリトス

第貳百三拾三條 (千八百五十六年七月十七日ノ法律)拘引ノ命令書ハ重罪裁判所ニ移ス旨ノ裁判書中ニ之ヲ記入ス可シ但シ其裁判書ニハ重罪被告人ヲ移送スル所ノ裁判所ニ設ケアル拘留場ニ之ヲ送致ス可キノ命令ヲ記ス可キモノトス(治一三四、二九二、六〇八以下)

第貳百三拾四條 裁判書ハ其裁判ヲ爲シタル裁判官各員之ニ署名ス可シ又其裁判書ニハ檢察官ノ請求ト裁判官各員ノ姓名トヲ記載ス可シ若シ之ニ

逆ヲ時ハ無效ナリトス(治一六四一九六一九九二九九ノ第三三七〇)

第貳百三拾五條　總テノ事件ニ於テ控訴裁判所ハ重罪裁判所ニ移ス旨ヲ宣告ス可キヤ否ヲ決セサル間ハ初メノ裁判官ニ於テ豫審ヲ始メタルト否トヲ問ハス職權上ニテ犯罪ノ起訴ヲ命令シ、証據書類ヲ差出サシメ、豫審ヲ爲シ又ハ爲サシメ然ル後其相當ノ裁定ヲ爲スヿヲ得可シ(治二二八二五〇)

第貳百三拾六條　前條ノ場合ニ於テハ第二百十八條ニ記シタル課ノ職員一名其豫審裁判官ノ職務ヲ行フ可シ

第貳百三拾七條　其裁判官ハ各証人ノ申述ヲ聽キ又ハ其申述ヲ聽カシムル爲メ右各証人居住ノ地ヲ管轄スル始審裁判所ノ裁判官中一名ヲ委任シ、犯罪被告人ヲ訊問シ、收取スルヿヲ得タル總テノ証據又ハ証憑ヲ書面ヲ以テ証明セシメ且ツ狀況ニ從ヒ勾引狀、勾留狀又ハ收監狀ヲ發ス可シ(治七一以下、八七以下)

第貳百三拾八條　檢事長ハ豫審裁判官ヨリ証據物ヲ受取リタル後五日内ニ其報告ヲ爲ス可シ(治二一七)

第貳百三拾九條(千八百五十六年七月十七日ノ法律)若シ訊問ニ依リ犯罪被告人ヲ重罪裁判所ニ移送ス可キヿノ明白トナリタル時ハ裁判所ニ於テ前第二百三十一條、第二百三十二條、第二百三十三條ニ記シタル如クニ宣告ス可シ

若シ懲治警察ニ移送ス可キ時ハ裁判所ニ於テ第二百三十條ノ成規ニ從フ可キモノトス

若シ右ノ場合ニ於テ犯罪被告人ノ拘留セラレ而シテ其犯罪ノ禁錮ノ刑ニ當ル可キ時ハ裁判アルニ至ル迄其犯罪被告人ヲ獄舍ニ入レ置ク可シ

第貳百四拾條　右ノ外此法典ノ他ノ成規中ニテ前五條ニ抵觸セサルモノハ之ヲ遵守ス可シ

第貳百四拾壹條　犯罪被告人ヲ重罪裁判所ニ移送スル總テノ場合ニ於テハ檢事長其重罪公訴狀ヲ作ル可シ

重罪公訴狀ニハ左ノ諸件ヲ説明ス可シ

第一　重罪公訴ノ基本ヲ爲ス犯罪ノ性質

第二　犯罪ノ所爲及ヒ刑ヲ重劇ナラシメ又ハ之ヲ減輕セシム可キ總テノ景況

重罪公訴狀ニハ其犯罪被告人ヲ指名シ且ツ明白ニ之ヲ指定ス可シ

重罪公訴狀ノ末ニハ左ノ縮約文ヲ記ス可シ

故ニ某ハ云々ノ景況ヲ以テ云々ノ故殺云々ノ盜罪又ハ其他ノ云々ノ重罪ヲ犯シタルノ公訴ヲ受クルモノトス（治二七一三一三）

第貳百四拾貳條　移送ノ裁判書及ヒ重罪公訴狀ハ之ヲ重罪被告人ニ送達シテ其總テノ書類ノ寫ヲ重罪被告人ニ渡シ置ク可シ

第貳百四拾三條　右ノ送達ノ後二十四時內ニ重罪被告人ヲ收監場ヨリ其之ヲ裁判ス可キ裁判所ニ設ケアル拘留場ニ移ス可シ（治二〇七六〇八以下）

第貳百四拾四條　若シ重罪被告人ヲ召捕フルヿヲ得ス又ハ其出席セサル時ハ以下本編第四卷第二章ニ規定シタル如ク其重罪被告人ニ對シテ重罪缺席ノ處分ヲ爲ス可シ（治一四九四六五四七八）

第貳百四拾五條　檢事長ハ重罪裁判所ニ移ス ノ裁判ヲ其重罪被告人住所ノ

地ノ知レタル時ハ其地ノ邑長ト犯罪ヲ行ヒタル地ノ邑長トニ通知ス可シ（民一〇二）

第貳百四拾六條　控訴裁判所ニ於テ重罪裁判所ニ移送セサル旨ヲ決セラレタル犯罪被告人ハ最早同一ノ所爲ノ爲メニ重罪裁判所ニ送致スルヿヲ得ス但シ更ニ新タナル犯罪ノ徵憑ノ出テ來リタル時ハ格別ナリトス（治三六〇）

第貳百四拾七條　控訴裁判所ノ調査ニ附スルヿヲ得サリシモノニシテ其裁判所ノ太タ微弱ナリト爲シタル証據ヲ鞏固ナラシメ若クハ事實ヲ顯ハスニ有益ナル新タナル表明ヲ其所爲ニ附與ス可キ性質ノモノタル証人ノ申述書、証據物及ヒ調書ハ新タナル犯罪ノ徵憑ト看做ス可シ（治二四六二四八）

第貳百四拾八條　右ノ場合ニ於テハ司法警察官吏又ハ豫審裁判官ヨリ猶豫ナク其証據物及ヒ犯罪徵憑書ノ寫ヲ控訴裁判所ノ檢事長ニ差送ル可ク而シテ重罪課長ハ檢事長ノ請求ニ依リ檢察官ノ訴ヲ以テ前ニ定メタル所ニ從ヒ更ニ再ヒ豫審ヲ行フ可キ裁判官ヲ指示ス可シ

然レトモ豫審裁判官ハ別段ノ理由アルニ於テハ新タナル犯罪ノ徵憑ニ依リ

其徵憑書ヲ檢事長ニ送ラサル前ニ既ニ第二百二十九條ノ成規ニ從ヒ釋放ヲ得タル犯罪被告人ニ對シテ勾留狀ヲ發スルヿヲ得可シ

第貳百四拾九條 檢事ハ其起リタル總テノ重罪事件、懲治警察事件又ハ單一ナル警察事件ノ通知書ヲ八日毎ニ檢事長ニ送ル可シ(治二七二五〇二七四)

第貳百五拾條 若シ懲治警察ノ訴又ハ單一ナル警察ノ訴ノ通知中ニ付キ檢事長ニ於テ更ニ重劇ノ性質アルモノヲ見出シタル時ハ其通知ヲ受ケタル時ヨリ唯十五日內ニ証據物ノ差出ヲ命令スルヿヲ得可ク然ル後檢事長ハ其証據物ヲ受取リタル時ヨリ更ニ十五日ノ期限內ニ其相當ナリト思考スル所ノ請求ヲ爲シ又裁判所ニ於テハ三日ノ期限內ニ其相當ノ命令ヲ爲ス可キモノトス

○第貳章 重罪裁判所ノ組成

第貳百五拾壹條 控訴裁判所ヨリ移送シタル各人ヲ裁判スル爲メ各州每ニ重罪裁判所ヲ設ク可シ(治一三三二三一五〇〇)

第貳百五拾貳條 控訴裁判所々在ノ各州ニ於テハ其裁判所ノ裁判官三名ニ

テ重罪裁判所ヲ開設ス可シ但シ其中ノ一名ハ裁判所長タル可キモノトス」檢察官ノ職務ハ檢事長若クハ代言人長一名若クハ檢事長ノ代職一名ニ於テ之ヲ屬行ス可シ

控訴裁判所ノ書記ハ重罪裁判所ニ於テ自カラ其職務ヲ執行シ又ハ暫ヲ爲シタル手傳役一名ヲシテ其職務ヲ執行セシム可シ(治二五三二六三二六四二七一)

第貳百五拾三條 (千八百五十五年三月二十一日ノ法律)其他ノ各州ニ於テハ重罪裁判所ヲ左ノ如クニ組成ス可シ

第一 特ニ委任セラレタル控訴裁判所ノ裁判官一名但シ此裁判官ハ重罪裁判所長タル可キモノトス

第二 控訴裁判所ニ於テ特ニ其裁判官ヲ委任スルヿヲ適當ナリト思考シタル時ハ其裁判所ノ裁判官中ヨリ撰ミタル裁判官二名若クハ重罪裁判所ヲ設クル地ノ始審裁判所長又ハ其裁判官中ヨリ撰ミタル裁判官二名

第三 始審裁判所ノ檢事又ハ其代職中一名但シ第二百六十五條、第二百

七十一條第二百八十四條ニ記シタル成規ト相觸ルヽヿナカル可シ

第四　始審裁判所ノ書記又ハ書ヲ爲シタル其手傳役一名

重罪裁判所ヲ設クル地ノ始審裁判所長又ハ裁判官中ニテ重罪裁判所ヲ組成スル爲メニ招喚セラル可キ者ハ控訴裁判所長豫メ檢事長ノ意見ヲ聽キタル上ニテ之ヲ指定ス可シ

其指定ハ千八百十年七月六日ノ告令書第七十九條及ヒ第八十條ニ定メタル方法ニ從ヒ其期限內ニ之ヲ爲シ及ヒ之ヲ公布ス可シ

重罪裁判所ノ會議開始ノ日ヨリ後ハ其裁判所長ニ於テ正當ニ差支アル補佐官ノ引易ヲ設備ス可ク若シ又別段ノ理由アル時ハ補充ノ補佐官ヲ指定ス可シ(治二六三二六四)

第貳百五拾四條(千八百三十一年三月四日ノ法律ヲ以テ削除ス)

第貳百五拾五條(仝上)

第貳百五拾六條(千八百三十年十二月十日ノ法律ヲ以テ削除ス)

第貳百五拾七條　重罪裁判所ニ移ス事ニ付キ發言ヲ爲シタル控訴裁判所ノ

裁判官ハ其同一ノ事件ニ於テハ重罪裁判所ノ上席ヲ爲スヿヲ得ス又重罪裁判所長ノ補佐ヲ爲スヿヲ得ス若シ之ニ違フ時ハ無效タル可シ

豫審裁判官ニ付テモ亦之ト同一タル可シ(治五五二一八)

第貳百五拾八條　重罪裁判所ハ通常各州ノ首地ニ於テ之ヲ設ク可シ○然レトモ控訴裁判所ハ其首地ノ裁判所ヨリ更ニ他ノ裁判所ヲ指定スルヿヲ得可シ

第貳百五拾九條　重罪裁判所ノ開設ハ三月每ニ之ヲ爲ス可シ

若シ事務ノ需要ノ爲メニ已ムヲ得サル時ハ更ニ屢々重罪裁判所ヲ開設スルヿヲ得可シ

第貳百六拾條　重罪裁判所ヲ開始ス可キ日ハ重罪裁判所長之ヲ定ム可シ○重罪裁判所ハ其開始ノ時ニ於テ裁判シ得可キ景狀ニ至リタル總テ重罪ノ訴ヲ其裁判所ニ申告シタル後ニ非サレハ之ヲ閉ツ可カラス(治二六一三七二)

第貳百六拾壹條　重罪裁判所ノ開始ノ後ニ至リテ拘留場ニ入リタル重罪被告人ハ檢事長ノ請求アリテ重罪被告人ノ承諾シ且ツ裁判所長ノ命令アル

時ニ非サレハ其重罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヿヲ得ス○此場合ニ於テハ檢事長及ヒ重罪被告人ハ重罪裁判所ニ移送スルノ裁判ニ對シテ無效ヲ上訴スルノ權能ヲ拋棄シタルモノト看做ス可シ(治二九六以下)

第貳百六拾貳條　重罪裁判所ノ裁判ハ破毀ヲ求ムルノ方法ニ依リ且ツ法律上ニ定メタル法式ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ駁撃スルヿヲ得ス(治二九九以下三七三四○七四○八四一六)

第貳百六拾三條　若シ此法典第三百八十九條ニ據リ陪審員ニ爲シタル送付ノ後重罪裁判所長ノ其職務ヲ履行スル能ハサル事アル時ハ控訴裁判所ノ他ノ裁判官ニシテ右裁判所長ヲ補佐スル爲メニ撰任セラレ又ハ委任セラレタル者ノ中最先任ノ裁判官之ニ代ハル可ク若シ又控訴裁判所ノ裁判官ニシテ補佐官タル者アラサル時ハ始審裁判所長之ニ代ハル可シ(治二五三)

第貳百六拾四條　控訴裁判所ノ裁判官ノ不在又ハ總テ其他ノ差支ノ場合ニ於テハ同裁判所中ノ他ノ裁判官之ニ代ハル可ク若シ其アラサル時ハ始審裁判官之ニ代ハル可シ又始審裁判官ハ其補役之ニ代ハル可キモノトス

見習裁判官ニシテ現ニ出席シ且ツ必要ナル年齡ニ達シタル者ハ右ノ代理ニ付キ其受任ノ順序ニ從ヒ始審裁判官ト抗競ス可シ(本條第二項ハ千八百三十年十二月十日ノ法律ヲ以テ削除シタリ)

第貳百六拾五條　檢事長ハ現ニ出席シタル時ト雖モ自己ノ職務ヲ其代職中ノ一名ニ委任スルヿヲ得可シ

右ノ成規ハ控訴裁判所及ヒ重罪裁判所ニ共通ノモノトス(治二五二三七一)

○第壹款　裁判所長ノ職務

第貳百六拾六條　裁判所長ハ左ノ諸件ヲ委任セラルヽモノトス

第一　重罪被告人ノ拘留場ニ到着シタル時ニ於テ其申立ヲ聽ク事

第二　陪審員ヲ招集シテ之ヲ抽籤スル事

裁判所長ハ右ノ職務ヲ裁判官中ノ一名ニ委任スルヿヲ得可シ(治二九三三○六)

第貳百六拾七條　裁判所長ハ右ノ外陪審員ノ其職務ヲ執行スルニ當リテ之ヲ指令シ陪審員ノ評議ス可キ事件ヲ之ニ說明シ又然ノミナラス陪審員ニ

其本分ヲ心附ケ總テノ豫審ニ上席シ發言セント求ムル各人ノ間ニ於テ其順序ヲ定ムル事ヲ委任セラルヽモノトス

裁判所長ハ審問席ノ警察權ヲ有スルモノトス(治一八一三九三三一九三二七五〇四以下旧一〇以下六八以下刑二二二以下)

第貳百六拾八條 裁判所長ハ事實ヲ發見スルニ有益ナリト思考スル所ノ諸件ヲ己レ自カラ行フヿヲ得可キ無限ノ權力ヲ授與セラレ而シテ其名譽ト本心トニ從ヒ事實ヲ顯ハスヿヲ助クル爲メニ盡力勉勵ス可キ旨ヲ法律上ヨリ委任セラルヽモノトス(治四七七)

第貳百六拾九條 裁判所長ハ辯論ノ進行中ニ總テノ人ヲ假令勾引狀ヲ以テスルモ招喚シテ其申立ヲ聽キ又ハ重罪被告人若クハ各証人ノ審問席ニ於テ爲シタル新タナル表明ニ從ヒ其爭ヒアル所爲ヲ明瞭ナラシムルヲ得可シト思ハルヽ所ノ總テ新タナル証據物ヲ差出サシムルヿヲ得可シ

右ノ如クニ招喚セラレタル各証人ハ嘗ヲ爲スヿナク而シテ其申述ハ參照件ノヨト看做ス可シ(治九五九七以下三一五)

第貳百七拾條 裁判所長ハ其成果ヲシテ更ニ正確ナラシムルノ望ナク徒ヲニ辯論ヲ長引カシムル可キ諸件ヲ棄却セサル可カラス

○第貳款 控訴裁判所ニ於ケル檢事長ノ職務

第貳百七拾壹條 控訴裁判所ノ檢事長ハ本卷第一章ニ定メタル法式ニ從ヒ重罪裁判所ニ移サレタル各人ノ罪ヲ自カラ訴ヘ若クハ其代職ヲシテ之ヲ訴ヘシム可シ○其檢事長ハ其他ノ重罪ノ訴ヲ裁判所ニ申告スルヿヲ得ス若シ之ニ逆フ時ハ無效タル可ク且ツ別段ノ理由アル時ハ損害賠償ヲ求ムルノ訴ヲ受ク可シ(治二一七二四一三五〇刑一二二)

第貳百七拾貳條 檢事長又ハ其代職ノ証據物ヲ受取リタル時ハ直チニ重罪裁判所開始ノ時期ニ於テ辯論ヲ始ムルヿヲ得セシムル爲メ豫備ノ所爲ヲ行ヒ且ツ諸事ヲ整理スルニ付キ總テ其注意ヲ爲ス可シ(治一三三二四三三二四三二六〇二九一三〇三)

第貳百七拾三條 檢事長ハ辯論ニ立會ヒ刑ノ適用ヲ請求ス可ク又裁判宣告ノ席ニ出ツ可シ(治一五三一九〇二五二二六五三六二)

第貳百七拾四條　檢事長ハ職權上ヨリ若クハ司法卿ノ命令ニ依リ其知ル所ノ犯罪ヲ訴フ可キ旨ヲ檢事ニ委任スルモノトス（治二二、二、二四九、二五〇、二七五）

第貳百七拾五條　檢事長ハ控訴裁判所ヨリ若クハ官吏ヨリ若クハ各人民ヨリ直接ニ己レニ差出ス所ノ告發狀及ヒ告訴狀ヲ受取リテ之ヲ簿冊ニ記ス可シ

檢事長ハ右ノ告發狀及ヒ告訴狀ヲ檢事ニ送付スルモノトス（治三〇以下六三、六四）

第貳百七拾六條　檢事長ハ法律ノ名ヲ以テ其有益ナリト思考スル所ノ總テノ請求ヲ爲シ又裁判所ハ其証書ヲ檢事長ニ附與シテ之ヲ評議ス可キモノトス（治二二、四、二七七、二七八、四〇八）

第貳百七拾七條　檢事長ノ請求書ハ檢事長之ニ署名セサル可カラス又辨論ノ進行中ニ爲ス所ノ請求ハ書記之ヲ調書ニ書留メテ檢事長亦之ニ署名ス可シ而シテ又右ノ請求ニ付キ爲ス所ノ總テノ裁決書ハ上席シタル裁判官ト書記トニ於テ之ニ署名ス可キモノトス（治二七、八、三七〇、四〇八、四一〇）

第貳百七拾八條　若シ裁判所ニ於テ檢事長ノ請求ヲ聞屆ケサル時ハ之レカ爲メニ豫審ヲモ又裁判ヲモ差止ムルヿヲ得ス又之ヲ停止スルヿヲ得ス但シ裁判ノ後ニ至リ別段ノ理由アル時ハ檢事長ヨリ破毀ヲ得ント上告スルヿヲ得可シ（治四一、六以下）

第貳百七拾九條　總テノ司法警察官吏ハ勿論豫審裁判官ト雖モ檢事長ノ監視ヲ受クルモノトス

此法典第九條ニ從ヒ假令行政上ノモノタリトモ其職務ノ爲メ法律上ニテ司法警察ノ或ル所爲ヲ行フヿニ招喚セラレタル各人ハ此關係ノミニ付キ右ニ同シキ監視ヲ受クルモノトス（治九、二、七五、七、二四九）

第貳百八拾條　司法警察官吏及ヒ豫審裁判官ノ懈怠ノ場合ニ於テハ檢事長ヨリ之ニ告戒ヲ爲ス可シ但シ其告戒ハ檢事長特設ノ簿冊ニ之ヲ記載ス可キモノトス

第貳百八拾壹條　再犯ノ場合ニ於テハ檢事長ヨリ右ノ各員ヲ裁判所ニ告發ス可シ

檢事長ハ裁判所ノ許可ヲ以テ右ノ各員ヲ裁判官會議室ニ呼出サシム可シ」

裁判所ハ右ノ各員ニ向後更ニ謹愼ナル可キ旨ヲ命令シ且ツ其呼出ノ費用ト裁判書ノ寫取及ヒ送達ノ費用トヲ償還ス可キ旨ヲ言渡ス可シ(治二八〇二八二四一五四八三)

第貳百八拾貳條　若シ右ノ官吏カ如何ナル事件ノ爲メタルヲ問ハス簿冊ニ記載シタル告戒ノ日ヨリ起算シテ一年ヲ經サル前ニ更ニ再ヒ違實セラルル時ハ再犯ナリトス

第貳百八拾三條　檢事及ヒ裁判所長カ司法警察官又ハ豫審裁判官ノ職務ヲ履行スルヿヲ許サルヽ總テノ場合ニ於テハ此等ノ各員其各自己レノ職權ニ歸セラレタル職務ヲ其犯罪ノ地ノ郡又ハ然ノミナラス其地ニ接近シタル郡ノ檢事、豫審裁判官及ヒ治安裁判官ニ委付スルヿヲ得可シ但シ犯罪被告人ニ對シテ勾引狀、勾留狀、收監狀ヲ交付スルノ權力ハ之ヲ委付スルヿヲ得サルモノトス(治八三八四九〇三〇三三〇四八四四八八)

○第三款　重罪ニ於ケル檢事ノ職務

第貳百八拾四條　第二百五十三條ニ記シタル重罪ニ於ケル檢事ハ控訴裁判所々在ノ州ヲ除キ其他ノ各州ニ於テハ重罪裁判所ニ於テ檢事長ニ代ハルル可シ但シ檢事長ハ何時ニ限ラス自己ノ職務ヲ執行スル爲メ自カラ其重罪裁判所ニ赴クヿヲ得ルノ權能ト相觸ルヽヿナカル可キモノトス(治二七一)

(本款ノ成規中ニハ重罪ニ於ケル檢事ヲ廢止シタル千八百十五年十二月二十五日ノ法律以來無效トナリタルモノ少ナカラス)

第貳百八拾五條　其代職ハ州ノ首地ニ居住ス可シ

第貳百八拾六條　若シ首地ヨリ更ニ他ノ都府ニ於テ重罪裁判所ヲ設クル時ハ右ノ代職其都府ニ赴ク可シ

第貳百八拾七條　重罪ニ於ケル檢事ハ亦懲治警察控訴ノ豫審及ヒ裁判ニ於テ檢察官ノ職務ヲ履行ス可シ(治二〇二二四九二七四)

第貳百八拾八條　若シ重罪ニ於ケル檢事ニ一時差支アル場合ニ於テハ首地ノ始審裁判所ニ於ケル檢事之ニ代ハル可シ(治二六)

第貳百八拾九條　重罪ニ於ケル檢事ハ其州ノ司法警察官吏ヲ監視ス可シ(治

第貳百九拾條　重罪ニ於ケル檢事ハ重罪ノ事項懲治警察ノ事項及ヒ單一ナル警察ノ事項ニ於ケル其州ノ裁判上ノ景狀書ヲ三月毎ニ一回檢事長ニ差出シ又其請求ヲ受クル時ハ更ニ數回之ヲ差出ス可シ(治二七二四九)

○第三章　重罪裁判所ニ於ケル訴ノ手續

第貳百九拾壹條　重罪裁判所ニ移ス旨ヲ宣告シタル時若シ其訴ヲ控訴裁判所々在ノ地ニ於テ裁判ス可カラサル場合ニ於テハ檢事長ノ命令ヲ以テ其訴ノ書類ヲ二十四時內ニ其州ノ首地ノ始審裁判所ノ書記局又ハ指定セラルヽアリタル始審裁判所ノ書記局ニ送ル可シ

如何ナル場合ニ於テモ豫審裁判所ノ書記局ニ納メ置キタル有罪ノ証據物又ハ控訴裁判所ノ書記局ニ差出シタル有罪ノ證據物ヲ右ト同一ノ期限內ニ其訴ノ書類ヲ差送ル可キ書記局ニ納メテ相併合ス可シ(治一三三二九二以下)

第貳百九拾貳條　右ノ二十四時ハ重罪裁判所ニ移送スルノ裁判書ヲ重罪被告人ニ送達シタル時ヨリ之ヲ起算ス可シ

重罪被告人ノ若シ收監セラレタル時ハ右ト同一ノ期限內ニ重罪裁判所ヲ設ク可キ地ノ拘留場ニ送ラル可シ(治二四二二九一)

第貳百九拾三條　證據物ヲ書記局ニ差出シ且ツ重罪被告人ヲ拘留場ニ送リ屆ケタル後遲クモ二十四時內ニ重罪裁判所長又ハ其代理ヲ委任セラレタル裁判官ニ於テ右重罪被告人ヲ訊問ス可シ(治九三二六六)

第貳百九拾四條　重罪被告人ハ其辨護ニ於テ己レヲ補助スル爲メ代辨人ヲ撰ミタルヤ否ヲ申述ス可キノ催促ヲ受ケ若シ之ヲ撰マサル時ハ裁判官ヨリ其重罪被告人ノ爲メ即時ニ代辨人一名ヲ指定ス可シ若シ之ニ違フ時ハ其後ニ爲シタル諸件ハ總テ無效ナリトス

若シ重罪被告人ノ代辨人ヲ撰ム時ハ右ノ指定ヲ無效ノモノトシ而シテ其訴ノ手續ノ無效ヲ宣告ス可カラス(治三〇二三〇五三一一三一九三三五三九九四〇八、四六八)

第貳百九拾五條　重罪被告人ノ代辨人ハ控訴裁判所又ハ其管轄地內ノ代言人又ハ代書人中ヨリスルニ非サレハ其重罪被告人ニ於テ之ヲ撰ミ又ハ裁

判官ヨリ之ヲ指定スルヿヲ得ス但シ其重罪被告人カ重罪裁判所長ヨリ自己ノ血屬親又ハ朋友中ノ一名ヲ代辨人ト爲スノ許可ヲ得タル時ハ格別ナリトス

第貳百九拾六條 裁判官ハ右ノ外若シ重罪被告人ノ無效ニ於ケル訟求ヲ爲ス可キノ道理アリト思考スル場合ニ於テハ次キノ五日內ニ其申述ヲ爲ス可ク其期限ノ後ニ至リテハ最早受理セラレサル旨ヲ其重罪被告人ニ告知可スシ

本條及ヒ前二條ノ執行ハ調書ヲ以テ之ヲ証明シ而シテ其調書ハ重罪被告人、裁判官及ヒ書記ニ於テ之ニ署名ス可シ若シ重罪被告人ノ署名スルヿヲ知ラス又ハ署名スルヿヲ欲セサル時ハ調書ニ其旨ヲ記載ス可シ(治二六一三九七)

第貳百九拾七條 若シ重罪被告人ノ前條ニ從ヒ告知セラレサル時ハ其緘默ノ爲メニ無效ヲ蒙被ス可カラスシテ其重罪被告人ノ權利ヲ保存ス可シ但シ其重罪被告人ハ確定ノ裁判ノ後ニ至リテ其權利ヲ伸暢スルヿヲ得可キ

モノトス(治四〇八四一六)

第貳百九拾八條 檢事長ハ訊問ヨリ起算シテ右ニ同シキ期限內ニ其申述ヲ爲ス可ク若シ然ラサル時ハ第二百九十六條ニ記載シタル失權ヲ受ク可シ

第貳百九拾九條 (千八百五十三年六月十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)無效ニ於ケル訟求ハ左ニ記スル四箇ノ場合ニ於テ移送ノ裁判ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

第一 管轄違ノ原由ノ爲メ

第二 法律上ニテ其所爲ニ重罪ノ名稱ヲ附セサル時

第三 檢察官ノ申述ヲ聽カサリシ時

第四 若シ法律上ニ定メタル員數ノ裁判官ニ於テ其裁判ヲ爲サヽリシ時(治二三一三三四三六二四一六四二九)

第三百條 其申述ハ書記局ニ之ヲ爲サヽル可カラス

書記ノ其申述ヲ受ケタル後直チニ裁判書ノ副本ヲ控訴裁判所ノ檢事長ヨリ大審院ノ檢事長ニ送付シ而シテ大審院ニ於テハ總テノ事件ヲ止息シテ

宣告ス可キモノトス(治四一七四二五以下四二九)

第三百壹條 (千八百五十三年六月十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)無效ニ於ケル訟求ニ拘ハラス豫審ハ辨論ヲ除キテ其前ノ手續ニ至ル迄之ヲ繼續ス可シ

然レトモ若シ第二百九十六條ニ定メタル法式ヲ履行シ及ヒ其期限ノ終リシ後ニ右ノ訟求ヲ爲シタル時ハ辨論ノ開始及ヒ裁判ニ取掛ル可シ○其無效ニ於ケル訟求及ヒ其訟求ヲ起スノ基本タル憑據ハ重罪裁判所ノ確定ノ裁判アリシ後ニ非サレハ大審院ニ之ヲ附ス可カラス

原由ノ如何ヲ問ハス法律上ノ期限ノ終リシ後若クハ陪審抽籤ノ後其期限ノ經過中ニ爲シタル總テノ上訴ニ付テハ亦右ト同一ナリトス(治三〇三以下四一六以下)

第三百貳條 代辨人ハ重罪被告人ノ訊問ノ後之ト面談スルヿヲ得可シ

代辨人ハ亦總テノ證據物ヲ査視スルヿヲ得可シ但シ之ヲ移動スルヿヲ得ス又豫審ヲ遲延スルヿヲ得サルモノトス

第三百三條 若シ新タナル證人ノ申述ヲ聽ク可キ時其證人ノ重罪裁判所設置ノ地外ニ居住スルニ於テハ裁判所長又ハ之ニ代ハレル裁判官ヨリ右證人ノ證據申述ヲ聽カシムル爲メ其居住スル郡又ハ然ノミナラス更ニ他ノ郡ノ豫審裁判官ヲ委任スルヿヲ得可シ而シテ其豫審裁判官ハ證據ノ申述ヲ聽キタル後其申述書ニ封緘シテ之ヲ重罪裁判所ニ於テ職務ヲ執行ス可キ書記ニ差送ル可シ(治八三以下二八三)

第三百四條 裁判所長又ハ裁判所長ヨリ委任セラレタル裁判官ノ呼出ニ從ヒ出席セス而シテ其正當ノ差支アリシ旨ヲ證明セサル證人又ハ其證據ノ申述ヲ爲スヿヲ否拒スル證人ハ重罪裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケ第八十條ニ從ヒ罰セラル可シ

第三百五條 重罪被告人ノ代辨人ハ其辨護ノ爲メニ有益ナリト思考スル所ノ其訴ノ證據物ノ寫ヲ自己ノ費用ニテ收取シ又ハ收取セシムルヿヲ得可シ

重罪被告人ノ貢獻ノ如何ヲ問ハス又其場合ノ如何ヲ問ハス其重罪被告人

ニハ犯罪ヲ證明スル調書及ヒ證人ノ申述書ノ寫一通ノミヲ無費ニテ交付スヲ可キモノトス

裁判所長、裁判官及ヒ檢事長ハ本條ノ執行ヲ監視スヲ可キモノトス

第三百六條 若シ檢事長又ハ重罪被告人ニ於テ其事件ヲ陪審ノ第一回ノ集會ニ申告セサル可キ旨ヲ訟求スル爲メノ理由アル時ハ右ノ各員ヨリ延期ノ請願書ヲ重罪裁判所長ニ差出スヲ可シ

裁判所長ハ右ノ延期ヲ許ルスヲ可キヤ否ヲ決定スヲ可シ又裁判所長ハ職權上ヨリ延期スルヿヲ得可キモノトス(治二六六以下三五四)

第三百七條 若シ同一ノ犯罪ノ爲メ重罪被告人數名ニ對シテ數箇ノ重罪公訴狀ヲ作リタル時ハ檢事長ヨリ其併合ヲ請求スルヿヲ得可ク又然ノミナラス裁判所長ハ職權上ヨリ其併合ヲ命令スルヿヲ得可シ(治二二六二二七三〇八)

第三百八條 若シ一箇ノ重罪公訴狀ニ相率連セサル數箇ノ犯罪ヲ記載シタル時ハ檢事長ヨリ現時其犯罪中ノ一箇又ハ其中ノ或者ノミニ付キ重罪被

告人ヲ裁判ニ付スヲ可キ旨ヲ請求スルヿヲ得可ク又裁判所長ハ職權上ヨリ右ノ旨ヲ命令スルヿヲ得可シ

第三百九條 重罪裁判所開始ノ爲メニ定メタル日ニ至リ裁判官列席ノ上陪審員十二名ハ抽籤ニテ指定セラレタル順序ニ從ヒ重罪被告人ノ爲メニ設ケタル席ト相對シテ公衆關係各人及ヒ各證人ヨリ離レタル席ニ列坐スヲ可シ(治二六〇三九三以下四〇五)

○第四章 訊問、裁判及ヒ執行

○第壹節 訊問

第三百拾條 重罪被告人ハ逃走スルヲ防ク爲メ監守人ニ押送セラルヽノミニテ束縛ヲ受クルヿナク裁判所ニ出席スヲ可シ○裁判所長ハ重罪被告人ニ其姓名、年齡、職業、居所及ヒ出產ノ地ヲ問フヲ可シ

第三百拾壹條 裁判所長ハ重罪被告人ノ代辨人ニ其本心ニ反キ及ヒ法律ニ對スル尊敬ニ反キテ何事ヲモ言フヿヲ得ス且ツ禮節謙讓ヲ以テ發言セサル可カラサル旨ヲ告ク可シ(治二九四)

第三百拾貳條　裁判所長ハ帽ヲ脫シテ起立シタル陪審員ニ向ヒ左ノ演說ヲ爲ス可シ

汝等ハ重罪被告人某ニ對シテ申告セラレタル犯罪ノ微憑ヲ極メテ懇切ニ注意シテ調査スル事、重罪被告人ノ利益ヲモ又其重罪ヲ訴フル社會ノ利益ヲモ害セサル事、汝等ノ決斷ヲ爲シタル後ニ至ル迄ハ何人ヲモ接見セサル事、怨恨仇嫌ノ情ヲモ畏懼愛憐ノ情ヲモ挾マサル事、犯罪ノ微憑ト辨護ノ憑據トニ據リ汝等ノ本心及ヒ汝等ノ眞誠ナル心證ニ從ヒ正直自由ノ人ニ適スル公平確實ノ意ヲ以テ決定スル事ヲ神ト人トニ對シテ誓約ス可シ

陪審員ハ裁判所長ヨリ各自其姓名ヲ呼ハレタル上、手ヲ擧ケテ余之ヲ誓フト答フ可シ若シ之ニ逃フ時ハ無效ナリトス

第三百拾三條　其後直チニ裁判所長ハ重罪被告人ニ其將サニ聽ク可キ所ノモノニ注意ス可キ旨ヲ告ク可シ

裁判所長ハ重罪裁判所ニ移送スル旨ヲ記シタル控訴裁判所ノ裁判書ト重

罪公訴狀トヲ朗讀ス可キ旨ヲ書記ニ命令ス可シ

書記ハ高聲ニテ其朗讀ヲ爲ス可シ

第三百拾四條　其朗讀ノ後裁判所長ハ重罪公訴狀中ニ記載シタル所ノモノヲ重罪被告人ニ心附ケ而シテ其重罪被告人ニ向ヒ是レ汝ノ重罪ヲ訴ヘラレタル所ノモノナリ又汝ハ汝ニ對シテ差出サレタル犯罪ノ微憑ヲ聽ク可シト述フ可シ

第三百拾五條　檢事長ハ重罪公訴ノ旨趣ヲ說明シ然ル後自己ノ請求ニ依リ若クハ民事原告人或ハ重罪被告人ノ請求ニ依リ其申述ヲ聽ク可キ各證人ノ姓名表ヲ差出ス可シ

其姓名表ハ書記高聲ニテ之ヲ朗讀ス可シ

其姓名表ニハ證人訊問ヨリ少クモ二十四時前ニ檢事長又ハ民事原告人ヨリ重罪被告人ニ其姓名、職業、居住ヲ通知シタル證人又ハ重罪被告人ヨリ檢事長ニ右ノ諸件ヲ通知シタル證人ノミヲ記ス可シ但シ第二百六十九條ニ依リ裁判所長ニ附與シタル權能ト相觸ルヽヿナカル可キモノトス

故ニ重罪被告人及ヒ檢事長ハ通知ノ證書ニ指示セラレス又ハ明白ニ指定セラレサル證人ノ訊問ニ付キ故障ヲ申立ツルヿヲ得可シ

裁判所ハ其故障ノ申立ニ付キ直チニ裁定ヲ爲ス可シ(治八〇以下三二四五一〇以下)

第三百拾六條 裁判所ハ各證人ニ其特ニ設ケアル房室內ニ退ク可キ旨ヲ命令ス可シ○證人ハ其證據ヲ申述スル爲メノ外其室外ニ出ツ可カラス○裁判所長ハ若シ已ムヲ得サルニ於テハ證人ノ其證據ヲ申述スル前ニ犯罪ノ事及ヒ重罪被告人ノ事ニ付キ互ニ商議スルヿヲ防止スル爲メノ豫防ヲ爲ス可シ

第三百拾七條 各證人ハ檢事長ノ定メタル順序ヲ以テ各自別々ニ其證據ヲ申述ス可シ○各證人ハ證據ヲ申述スル前ニ怨恨畏懼ナク發言シ且ツ遺漏ナク正實ヲ述ヘ正實ノ外述ヘサル可キノ誓ヲ爲ス可シ若シ之ニ違フ時ハ無效ナリトス

裁判所長ハ各證人ニ其姓名、年齡、職業、住所又ハ居住ヲ問ヒ又重罪公訴狀ニ

記シタル所爲ノ前ヨリ其重罪被告人ヲ知ルヤ又重罪被告人若クハ民事原告人ノ血屬親又ハ姻屬親タルヤ又如何ナル級ノ血屬親又ハ姻屬親タルヤヲ問ヒ又重罪被告人若クハ民事原告人ノ使用ヲ受クル者タラサルヤ否ヲ問ヒ此等ノ事ヲ爲シタル上、各證人口上ニテ其證據ヲ申述ス可シ(治七三、七五、七九、一五五以下一八九三一六三一八以下三三〇四〇八四七七五一〇)

第三百拾八條 裁判所長ハ證人ノ證據ノ申述ト其以前ノ申述トノ間ニ存在スルヿアル所ノ增加、變更、差異ヲ書記ヲシテ書留メシム可シ

檢事長及ヒ重罪被告人ハ右ノ變更、增加、差異ヲ書留メシムルヿヲ裁判所長ニ請求スルヿヲ得可シ(治三七一)

第三百拾九條 各其証人ノ其證據ヲ申述シタル後裁判所長ヨリ證人ニ其述フル所ノ事ハ現ニ其席ニ在ル重罪被告人ニ關スルヤヲ問ヒ然ル後重罪被告人ニ其已レニ對シテ述ヘラレタル所ノモノニ答辨セント欲スルヤヲ問フ可シ

證人ノ其證據ヲ申述スル間ハ之ヲ中斷スルヿヲ得ス又重罪被告人又ハ其

代辨人ハ證人ノ其證據ヲ申述シタル後裁判所長ヲ經テ之ニ問フヿヲ得可ク且ツ其證人ト其證據トニ對シテ重罪被告人ノ辨護ノ爲メニ有益ナルヿアル可キ諸件ヲ述フルヿヲ得可シ

裁判所長モ亦事實ヲ發見スルニ必要ナリト思考スル總テノ辨明ヲ證人及ヒ重罪被告人ニ問ヒ求ムルヿヲ得可シ

裁判官、檢事長及ヒ陪審員ハ裁判所長ニ發言ノ權利ヲ求メタル上ニテ右ニ同シキ權能ヲ有ス可シ○民事原告人ハ裁判所長ヲ經由スルニ非サレハ證人若クハ重罪被告人ニ問ヲ爲スヿヲ得ス

第三百貳拾條　各證人ハ其證據ヲ申述シタル後陪審員ノ其決斷ヲ爲ス爲メ引退クルニ至ル迄聽訟席ニ留マリ居ル可シ但シ裁判所長ヨリ之ニ異ナリタル命令ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス

第三百貳拾壹條　檢事長及ヒ民事原告人ヨリ差出シタル證人ヲ訊問シタル後重罪被告人ハ重罪公訴狀ニ記載シタル所爲ニ付キ若クハ自己ノ榮譽ア リ、正直ニシテ且ツ非難ス可カラサル品行ノ人タル旨ヲ證セシムル爲メ其

姓名表ヲ送付シ證キタル證人ノ申述ヲ聽カシム可シ

重罪被告人ノ請願ニ依リ爲シタル呼出並ニ呼出サレタル證人ノ謝金ヲ得ント請求スル時其謝金ハ重罪被告人ノ費用タル可シ但シ檢事長ノ重罪被告人ヨリ指示シタル證人ノ申述ヲ以テ事實ヲ發見スルニ有益ナリト思考スル場合ニ於テハ檢事長ニ於テ其請願ニ依リ右ノ證人ヲ呼出サシムルヿヲ得可キモノトス(治三一三三二四)

第三百貳拾貳條　左ノ各人ノ證據ノ申述ハ之ヲ受クルヿヲ得ス

第一　重罪被告人又ハ現ニ出席シテ同一ノ辨論ヲ受クル重罪被告人中一名ノ父母、祖父母又ハ總テ其他ノ尊屬親

第二　子、女、孫男、孫女又ハ總テ其他ノ卑屬親

第三　兄弟姉妹

第四　右ト同級ノ姻屬親

第五　離婚ヲ宣告セラレタル後ト雖モ夫及ヒ婦

第六　其告發ニ付キ法律上ニテ金圓ノ褒賞ヲ受クル告發人

然レ𪜈若シ檢事長若クハ民事原告人若クハ重罪被告人ニ於テ右ニ指示シタル各人ノ證據申述ヲ聽クヿニ付キ故障ヲ申立テサル時ハ其各人ノ證據申述ヲ聽キタルカ爲メニ無效ヲ作爲スルヿヲ得サルモノトス(治三〇以下七九一五六三二三三五八五一〇以下刑三四ノ第三四二ノ第八四三)

第三百貳拾三條 法律上ニテ金圓ノ褒賞ヲ受クル者ニ非サル告發人ハ其證據ノ申述ヲ聽クヿヲ得可シ然レ𪜈其告發人タルノ分限ヲ陪審ニ告ク可キモノトス(治三〇三二二)

第三百貳拾四條 檢事長又ハ重罪被告人ヨリ差出シタル證人ハ假令豫メ書面ヲ以テ其證據ヲ申述シタルヿナキ時又ハ呼出ヲ受ケシヿナキ時ト雖モ辨論ニ於テ其證據ノ申述ヲ聽カル可シ但シ如何ナル場合ニ於テモ其證人カ第三百十五條ニ記シタル姓名裏中ニ載セラレシ者タルヿヲ必要トス

第三百貳拾五條 各證人ハ如何ナル者ヨリ差出サレタルヲ問ハス決シテ相互ニ問糺スヿヲ得ス

第三百貳拾六條 重罪被告人ハ各證人ノ證據ヲ申述シタル後其指定スル所ノ證人ヲ聽訟席ヨリ引退カシメ而シテ又其證人中ノ一名又ハ數名ヲ各自別々ニ若クハ相互ノ面前ニ於テ更ニ再ヒ出席セシメテ之レカ申述ヲ聽クヿヲ可キ旨ヲ求ムルヿヲ得可シ

檢事長ハ亦之ト同一ノ權能ヲ有スルモノトス

裁判所長モ亦職權上ヨリ右ノ旨ヲ命令スルヿヲ得可シ(治三一六三二〇)

第三百貳拾七條 裁判所長ハ證人ノ訊問前又ハ其訊問中又ハ其訊問後ニ重罪被告人一名又ハ數名ヲ引退カシメテ訴ノ或ル景況ニ付キ別々ニ其重罪被告人ヲ訊問スルヿヲ得可シ然レ𪜈各重罪被告人ニ其不在ノ席ニ於テ爲シタル所ノモノ及ヒ其成果タル所ノモノヲ告知シタル後ニ非サレハ更ニ再ヒ總体ノ辨論ニ取掛ヲサル様注意ス可キモノトス(治二六七二六八)

第三百貳拾八條 訊問ノ間ニ陪審員檢事長及ヒ裁判官ハ證人ノ申述若クハ重罪被告人ノ辨護ニ於テ其重要ナリト思考スル所ノモノヲ書留ムルヿヲ得可シ但シ之レカ爲メニ辨論ヲ中斷セサルヿヲ必要トス(治三一八三七二)

第三百貳拾九條 證人ノ證據ヲ申述スル間又ハ其後ニ裁判所長ヨリ犯罪ニ

關スル證據物ニシテ有罪ノ證トナル可キ諸件ヲ重罪被告人ニ示サシメ重罪被告人ノ若シ之ヲ認定スルニ於テハ自カラ之ニ答フ可キ旨ヲ要求ス可シ又裁判所長ハ右ノ證據物ヲ證人ニ示ス可キ時ハ亦之ヲ證人ニ示サシム可キモノトス(治三五八七)

第三百三拾條 若シ辨論ノ後ニ證人ノ證據申述カ詐僞ノモノナリト思ハルル時ハ裁判所長ハ檢事長若クハ民事原告人若クハ重罪被告人ノ請求ニ依リ又然ノミナラス職權上ニテ即時ニ其證人ヲ拘留セシムルヿヲ得可シ○檢事長ハ右ノ證人ニ關シテハ司法警察官ノ職務ヲ履行ス可ク又裁判所長或ハ裁判所長ヨリ委任セラレタル裁判官一名ハ右ノ證人ニ關シテハ其他ノ場合ニ於テ豫審裁判官ノ職權ニ歸セラレタル職務ヲ履行ス可シ然ル後豫審ノ證據物ヲ控訴裁判所ニ送付シ其裁判所ニ於テ重罪裁判所ニ移ス事ニ付キ裁定ヲ爲ス可キモノトス(治四四五四四四六刑三六一)

第三百三拾壹條 前條ノ場合ニ於テハ檢事長民事原告人又ハ重罪被告人ヨリ最近ノ會職ニ其事件ヲ移サントト直チニ請求スルヿヲ得可ク又裁判所ハ

職權上ニテモ右ノ旨ヲ命令スルヿヲ得可シ(治三〇六三五四四〇六)、

第三百三拾貳條 若シ重罪被告人、證人又ハ其中ノ一人カ同一ノ國語又ハ同一ノ土音ヲ用ヒサル場合ニ於テハ裁判所長ヨリ其職權上ニテ少クモ二十一歳ノ年齡ニ達シタル通辨人一名ヲ撰任ス可ク若シ之ニ違フ時ハ無效ナリトス又裁判所長ハ其通辨人ヲシテ相異ナレル國語ヲ用フル所ノ各人ノ間ニ於テ通ス可キ言詞ヲ正實ニ譯解ス可キノ誓ヲ爲サシム可ク若シ之ニ違フ時ハ亦無效ナリトス

重罪被告人及ヒ檢事長ハ通辨人ヲ忌避スルノ理由ヲ附シテ之ヲ忌避スルヿヲ得可シ

裁判所ニ於テハ其裁定ヲ宣告ス可シ

通辨人ハ重罪被告人ノ承諾ニ依ルモ又檢事長ノ承諾ニ依ルモ證人、裁判官及ヒ陪審員ノ中ヨリ之ヲ撰擇スルヿヲ得ス若シ之ニ違フ時ハ無效ナリトス(治七三三九九四〇八)

第三百三拾三條 若シ重罪被告人カ聾啞者ニシテ且ツ文字ヲ書スルヿヲ知

ヲサル時ハ裁判所長ノ職權上ニテ其重罪被告人ト應接スルヿニ最モ慣熟シタル者ヲ其通辨人トシテ撰任ス可シ

聾啞者タル證人ニ關シテモ亦右ト同一タル可シ

右ノ外前條ノ成規ヲ執行ス可キモノトス

若シ聾啞者カ文字ヲ書スルヿヲ知ル時ハ書記ニ於テ其聾啞者ニ爲ス可キ査問及ヒ注意ヲ書取リテ之ヲ其重罪被告人又ハ證人ニ交付シ其重罪被告人又ハ證人ハ其答詞又ハ申述ヲ書面ニ記シテ差出ス可シ○右ノ諸件ハ書記之ヲ朗讀ス可シ

第三百三拾四條 裁判所長ハ若シ主タル重罪被告人アル時ハ其重罪被告人ヨリ始メ重罪被告人數名中ニテ最初ニ辨論ヲ受ク可キ者ヲ定ム可シ

然ル後他ノ重罪被告人各員ニ付キ別段ノ辨論ヲ爲ス可キモトス(治二六七以下)

第三百三拾五條 證人ノ其證據ヲ申述シ及ヒ其證據ノ申述ニ付キ各自申立ヲ爲シタル後民事原告人又ハ其代辨人及ヒ檢事長ヨリ申其述ヲ爲シテ重罪

公訴ノ憑據タル諸件ヲ辨明ス可シ

重罪被告人及ヒ其代辨人ハ之ニ答フルヿヲ得可シ○民事原告人及ヒ檢事長ハ更ニ之ニ答フルヿヲ許サル、モノトス然レ𪜈重罪被告人又ハ其代辨人ハ常ニ必ス最後ニ發言ヲ爲スヿヲ得可シ

然ル後裁判所長ハ辨論ノ終リタル旨ヲ宣告ス可シ(治一五三一九〇)

第三百三拾六條 (千八百八十一年六月十九日ノ法律)裁判所長ハ辨論ノ終リタル後重罪公訴及ヒ辨護ノ憑據ヲ縮約スルヿヲ得ス若シ之ニ違フ時ハ無效ナリトス

裁判所長ハ陪審員ニ其履行ス可キ職務ヲ心附ケ且ツ以下ニ記スル如クニ問ヲ爲ス可シ

第三百三拾七條 重罪公訴狀ニ因レル問ハ左ノ詞ヲ以テス可シ、

重罪被告人ハ重罪公訴狀ノ縮約文中ニ載セタル總テノ景況ヲ以テ云々ノ故殺云々ノ盜罪又ハ其他云々ノ重罪ヲ犯シタルヤ

第三百三拾八條 若シ辨論ニ依リ重罪公訴狀ニ記載セサルモノニシテ罪ヲ

重劇ナラシムル一箇又ハ數箇ノ景況ヲ知リ得タル時ハ裁判所長ヨリ左ノ問ヲ附加ス可シ

重罪被告人ハ云々ノ景況ヲ以テ其重罪ヲ行ヒタルヤ

第三百三拾九條 若シ重罪被告人ノ法律上ニ宥恕ノ理由トシテ許サレタル一箇ノ所爲ヲ其宥恕ノ理由トシテ申立テタル時ハ裁判所長ヨリ左ノ如キ問ヲ爲ス可シ若シ之ニ逐フ時ハ無效ナリトス

右ノ所爲ハ確實ナリヤ(治三六七刑三二一)

第三百四拾條 若シ重罪被告人ノ十六歲以下ナル時ハ裁判所長ヨリ左ノ問ヲ爲ス可ク若シ之ニ逐フ時ハ無效ナリトス

重罪被告人ハ是非ノ辨別アリテ行ヒタルヤ(刑六六)

第三百四拾壹條 (千八百五十三年六月九日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)總テ重罪ノ事項ニ於テハ假令再犯ノ場合ト雖モ裁判所長ヨリ重罪公訴狀及ヒ辨論ニ因レル問ヲ爲シタル後若シ陪審ノ多數ニ於テ其有罪ナリト認メラレタル重罪被告人一名又ハ數名ノ爲メニ減輕ス可キ景況アリト思フ時

ハ左ノ詞ヲ以テ其決斷ヲ爲サヽル可カラサル旨ヲ陪審ニ告ク可ク若シ之ニ逐フ時ハ無效ナリトス

多數ニ於テ重罪被告人ノ爲メニ減輕ス可キ景況アリトス

然ル後裁判所長ヨリ其問ヲ記シタル書面ヲ陪審ニ宛テ陪審長ニ交付シ且ツ重罪公訴狀及ヒ犯罪ヲ證明スル調書ト證人ノ申述書ヲ除クノ外總テ其訴ノ證據物トヲ之ニ添ユ可シ

裁判所長ハ總テ秘密ノ投票ヲ以テ決議ヲ爲サヽル可カラサル旨ヲ陪審ニ告ク可シ○裁判所長ハ重罪被告人ヲ聽訟席ヨリ引退カシム可シ

第三百四拾貳條 陪審員ニ問ヲ爲シ且ツ其問ヲ記シタル書面ヲ陪審員ニ交付シタル上ニテ陪審員ハ評議ヲ爲ス爲メ其室內ニ赴ク可シ

第一番ノ籤ヲ抽キタル陪審員ヲ以テ陪審長ト爲シ又ハ其陪審員ノ承諾ノ上陪審全員ノ指定シタル者ヲ以テ陪審長ト爲ス可シ

陪審長ハ評議ヲ始ムル前ニ左ノ心得書ヲ陪審員ニ讀聞カス可シ但シ其心得書ハ右ノ外大字ニ書シテ陪審室內ノ最モ著明ナル場所ニ貼附ス可キモ

ノトス

法律ハ陪審員ノ心證ノ原因ト爲ス憑據ヲ陪審員ニ問フモノニ非ス又法律ハ陪審員ニ於テ一箇ノ證據ノ完全ニシテ充分ノモノタルヲ特ニ識別ス可キ規則ヲ陪審員ノ爲メニ定ムルモノニ非ス唯法律ハ陪審員ノ靜默沈思シテ自カラ己レニ問ヒ其重罪被告人ニ對シテ差出シタル證據及ヒ其重罪被告人ノ辨護ノ憑據カ其辨理心ニ如何ナル感ヲ生セシメタルヤヲ其本心ノ誠實ニ於テ査考ス可キ事ヲ陪審員ノ爲メニ定ムルモノトス

○法律ハ陪審員ニ向ヒ汝等ハ若干ノ證人ノ證スル所爲ハ總テ之ヲ眞正ナリト爲ス可シト言フニ非ス又汝等ハ云々ノ調書云々ノ證據物若干ノ證人又ハ若干ノ證憑ヨリ成ヲサル所ノ證據ハ總テ充分ノ證アルモノト看做ス可カラスト言フニ非ス法律ハ唯陪審員ノ本分ノ主要タル唯一ノ問トシテ汝等ハ眞誠ナル心證ヲ有スルヤト云ヘル問ヲ爲スノミ

陪審ノ辨眼セサルヲ得サル緊要ノモノハ凡ソ陪審ノ評議ハ重罪公訴狀ニ關スルニ依リ陪審ハ只管其重罪公訴狀ニ載スル所爲及ヒ之ニ附屬ス

ル所爲ノミニ留意ス可ク然ルニ若シ刑法ノ成規ヲ考ヘテ其爲ス可キ所ノ決斷カ重罪被告人ニ關シテ生セシムルヿアル可キ效果ヲ思フ時ハ其第一ノ本分ニ背クモノタルニアリ○陪審ノ職務ハ犯罪ノ起訴ヲモ又其懲罰ヲモ目的ト爲スモノニ非ス陪審ハ唯重罪被告人ノ其歸セラレタル重罪ヲ犯シタルヤ否ヲ決スル爲メニ招喚セラルヽモノタリ

第三百四拾三條　陪審員ハ其決斷ヲ爲シタル後ニ非サレハ其室ヲ出ルヿヲ得ス

其評議中ハ如何ナル原由ノ爲メト雖モ裁判所長ヨリ書面ニ依レル許ヲ得タル上ニ非サレハ其室內ニ入ルヿヲ許サス

裁判所長ハ重罪裁判所諸憲兵ノ長ニ陪審室ノ出入口ヲ監守セシムル特別ノ命令書ヲ附與ス可シ但シ其命令書中ニハ右憲兵長ノ姓名及ヒ其官名ヲ記ス可シ

裁判所ハ逃犯シタル陪審員ヲ多クトモ五百フランクノ罰金ニ處スルヿヲ得可シ○總テ其他ノ各人ニシテ右ノ命令ニ違背シタル者又ハ其命令ヲ執行

セシメサル者ハ二十四時間禁錮ノ刑ニ處スルヿヲ得可シ(治三五三)

第三百四拾四條　陪審員ハ主タル所爲ニ付キ評議ヲ爲シ然ル後各箇ノ景況ニ付キ評議ヲ爲ス可シ

第三百四拾五條　(千八百三十五年九月九日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)陪審長ハ第三百三十六條ニ記シタル如クニ爲シタル各箇ノ問ヲ逐次朗讀シ然ル後其主タル所爲及ヒ罪ヲ重劇ナラシムル景況ト罪ヲ減輕ス可キ景況ノ存在トニ付キ秘密ノ投票ヲ以テ決議ヲ爲ス可シ

第三百四拾六條　(千八百三十五年九月九日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)第三百三十九條及ヒ第三百四十條ニ定メタル場合ニ於テ爲ス所ノ問ニ付テモ亦右ニ同シク且ツ秘密ノ投票ヲ以テ處分ス可シ

第三百四拾七條　(千八百五十三年六月九日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)重罪被告人ニ對シ並ニ罪ヲ減輕ス可キ景況ニ付テノ陪審ノ決定ハ多數ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノトス○陪審ノ決斷書ニハ其多數ナルヿヲ證明ス可シト雖モ其可トスル者ノ員數ヲ明示スルヿヲ得サルモノトス若シ右ノ諸件

ニ違フ時ハ無效タル可シ

第三百四拾八條　然ル後陪審員ハ再ヒ聽訟席ニ歸リテ更ニ其坐席ニ就ク可シ

裁判所長ハ陪審員ノ評議ノ成果如何ヲ陪審員ニ問フ可シ

陪審長ハ起立シテ其心臟ノ上ニ手ヲ置キテ左ノ如ク述フ可シ

我カ榮譽及ヒ我カ本心ニ於テ神ト人トニ對シテ陪審ノ決斷ハ然リ重罪被告人ハ云々ナリ又ハ否重罪被告人ハ云々ナリ

第三百四拾九條　陪審ノ決斷書ハ陪審員ノ面前ニ於テ陪審長之ニ署名シ而シテ陪審長ヨリ之ヲ裁判所長ニ交付ス可シ

裁判所長ハ之ヲ裁判所長ニ署名シ且ツ書記ヲシテ之ニ署名セシム可シ

第三百五拾條　陪審ノ決斷ハ決シテ之ヲ取消サント訟求スルヿヲ得サルモノトス(治三六〇)

第三百五拾壹條　(千八百三十一年三月四日ノ法律ヲ以テ削除ス)

第三百五拾貳條　(千八百五十三年六月九日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)重

罪被告人ノ有罪ナリト認メラレタル場合ニ於テ若シ裁判所ニ於テ陪審員ノ法式ヲ遵守スルト雖モ本案ニ付キ思錯シタリト確信スル時ハ其裁判ヲ延期スル旨ヲ宣告シテ次キノ會議ニ於テ更ニ新タナル陪審ニ附スル爲メ其事件ヲ次キノ會議ニ移送ス可シ但シ其取消サレタル決斷ニ參加シタル陪審員ハ一人タリトモ其新タナル陪審中ニ加ハルヿヲ得サルモノトス

何人タリトモ右ノ處分ヲ訟求スルノ權利ヲ有セス○裁判所ハ陪審ノ決斷ヲ公ケニ宣告シタル後直チニ職權上ノミニテ右ノ處分ヲ命令スルヿヲ得可シ

第二ノ陪審ノ決斷ノ後ハ假令其決斷カ第一回ノ決斷ニ符合シタル時ト雖モ裁判所ヨリ更ニ再ヒ移送ヲ命令スルヿヲ得ス(治三五〇刑一八一以下)

第三百五拾三條 訊問及ヒ辯論ノ一度始マリタル上ハ陪審ノ決斷ノ後ニ至ル迄間斷ナク且ツ如何ナル種類ノモノタルヲ問ハス外人ト接見通信ヲ爲スヿナク之ヲ繼續ス可シ○裁判所長ハ裁判官、陪審員、證人及ヒ重罪被告人ノ休息ノ爲メニ必要ナル時間ノ外其訊問及ヒ辯論ヲ停止スルヿヲ得ス(治

三一二三四三三五四)

第三百五拾四條 若シ呼出サレタル證人ノ出席セサル時ハ裁判所ニ於テ姓名表ニ記入シタル最初ノ證人ノ證據申述ヲ以テ辯論ヲ開始スル前ニ檢事長ノ請求ニ依リ右ノ事件ヲ最近ノ會議ニ移送スルヿヲ得可シ(治四〇六)

第三百五拾五條 若シ證人ノ出席セサル爲メ次キノ會議ニ其事件ヲ移送シタル時ハ凡ソ其事件ヲ裁判セシムルヲ以テ目的ト爲ス呼出ノ費用、證書ノ費用、證人旅行ノ費用及ヒ其他ノ費用ハ其證人ノ負任タル可シ而シテ其證人ハ檢事長ノ請求ニ依リ次キノ會議ニ辯論ヲ移送スル旨ノ裁判ヲ以テ假令拘留ノ方法ヲ以テスルモ强テ右ノ費用ヲ償還セシム可キモノトス

其裁判官ニハ右ノ外裁判所ニ於テ其證人ヲ訊問スル爲メ公力ヲ以テ之ヲ裁判所ニ送致ス可キ旨ヲ命令ス可シ

然レトモ凡ソ如何ナル場合ニ於テモ出席セサル證人又ハ證ヲ爲ス事若クハ證據ノ申述ヲ爲スヿヲ否拒スル所ノ證人ハ第八十條ニ載セタル刑ヲ言渡サル可シ(治一五七以下、一八九三〇四)

第三百五拾六條　其言渡ヲ受ケタル證人ハ自身又ハ其住所ニ其言渡書ノ送達ヲ受ケタル時ヨリ十日内ニ其言渡ニ對シテ故障申立ヲ爲スヿヲ得可シ但シ五〔ミリアメートル〕毎ニ一日ヲ加フ可キモノトス而シテ其證人ニ正當ノ差支アリ又ハ其證人ニ對シテ宣告シタル罰金ヲ更ニ減ス可キ旨ヲ證スル時ハ其故障申立ヲ受理ス可キモノトス

○第貳節　裁判及ヒ執行

第三百五拾七條　裁判所長ハ重罪被告人ヲ出席セシメ書記ハ其面前ニ於テ陪審ノ決斷書ヲ朗讀ス可シ（治三一〇）

第三百五拾八條　重罪被告人ノ無罪ナリト決斷セラレタル時ハ裁判所長ヨリ其重罪ノ公訴ヲ免スル旨ヲ宣告シ且ツ其他ノ原由ノ爲メニ拘留セラレサル時ハ之ヲ釋放ス可キ旨ヲ命令ス可シ

然ル後關係各人ノ其相手方ヨリ要求スル損害賠償ニ付キ其拒訴ノ憑據又ハ其辨償ヲ申立テ且ツ檢事長ノ申立ヲ聽キタル後裁判所ニ於テ其各自相互ニ要求スル損害賠償ニ付キ裁定ヲ爲ス可シ

然レ𪜈若シ裁判所ニ於テ適當ナリト思考スル時ハ關係各人ノ申立ヲ聽キ、證據物ヲ査覈シテ審問席ニ其報告ヲ爲サシムル爲メ裁判官一名ヲ委任スルヿヲ得可シ但シ關係各人ハ其審問席ニ於テ尚ホ其意見ヲ申立ツルヿヲ得可ク且ツ其審問席ニ於テハ更ニ再ヒ檢察官ノ申立ヲ聽ク可キモノトス」

放免セラレタル重罪被告人ハ誣告ノ所爲ノ爲メ其告發者ニ對シテ亦損害賠償ヲ得ント求ムルヿヲ得可シ然レ𪜈設置セラレタル官憲ノ各員ハ其職務ノ執行ニ於テ知リ得タリト思フ處ノ犯罪ニ關シテ附與ス可キ通知ノ爲メ右ノ如クニ訴ヘラルヽヿナカル可シ但シ別段ノ理由アル時ハ其官憲ノ各員ニ對シテ損害賠償ヲ得ント訟求スルヿヲ得可キモノトス

檢事長ハ重罪被告人ノ請求ニ依リ其告發者ヲ知ラシム可キモノトス（治三〇以下六六以下一六一二九一二九五三六〇三六四三六六四〇九四一二刑一〇五一三七三）

第三百五拾九條　重罪被告人ヨリ其告發者又ハ民事原告人ニ對シ若クハ民事原告人ヨリ重罪被告人又ハ刑ヲ言渡サレタル者ニ對シテ爲ス所ノ損害賠償ノ訟求ハ重罪裁判所ニ之ヲ申告ス可シ

民事原告人ハ裁判ノ前ニ其損害賠償ノ訟求ヲ爲ス可ク其後ニ至リテハ其訟求ヲ受理ス可カラス

重罪被告人ノ若シ其告發者ヲ知リタル時ハ亦右ト同一ナリトス

重罪被告人ノ裁判ノ後ニシテ會議ノ終ラサル前ニ其告發者ヲ知リタル場合ニ於テハ重罪裁判所ニ其訟求ヲ申告ス可ク若シ然ラサル時ハ失權ヲ受ク可シ若シ又重罪被告人ノ會議ノ終リタル後ニ其告發者ヲ知リタル時ハ民事裁判所ニ其訟求ヲ申告ス可シ

訴ノ關係人タラサル第三ノ人ニ付テハ其第三ノ人ハ民事裁判所ニ申告ス可キモノトス(治三〇以下六六以下三五八三六六)

第三百六拾條 法ニ適シテ放免セラレタル各人ハ最早其同一ノ所爲ノ爲メニ再ヒ逮捕セラルヽヿナカル可ク又重罪ヲ訴ヘラルヽヿナカル可シ(治二四六三五〇四〇九)

第三百六拾壹條 若シ辯論中ニ重罪被告人カ證據物ニ依ルト證人ノ證據申述ニ依ルトヲ問ハス其他ノ所爲ニ付キ訴ヲ受ケタル時ハ裁判所長ニ於テ

其重罪被告人ノ重罪ノ公訴ヲ免セラレタル旨ヲ宣告シタル後其重罪被告人ノ更ニ新タナル所爲ノ爲メニ其罪ヲ訴ヘラル可キ旨ヲ命令ス可シ依テ裁判所長ハ第九十一條ニ定メタル差別ニ從ヒ召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル狀狀ニ於テ又別段ノ理由アル時ハ收監狀ヲ受ケタル狀狀ニ於テ其重罪被告人ヲ重罪裁判所々在ノ郡ノ豫審裁判官ノ面前ニ移送シ更ニ再ヒ豫審ヲ受ケシム可シ

然レ𪜈右ノ成規ハ辯論ノ終ラサル前ニ檢察官ニ於テ犯罪ノ訴ノ爲メ權利ノ貯存ヲ爲シタル場合ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラサルモノトス(治三三八三七九)

第三百六拾貳條 若シ重罪被告人ノ有罪ナリト決斷セラレタル時ハ檢事長ヨリ法律適用ノ爲メ裁判所ニ其請求ヲ爲ス可シ

民事原告人ハ物件返還及ヒ損害賠償ノ爲メ自己ノ請求ヲ爲ス可シ(治三五九)

第三百六拾三條 裁判所長ハ重罪被告人ニ自己ノ辯護ノ爲メ別ニ申立ツ可キヿヤヲ問フ可シ

重罪被告人モ又其代辨人モ最早其所爲ノ僞タル旨ヲ辨論スルヲ得ス唯其所爲ノ法律上ニテ禁止セラレス又ハ法律上ニ犯罪ノ名稱ヲ附セラレス又ハ其所爲ノ檢事長ヨリ適用ヲ請求シタル刑ニ當ラス又ハ其所爲ノ民事原告人ノ爲メニ損害賠償ヲ惹起スルモノニ非ス又ハ民事原告人ノ其已レニ受ク可キ損害賠償ノ高ヲ過分ニ申立テタルヿノミヲ辨論スルヲ得可シ

第三百六拾四條 裁判所ハ若シ重罪被告人ノ罪ヲ犯シタリト決斷セラレタル所爲カ刑事ノ法律上ニ禁止セラレタルモノニ非サル時ハ其重罪被告人ノ不問ヲ宣告ス可シ(治二二九二九九四〇九四一〇四二九)

第三百六拾五條 若シ其所爲ノ禁止セラレタルモノナル時ハ假令辨論ニ據リ其所爲ノ重罪裁判所ノ管轄内ニアラサルモノタルヿノ知レシ場合ト雖モ裁判所ヨリ法律上ニ定メタル刑ヲ宣告ス可シ

數箇ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタルノ證アル場合ニ於テハ最モ重キ刑ノミヲ宣告ス可シ(治一九二刑二二〇二四五)

第三百六拾六條 不問ノ場合ニ於テモ放免又ハ刑ヲ言渡シタル場合ニ於ケ

ルカ如ク裁判所ニ於テ民事原告人又ハ重罪被告人ヨリ要求シタル損害賠償ニ付キ裁定ヲ爲ス可シ又裁判所ハ其同一ノ裁判書ヲ以テ損害賠償ノ額ヲ算定シ又ハ第三百五十八條ニ記シタル如ク關係人ノ申立ヲ聽キ、證據物ヲ査視シテ其諸件ニ付キ報告ヲ爲サシムル爲メ裁判官一名ヲ委任ス可シ」

裁判所ニ於テハ亦其奪取セシ物品ヲ所有者ニ返還ス可キ旨ヲ命令ス可シ」

然レトモ若シ刑ノ言渡アリタル時ハ所有者ヨリ其刑ヲ言渡サレタル者ノ破毀ノ爲メ一ノ上告ヲ爲サスシテ定期ヲ經過セシメタル旨ヲ證明シ又其上告ヲ爲シタル時ハ右事件ノ確然終了シタル旨ヲ證明スルニ非サレハ右ノ返還ヲ爲ス可カラス(治一五九一九一三一二四一二四七四刑一〇五一)

第三百六拾七條 若シ重罪被告人ノ宥恕ス可キモノト決斷セラレタル時ハ裁判所ニ於テ刑法ニ從ヒ宣告ス可シ(治三三九刑六五三二一以下)

第三百六拾八條 敗訴トナリタル重罪被告人又ハ民事原告人ハ國ト相手方トニ對シテ費用ヲ言渡サル可シ

陪審ニ附セラレタル事件ニ於テハ敗訴トナラサル民事原告人ハ決シテ費

用ヲ負擔セサルモノトス

千八百十一年六月十八日ノ告令書ニ據リ民事原告人ヨリ其費用ノ金高ヲ附記シタル場合ニ於テハ之ヲ其民事原告人ニ返還ス可シ(治一六三、一九四四三六四七八)

第三百六拾九條　裁判官ハ低聲ニテ評議ヲ爲シ及ヒ意見ヲ發ス可ク又之レカ爲メ會議室ニ退クヿヲ得可シ然レトモ裁判ハ公衆及ヒ重罪被告人ノ面前ニ於テ裁判所長高聲ニ之ヲ宣告ス可シ

裁判所長ハ裁判ヲ宣告スル前ニ其裁判ノ基本タル法律ノ正條ヲ朗讀ス可シ

書記ハ裁判書ヲ記シテ其適用セラレタル法律ノ正條ヲ之ニ記入ス可シ若シ之ニ逆フ時ハ百[フランク]ノ罰金ニ處セラル可キモノトス(治一六三、一九五四一一)

第三百七拾條　裁判書ノ細字正本ハ其裁判ヲ爲シタル裁判官之ニ署名ス可シ若シ之ニ逆フ時ハ書記ニ對シテ百[フランク]ノ罰金ヲ言渡ス可ク又別段

ノ理由アル時ハ書記ト裁判官トニ對シテ損害賠償ヲ訟求スルヿヲ得可シ]

其裁判書ノ細字正本ハ裁判ノ宣告ヨリ二十四時內ニ之ニ署名ス可シ(治一六四一九六四五〇)

第三百七拾壹條　裁判所長ハ裁判ヲ宣告シタル後狀況ニ從ヒ重罪被告人ニ固志耐忍ス可キ旨ヲ諭シ又ハ其品行ヲ改ム可キ旨ヲ諭スヿヲ得可シ

裁判所長ハ被告ノ爲メ上告ヲ爲シ得可キノ權能ト其權能ノ執行ヲ限ラレタル期限トヲ重罪被告人ニ告ク可シ(治三七三以下四〇八四一六以下)

第三百七拾貳條　書記ハ其定メラレタル法式ヲ遵守セシ旨ヲ證明スル爲メ會席ノ調書ヲ作ル可シ

又タ其調書ニハ重罪被告人ノ答詞ヲモ又證據申述書中ニ記載シタル所ノモノヲモ記ス可カラス然レトモ證人ノ申述ニ於ケル變更、差異及ヒ矛盾ニ關シテ第三百十八條ヲ執行スル事ト相觸ルヽヿナカル可シ

其調書ハ裁判所長及ヒ書記ニ於テ之ニ署名ス可シ但シ其調書ハ豫メ之ヲ印刷シ置クヿヲ得サルモノトス

本條ノ成規ハ必ス之ヲ執行スヘキ若シ然ラサル時ハ無效ナリトス

若シ調書ヲ作ラス及ヒ前第三項ノ成規ヲ執行セサル時ハ書記ニ對シテ五百[フランク]ノ罰金ヲ言渡スヘシ(治二七七四〇八四五〇)

第三百七拾三條　刑ヲ言渡サレタル者ハ破毀ヲ得ント上告スル旨ヲ書記局ニ申述スル爲メ其裁判ヲ宣告セラレタル日ヨリ後滿三日ノ猶豫ヲ有スヘシ

檢事長ハ之ト同一ノ期限內ニ其裁判ノ破毀ヲ訟求スル旨ヲ書記局ニ申述スルヿヲ得ヘシ

民事原告人ハ亦右ニ同シキ期限ヲ有スルモノトス然レトモ民事原告人ハ自己ノ民事上ノ利益ニ關スル所定ノミニ付キ上告スルヿヲ得ヘシ

其三日間ハ重罪裁判所ノ裁判ノ執行ヲ延ハスヘシ又破毀ヲ得ント上告シタル時ハ大審院ノ裁判書ヲ收受スルニ至ル迄重罪裁判所ノ裁判ノ執行ヲ延ハスヘシ(治一七七二一六四一七四二五四四二)

第三百七拾四條　此法典第四百九條及ヒ第四百十二條ニ定メタル場合ニ於テハ檢事長又ハ民事原告人其上告ヲ爲ス爲メ二十四時間ノ猶豫ノミヲ有スルモノトス

第三百七拾五條　刑ノ言渡ハ若シ破毀ヲ得ント上告セサル時ハ第三百七十三條ニ記載シタル期限ヨリ後二十四時內ニ之ヲ執行スヘシ又上告シタル場合ニ於テハ其訟求ヲ棄却スル大審院ノ裁判書ヲ收受シタルヨリ二十四時內ニ之ヲ執行スヘシ(治四三九)

第三百七拾六條　刑ノ言渡ハ檢事長ノ命令ニ依テ之ヲ執行スヘシ又檢事長ハ之レカ爲メ直接ニ公力ノ補助ヲ請求スルノ權利アリトス(治二五九九一〇八一九七刑二五三六二三四四七五ノ第十二)

第三百七拾七條　若シ刑ヲ言渡サレタル者カ一箇ノ申述ヲ爲サントスルヿ欲スル時ハ其執行ノ地ノ裁判官一名書記ノ補助ヲ以テ其申述ヲ受クヘシ

第三百七拾八條　執行ノ調書ハ書記之ヲ作リテ二十四時內ニ裁判書ノ細字正本ノ末ニ之ヲ登記スヘシ若シ之ニ遞フ時ハ百[フランク]ノ罰金ヲ言渡サルヘシ○其登記書ハ書記之ニ署名シ且ツ書記ハ調書ノ端ニ右ノ諸件ヲ記

職ス可ク若シ之ニ逆フ時ハ右ト同一ノ刑ニ處セラル可シ○其記職ハ亦之ニ署名ス可ク而シテ右ノ登記書ハ謂書ニ同シク証據ヲ爲スモノトス(民八三)

第三百七拾九條 若シ刑ノ言渡ノ裁判ヲ爲ス前ノ辨論中ニ重罪被告人カ証據申述ニ依リ其是迄訴ヘラレタルモノヨリ更ニ他ノ重罪ヲ訴ヘラレ而シテ若シ其新タニ顯ハレタル重罪カ初メノ重罪ヨリモ更ニ重劇ノ刑ニ當ル可キ時又ハ其重罪被告人ニ拘留ヲ受ケタル從犯アル時ハ裁判所ヨリ此法典ニ定メタル法式ニ從ヒ其新タナル所爲ノ爲メ右重罪被告人ノ罪ヲ訴フ可キ旨ヲ命令ス可シ

右二箇ノ場合ニ於テハ檢事長其第二ノ訴ニ付キ裁定アルニ至ル迄初メノ處刑ヲ宣告シタル裁判ノ執行ヲ延ハス可キモノトス(治三六一三六五)

第三百八拾條 凡ソ重罪裁判所ニ於テ爲シタル裁判書ノ細字正本ハ皆之ヲ本州首地ノ始審裁判所ノ書記局ニ集合シテ之ヲ藏メ置ク可シ

控訴裁判所々在ノ州ノ重罪裁判所ニ於テ爲シタル裁判書ノ細字正本ハ右ノ例外ニシテ其細字正本ハ控訴裁判所ノ書記局ニ藏メ置ク可シ

○**第五章** 陪審及ヒ之ヲ組成スル方法此書ニ記スル所ノ正條ハ千八百三十二年ノ官版ニ據ルモノタレ𪜈千八百四十八年八月七日ノ告令ヲ以テ大ニ之ヲ更改シ尋テ千八百五十三年六月四日ノ法律ヲ以テ更ニ之ヲ廢シテ新タナル成規ヲ設ケ其後千八百七十年十月十四日ノ告令ニ依リ右ノ法律ヲ廢シテ千八百四十八年八月七日ノ告令ヲ再ヒ施行ス可キモノト爲シ尋テ千八百七十二年十一月二十一日ノ法律ヲ以テ千八百七十年十月十四日ノ告令ヲ廢シテ更ニ新定ノ成規ヲ設ケ而シテ治罪法ノ成規中ニテ其新定ノ成規ト相抵觸セサルモノハ之ヲ存セシム可キ旨ヲ定メタリ但シ其新設ノモノタル千八百七十二年十一月二十一日ノ法律ハ此書ノ附錄中ニ之ヲ譯出ス)

○**第壹節** 陪審

第三百八拾壹條 何人ニ限ラス滿三十歳ニシテ政權及ヒ民權ヲ享有スルニ非サレ𪜈陪審員ノ職務ヲ履行スルヿヲ得ス若シ之ニ逆フ時ハ無效ナリト

ス

陪審員ハ選擧會員中ト第三百八十二條ノ第三項以下ニ指定セラレタル各人中トヨリ之ヲ撰ム可シ(千八百七十二年十一月二十一日ノ法律第一條ヲ以テ之ニ換ユ)

第三百八拾貳條　各州ノ州長ハ毎年八月一日ニ二箇ノ部分ニ分チタル姓名表ヲ作ル可シ

其第一ノ部分ハ千八百二十年六月二十九日ノ法律第三條ニ從ヒ之ヲ作ル可ク而シテ其州ノ選擧會員中ニ加ハルニ必要ナル條件ヲ具有スル所ノ各人ヲ包含スルモノトス

其第二ノ部分ハ左ノ各人ヲ包含ス

第一　本州內ニ其現實ノ住所ヲ有シ他ノ州ニ於テ其選擧權ヲ執行スル選擧人

第二　國王(共和國大統領)ヨリ撰任セラレタルモノニシテ無給ノ職務ヲ執行スル官吏

第三　退隱ニ於ケル陸海軍士官

第四　法學部、理學部、文學部中ノ一部又ハ數部ノ學士及ヒ得業生、醫學士、學士館員及ヒ通信員、國王(共和國大統領)ヨリ認メラレタル其他ノ學社ノ社員

第五　職務執行ノ三箇年ニ及ヒタル公証人

退隱ニ於ケル海陸軍ノ士官ハ少クモ千二百[フランク]ノ退隱料ヲ受ケ且ツ五年以來本州內ニ於テ現實ノ住所ヲ有スル旨ヲ証明シタル後ニ非サレハ總姓名表中ニ記載セラル可カラス

法學部、理學部、文學部中一部ノ得業生ニシテ上等裁判所又ハ下等裁判所ニ於ケル代言人及ヒ代書人ノ表中ニ記入セラレサル者又ハ其免狀ヲ得タル本部ニ屬スル學科中或者ノ教授ヲ委任セラレサル者ハ十年以來本州內ニ於テ現實ノ住所ヲ有スル旨ヲ証明シタル後ニ非サレハ總姓名表中ニ記載セラル可カラス

其姓名表ノ二箇ノ部分ヲ合シテ八百人ノ人員ヲ包含セサル各州ニ於テハ

其姓名表ニ記入セラレサル各人中ニテ最モ多額ノ稅金ヲ納ムル者ヨリ組成シタル追加ノ姓名表ヲ以テ右ノ人員ヲ補足ス可シ(千八百七十二年十一月廿一日ノ法律第六條以下ヲ以テ之ニ換ユ)

第三百八拾三條 陪審員ノ職務ハ各省卿、州長、郡長、裁判官、檢事長、檢事及ヒ其代職ノ職務ト兼テ有ス可カラス

陪審員ノ職務ハ亦或ル法敎ノ法敎師ノ職務ト兼テ有ス可カラス

行政ノ一部分ヲ任セラレタル參議員、行政廳又ハ租稅局ニ於ケル國王ノ委員及ヒ七十歲ノ齡ニ達シタル者ハ其請求ニ依リ免セラル可シ(千八百七十二年十一月二十一日ノ法律第三條及ヒ第五條ノ第一ヲ以テ之ニ換ユ)

第三百八拾四條 第三百八十二條ニ據リ作リタル姓名表ハ遲クモ八月十五日ニ各邑ノ首地ニ之ヲ貼附シ而シテ九月三十日ニ之ヲ終了ス可シ

其印本一通ヲ邑廳、郡廳、州廳ノ書記局ニ納メテ之ヲ保存シ何人ニ限ラス請求スル者ヲシテ査視セシム可シ

姓名表ノ作リ方ニ對シテ爲ス所ノ異論ハ千八百十七年二月五日ノ法律第五條及ヒ第六條ニ定メタル方法ニ從ヒ之ヲ裁定ス可シ

其異論ハ之ヲ受クル順序ト日附トニ從ヒ州廳ノ書記長局ニ於テ之ヲ記入ス可シ

其異論ハ單一ナル覺書ニ依リ無費ニテ之ヲ爲ス可シ(千八百七十二年十一月二十一日ノ法律ヲ看ル可シ)

第三百八拾五條 何人ニ限ラス理由ヲ附シタル裁決書又ハ裁判書ニ據ルニ非サレハ第三百八十二條ニ定メタル姓名表中ニ加ハルヿヲ止息スルヲ得ス但シ其裁決又ハ裁判ニ對シテ取消ヲ得ントスルノ訟求又ハ控訴ヲ爲シタル時ハ停止ノ效力ヲ有スルモノトス(千八百七十二年十一月二十一日ノ法律ヲ看ル可シ)

第三百八拾六條 選擧會ヲ招集シタル時ハ第三百八十四條ニ據リ其前ノ九月三十日ニ終了シタル最後ノ姓名表ノ第一ノ部分ヲ以テ千八百十七年二月五日ノ法律第五條及ヒ千八百二十年六月廿九日ノ法律第三條ニ定メタル姓名表ニ代用ス可キモノトス

此場合ニ於テ州長ハ總姓名表ヲ公布シタル以來選擧權ヲ執行スル爲メニ必要ナリト定メラレタル分限ヲ獲得シ又ハ失ヒタル各人ヲ指示スル所ノ改正表ヲ印刷シテ之ヲ貼附セシム可シ○若シ姓名表終了ノ後二ケ月以上經過シタル時ハ州長ニ於テ其第一ノ部分ヲ改正表ト共ニ更ニ公布シ及ヒ貼附セシム可シ

九月三十日ニ終了シタル姓名表ノ第一ノ部分ニ於テ選脫セラレ而シテ其公布以前ニ選擧權ヲ獲得シタル各人ノ異論ハ十月一日以前ニ之ヲ爲シタルニ非サレハ許容ス可カラサルモノトス(千八百七十二年十一月二十一日ノ法律ヲ看ル可シ)

第三百八拾七條 九月三十日ノ後ニ至リ州長ハ第三百八十二條ニ據リ作リタル總姓名表中ニ就キ自己ノ責任ヲ以テ翌年ノ陪審ノ用ニ供スル爲メ一箇ノ姓名表ヲ拔萃ス可シ

其姓名表ハ總姓名表中ノ四分一ヲ以テ之ヲ組成ス可ク而シテ其員數ハ三百名ニ過クルヿヲ得ス但シ(セイヌ)州ニ於テハ格別ニシテ千五百名ヲ以テ

其姓名表ヲ組成ス可キモノトス

其姓名表ハ直チニ州長ヨリ司法卿控訴裁判所長及ヒ檢事長ニ之ヲ送付ス可シ

何人ニ限ラス二年引續テ本條ニ定メタル姓名表ニ記載セラル可カラス(千八百七十二年十一月廿一日ノ法律第十一條ヲ以テ之ニ換ユ)

第三百八拾八條 重罪裁判所ノ開始ヨリ少クモ十日以前ニ控訴裁判所長ハ州長ヨリ送付セラレタル姓名表中ニ就キ其會議繼續時間ノ陪審員ノ姓名表ヲ組成スル所ノ三十六名ノ人員ヲ抽籤ス可シ

右ノ外控訴裁判所長ハ第三百九十三條ノ第三項ニ記載シタル各人中ヨリ撰ミタル附加ノ陪審員四名ヲ抽籤ス可シ

其抽籤ハ控訴裁判所ノ第一局又ハ休暇局ノ公ケノ審問席ニ於テ之ヲ爲ス可シ(千八百七十二年十一月廿一日ノ法律第十八條ヲ以テ之ニ換ユ)

第三百八拾九條 姓名表ヲ組成スル各人ニ其姓名表ノ全部ヲ送ルヿナシ然レトモ州長ハ其各人ノ姓名ヲ右姓名表ニ記載シアル旨ヲ証明スル所ノ其拔

書ヲ右ノ各人ニ送付ス可キモノトス○其送付ハ姓名表ヲ用フ可キ日ヨリ少クモ八日以前ニ之ヲ右ノ各人ニ爲ス可シ

其姓名表ヲ用フ可キ日ハ右ノ送付書中ニ之ヲ記載ス可シ而シテ又其送付書ニハ指示セラレタル日ニ出席ス可キ旨ノ催促ト若シ其日ニ出席セサル時ハ此法典ニ載スル刑ニ處セラル可キ旨トヲ記ス可キモノトス

若シ本人ニ送付セサルニ於テハ其住所幷ニ其地ノ邑長又ハ副職ノ住所ニ其送付ヲ爲ス可シ但シ邑長又ハ副職ハ本人ニ之レカ通知ヲ爲ス可キモノトス(第三九五以下)

第三百九拾條 若シ抽籤ニ依リ指定セラレタル四十名ノ人員中ニ於テ第三百八十七條ニ據リ終了シタル姓名表ノ組成以後ニ死去シ又ハ陪審員ノ職務ヲ執行スルニ必要ナリト定メタル能力ヲ法律上ニテ剝奪セラレ又ハ其職務ト兼テ有ス可カラサル役務ヲ受諾シタル者一名又ハ數名アル時ハ裁判所ニ於テ檢事長ノ意見ヲ聽キタル後其會席ニ於テ之ニ代ハル可キ者ヲ定ム可シ

其代ハル可キ者ヲ定ムルニ付テハ第三百八十八條ニ定メタル法式ニ從フ可キモノトス(千八百七十二年十一月二十一日ノ法律第十九條ヲ看ル可シ)

第三百九拾壹條 陪審員ノ姓名表ハ之ヲ作リタル用務ノ後ハ無效ノモノタル可シ

臨時重罪裁判所ヲ開ク場合ノ外ハ第三百八十九條ニ定メタル要求ニ應シタル各陪審員ハ同年内ニ一回ヨリ更ニ多ク第三百八十七條ニ據リ作リタル姓名表ニ記載セラルヽヿナカル可シ

臨時重罪裁判所ヲ開ク場合ニ於テハ右ノ各陪審員ハ同年内ニ二回ヨリ更ニ多ク右ノ姓名表ニ記載セラルヽヿナカル可シ

重罪裁判所ノ會議ヲ開始スル前ニ其裁判所ニ於テ一時ノ原由ナリト裁判シタル宥恕ヲ許容セシメタル各員ハ右ノ要求ニ應シタルモノト看做ス可カラス

右各員ノ姓名及ヒ一回若クハ二回罰金ヲ言渡サレタル陪審員ノ姓名ハ會議ノ後直チニ控訴裁判所長ニ之ヲ通知シ其裁判所長ハ第三百八十七條ニ

撰リ作リタル姓名表ニ右ノ姓名ヲ移シ記ス可キモノトス而シテ若シ同年ノ爲メニ爲ス可キ抽籤ノ存セサル時ハ右ノ姓名ヲ翌年ノ姓名表ニ加フ可シ

第三百九拾貳條　何人ニ限ラス司法警察官、証人、通辯人、鑒定人又ハ關係人タル者ハ其同一ノ事件ニ於テ陪審員タルヿヲ得ス若シ之ニ違フ時ハ無效ナリトス

○第貳節　陪審ヲ組成シ及ヒ之ヲ招集スルノ方法

第三百九拾三條　各個ノ事件ノ裁判ノ爲メニ指示セラレタル日ニ於テ若シ出席シタル陪審員ノ三十名ニ足ラサル時ハ第三百八十八條ニ記載シタル追加ノ陪審員ヲ以テ其員數ヲ補足ス可シ但シ其追加ノ陪審員ハ右ノ條ニ據リ組成シタル姓名表ニ於ケル其記入ノ順序ヲ以テ之ヲ招喚ス可キモノトス

若シ其不足ナル場合ニ於テハ裁判所長公ケノ審問席ニ於テ抽籤ノ方法ニ依リ三十名ノ員數ヲ補足ス可キ陪審員ヲ指定ス可シ

其陪審員ハ第三百八十七條ニ據リ作リタル姓名表ニ記入セラレタル各人中ニテ重罪裁判所設置ノ都府内ニ居住スル者ノ中ヨリ之ヲ撰ム可ク又補助ノ方法ヲ以テ右都府ノ其他ノ住者ニシテ第三百八十二條ニ定メタル姓名表中ニ包含セラレタル者ノ中ヨリ之ヲ撰ム可シ

第三百九十一條ノ成規ハ本條ニ據リ爲ス所ノ引易ニ適用ス可カラサルモノトス(千八百七十二年十一月廿一日ノ法律第十五條及ヒ第十九條ヲ以テ之ニ換ユ)

第三百九拾四條　陪審ヲ組成スルニハ陪審員十二名ノ員數ヲ必要トス

若シ重罪ノ訴カ長キ辯論ヲ要ス可キ性質ノモノト思ハルヽ時ハ重罪裁判所ニ於テ陪審員ノ姓名表抽籤ノ前ニ十二名ノ陪審員定數ノ外更ニ其辯論ニ立會フ可キ陪審員一名又ハ二名ヲ抽籤ス可キ旨ヲ命令スルヿヲ得可シ

若シ陪審員十二名中ノ一名又ハ二名カ陪審ノ確定ノ決斷ニ至ル迄辯論ヲ繼續スルニ差支アル場合ニ於テハ陪審補員ヲ以テ之ニ代ハラシム可シ

其引易ハ陪審補員ノ抽籤ニ依リ招喚セラレタル順序ニ從テ之レヲ爲ス可

シ

第三百九拾五條 陪審員ノ姓名表ハ陪審員十二名ノ表ヲ組成スル爲メニ定メタル日ノ前日ニ之ヲ各個ノ重罪被告人ニ送付ス可シ若シ更ニ早ク又ハ更ニ遲ク之ヲ送付シタル時ハ其送付並ニ其後ニ爲シタル諸件ヲ無效ナリトス(治四一九)

第三百九拾六條 凡ソ已レニ送付セラレタル呼出狀ニ應シテ其役場ニ赴カサル陪審員ハ重罪裁判所ヨリ罰金ヲ言渡サル可シ但シ其罰金ハ左ノ如クナリトス

第一回ニ付テハ五百〔フラン・ク〕

第二回ニ付テハ一千〔フランク〕

第三回ニ付テハ一千五百〔フランク〕

其第三回ノ場合ニ於テハ其陪審員ハ右ノ外將來陪審員タルノ職務ヲ執行スルヿ能ハサル旨ヲ宣告セラル可シ○其裁判書ハ右陪審員ノ費用ヲ以テ之ヲ印刷シ及ヒ貼附ス可シ(治三九七以下)

(本條ノ第二項ハ千八百七十二年十一月二十一日ノ法律第二十條ヲ以テ更改シタリ)

第三百九拾七條 指示セラレタル日ニ於テ出席スルヿ能ハサリシ旨ヲ証明シタル陪審員ハ右ノ例外ナリトス

裁判所ハ右辨解ノ理由ノ有效ナルヤ否ニ付キ宣告ヲ爲ス可シ(刑二三六)

第三百九拾八條 第三百九十六條ニ戒セタル刑ハ一旦其役場ニ赴キタリトハ雖モ有效ナル辨解ノ理由ナクシテ其職務ノ終ラサル前ニ引退キタル各陪審員ニ適用ス可シ但シ其辨解ノ理由ノ有效ナルヤ否ハ亦裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス可キモノトス

第三百九拾九條 各箇ノ事件ニ付キ其指示セラレタル日ニ至リ審問席ヲ開始スル前ニ陪審員並ニ重罪被告人及ヒ檢事長ノ面前ニ於テ辨解ノ理由ナキ各陪審員及ヒ免セラレサル各陪審員ノ姓名ヲ呼上ク可シ

其呼上ニ答フル各陪審員ノ姓名票ヲ壺中ニ入ル可シ

各陪審員姓名票ノ壺中ヨリ出ツルニ從ヒ最初ニ重罪被告人又ハ其代辨ヨ

リ其相當ト思考スル所ノ陪審員ヲ忌避シ然ル後檢事長ヨリ之ヲ忌避スシ但シ以下ニ明示シタル制限ニ從フ可キモノトス

重罪被告人又ハ其代辨人ニ於テモ又檢事長ニ於テモ其忌避ノ理由ヲ說明スルヿヲ得ス

忌避セラレサル陪審員十二名ノ姓名票ノ壺中ヨリ出テタル時ニ至リ決斷ヲ爲ス陪審ヲ組成スルモノトス

第四百條　重罪被告人及ヒ檢事長ヨリ爲シ得ル所ノ忌避ハ陪審員十二名ノ姓名票ノミノ殘ル時ニ至リテ之ヲ止ム可シ

第四百壹條　重罪被告人及ヒ檢事長ハ互ニ同數ノ忌避ヲ行フヿヲ得可シ然レ𪜈若シ陪審員ノ數ノ奇數ナル時ハ重罪被告人ニ於テ檢事長ヨリモ更ニ一名多數ノ忌避ヲ行フヿヲ得可キモノトス

第四百貳條　若シ重罪被告人ノ數名アル時ハ其忌避ヲ行フ爲メ相協議スルヿヲ得可ク又其忌避ヲ各自別々ニ行フヿヲ得可シ

右ノ中何レノ場合ニ於テモ其數名ノ重罪被告人ハ前數條ニ依リ重罪被告

人一名ノ爲メニ定メタル忌避ノ數ニ過クルヿヲ得サルモノトス

第四百三條　若シ重罪被告人ノ忌避ヲ爲ス爲メ相協議セサル時ハ抽籤ヲ以テ各自其忌避ヲ爲ス可キ順序ヲ定ム可シ○此場合ニ於テ右ノ順序ニ從ヒ重罪被告人中ノ一名ヨリ忌避セラレタル陪審員ハ其重罪被告人全員ノ爲メニ忌避セラレタルモノトシテ其忌避ノ定數ノ盡クルニ至テ之ヲ止ム可シ

第四百四條　重罪被告人ハ忌避ノ一部分ヲ行フ爲メ相協議スルヿヲ得可シ但シ其餘ノ一部分ニ付テハ抽籤ニ依リ定マリタル順序ニ從ヒ之ヲ行フ可キモノトス

第四百五條　重罪被告人ノ訊問ハ陪審員十二名ノ裁ヲ組成シタル後直チニ之ヲ始ム可シ(第三〇九)

第四百六條　若シ或ル事故ニ依リ一箇又ハ數箇ノ重罪公訴狀中ニ包含シタル犯罪ニ付キ又ハ其犯罪中ノ或者ニ付キ其重罪被告人ノ訊問ヲ次キノ會議ニ移送シタル時ハ更ニ他ノ姓名裁ヲ作ル可ク而シテ又前ニ定メタル規

則ニ從ヒ更ニ忌避ヲ爲シ及ヒ更ニ新タナル陪審員十二名ノ表ヲ組成ス可シ若シ之ニ違フ時ハ無效ナリトス(治三〇六三三一三五三三五四以下)

○第三卷　上等又ハ下等裁判所ノ裁判ニ對シテ上訴スルノ方法(千八百八年十二月十日決定同月二十日宣令)

○第壹章　豫審及ヒ裁判ノ無效

第四百七條　重罪懲治罪又ハ違警罪ノ事項ニ於テ終審ニテ爲シタル上等又ハ下等裁判所ノ裁判並ニ其以前ノ豫審及ヒ訴ノ手續ハ以下ノ場合ニ於テ及ヒ以下ニ定ムル差別ニ從ヒ爲ス所ノ訴ニ依リ之ヲ取消スヿヲ得可シ(治一七七二一六四七三)

○第壹款　重罪ノ事項

第四百八條　若シ重罪被告人ノ刑ノ言渡ヲ受ケ而シテ重罪裁判所ニ其移送ヲ命令シタル控訴裁判所ノ裁判ニ於テ若クハ重罪裁判所ニテ爲シタル豫審及ヒ訴ノ手續ニ於テ若クハ其刑ヲ言渡シタル裁判ニ於テ此法典ニ無效ノ罰款ヲ以テ必要ナリト定ムル所ノ法式中或者ニ違背シ又ハ之ヲ遺脫シタルヿアル時ハ其遺脫又ハ違背ノ爲メ其刑ヲ言渡サレタル者又ハ檢察官ノ訴ニ依リ其刑ヲ言渡シタル裁判ノ取消ヲ爲シ及ヒ最モ先キノ無效ナル所爲ヨリ始メテ其裁判以前ノ諸件ノ取消ヲ爲ス可シ

管轄違ノ場合又ハ法律ニ依リ附與セラレタル權能又ハ權利ヲ行ハントスル重罪被告人ノ一箇又ハ數箇ノ訟求ニ付キ若クハ檢察官ノ一箇又ハ數箇ノ請求ニ付キ宣告スルヿヲ遺脫シ或ハ宣告スルヿヲ否拒シタル場合ニ於テハ假令其執行ヲ訟求シ又ハ請求シタル法式ノ欠缺ニ法律ノ成文上ニテ無效ノ罰款ヲ附セサル時ト雖モ亦右ト同一タル可シ(治二七六二七八四一五四一六四二九四七〇五三九)

第四百九條　重罪被告人ノ放免ノ場合ニ於テハ檢察官ヨリ其放免ヲ宣告シタル命令及ヒ其以前ノ諸件ノ取消ヲ法律ノ利益ノ爲メノミニ訴フルヿヲ

得可ク之レカ爲メ其放免セラレタル者ニ害ヲ被ムラシムルヿナカル可シ
(治三五八三六〇三七四四四一四四二)

第四百拾條　若シ法律上ニテ重罪ノ性質ニ適用スル所ノ刑ヨリ更ニ他ノ刑ヲ裁判ヲ以テ宣告シタルニ由リ無效ヲ申立ツ可キ時ハ檢察官並ニ其刑ヲ言渡サレタル者ヨリ右裁判ノ取消ヲ訴フルヿヲ得可シ

若シ刑事法律ノ存在セサルニ基キテ不問ヲ宣告シタルニ其法律ノ存在シタル時ハ檢察官ヨリ第三百六十四條ニ記載シタル不問ノ裁判ニ對シテ右ト同一ノ訴權ヲ行フヿヲ得可シ(治四〇八四三四)

第四百拾壹條　宣告シタル刑カ重罪ニ適用スル所ノ法律ニ定メタル刑ニ同シキ時ハ何人ニ限ラス法律ノ正條ノ引援ニ於テ錯誤ノアリタル旨ヲ口實トシテ其裁判ノ取消ヲ請求スルヿヲ得ス(治三六九四一四)

第四百拾貳條　如何ナル場合ニ於テモ民事原告人ハ放免ノ命令又ハ不問ノ裁判ノ取消ヲ訴フルヿヲ得ス然レトモ若シ其裁判カ放免セラレ又ハ不問ヲ言渡サレタル者ノ請求ニ過キタル民事上ノ言渡ヲ其民事原告人ニ對シテ

宣告シタル時ハ民事原告人ノ請求ニ依リ其裁判中右ノ所定ヲ取消スヿヲ得可シ(治三五八三六六三七四四二九四三六)

○第貳款　懲治罪及ヒ逆警罪ノ事項

第四百拾三條　第四百八條ニ明示シタル取消ノ方法ハ懲治罪及ヒ逆警罪ノ事項ニ於テハ其輕罪又ハ逆警罪ヲ訴ヘラレタル者ノ免訴ヲ宣告シタルモノト其處刑ヲ宣告シタルモノトノ差別ナク總テ上等又ハ下等裁判所ノ終審ノ裁判ニ對シテ其罪ヲ訴ヘラレタル者並ニ檢察官及ヒ民事原告人アル時ハ其民事原告人ノ爲メ各自ニ開始セラルヽモノトス

然レトモ若シ其輕罪又ハ逆警罪ヲ訴ヘラレタル者ノ免訴ヲ宣告シタル時ハ何人タリトモ其者ノ辨護ヲ保スル爲メニ定メタル法式ノ違背又ハ逃脫ヲ其者ニ對シテ益用スルヿヲ得ス(治一七七二一六四一六四二六四二七)

第四百拾四條　第四百十一條ノ成規ハ懲治罪及ヒ逆警罪ノ事項ニ於テ爲シタル上等又ハ下等裁判所ノ終審ノ裁判ニ適用ス可キモノトス

○第三款　前二款ニ共通ノ成規

第四百拾五條　大審院若クハ控訴裁判所ニ於テ豫審ヲ取消シタル場合ニ於テハ其更ニ始ム可キ訴訟手續ノ費用ハ其無效ヲ行ヒタル役員又ハ豫審裁判官ノ負任タル可キ旨ヲ命令スルヿヲ得可シ

然レ𪜈右ノ成規ハ甚タ重劇ナル過失ノミニ付キ且ツ此法典施行ノ時ヨリ二年ノ後ニ行ヒタル無效ノミニ關スルニ非サレハ之ヲ適用ス可カラス（治二八〇三八一四〇八訴一〇三一）

○第貳章　破毀ノ訴求

第四百拾六條　訴ノ本案ニ影響セサルモノニシテ且ツ豫審上ノモノタル上等裁判所ノ裁判又ハ右ノ性質ノモノタル下等裁判所ノ終審ノ裁判ニ對スル破毀ノ訴ハ上等又ハ下等裁判所ノ確定ノ裁判アリシ後ニ非サレハ開始セラレサルモノトス但シ右本案ニ影響セサル上等又ハ下等裁判所ノ裁判ノ任意ノ執行ハ如何ナル場合ニ於テモ拒訴ノ憑據トシテ之ヲ以テ對抗スルヿヲ得ス

右ノ成規ハ裁判管轄ノ事ニ付キ爲シタル上等又ハ下等裁判所ノ裁判ニ適

用セサルモノトス（治一七七二七八二九九三〇一四〇八）

第四百拾七條　破毀ノ訴ノ申述ハ刑ヲ言渡サレタル者ヨリ書記ニ之ヲ爲シ而シテ其申述書ハ右ノ者ト書記トニ於テ之ニ署名ス可シ若シ申述者ノ署名スルヿ能ハス又ハ署名スルヿヲ欲セサル時ハ書記其旨ヲ記載ス可シ

右ノ申述ハ刑ヲ言渡サレタル者ノ代書人又ハ其特別ナル代理人ヨリ右ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得可シ但シ代理人ヨリ其申述ヲ爲シタル場合ニ於テハ委任狀ヲ右ノ申述書ニ添ヘ出ク可キモノトス

其申述書ハ特ニ設ケアル簿冊ニ之ヲ記入ス可シ但シ其簿冊ハ公ケノモノニシテ何人ニ限ラス之レカ拔書ヲ交付セシムルノ權利アリトス（治一七七二一六三七三）

第四百拾八條　民事原告人アル時ハ其民事原告人若クハ檢察官ヨリ重罪、懲治罪又ハ違警罪ノ事項ニ於テ爲シタル上等又ハ下等裁判所ノ終審ノ裁判ニ對シテ破毀ノ訴ヲ行フ時ハ前條ニ表示シタル記入ノ外更ニ其訴狀ヲ三日ノ期限內ニ右ノ訴ヲ受クル者ニ送付ス可シ

若シ其訴ヲ受クル者ノ現ニ收監セヲルヽ時ハ右ノ訴ノ申述ヲ記シタル證書ヲ書記ヨリ其者ニ謂開カセ其者ニ於テ之ニ署名ス可ク若シ其者ノ署名スルヿ能ハス又ハ署名スルヿヲ欲セサル時ハ書記其旨ヲ記載ス可シ

若シ其訴ヲ受クル者ノ自由ナル時ハ破毀ノ原告人ヨリ使吏ノ紹介ヲ以テ其者自身若クハ其者ノ撰定シタル住所ニ右ノ訴狀ヲ送付ス可シ但シ此場合ニ於テハ三[ミリアメートル]ノ距離毎ニ右ノ定期ニ一日ヲ加フ可キモノトス(訴一〇三三)

第四百拾九條 破毀ヲ得ント上訴スル民事原告人ハ裁判書ノ公正ナル副本ヲ證據物ニ添ユ可キモノトス

其民事原告人ハ百五十[フランク]ノ罰金ヲ預ク可ク若シ又重罪缺席又ハ其他ノ缺席ニテ裁判ヲ爲シタル時ハ右金額ノ一半ヲ預ク可シ若シ之ニ違フ時ハ失糧ヲ受ク可キモノトス(治四三六四三七)

第四百貳拾條 (千八百七十七年六月二十八日ノ法律)左ノ各員ハ罰金ヲ免除セラルヽモノトス

第一 重罪ノ事項ニ於テ刑ヲ言渡サレタル者

第二 直接ニ行政及ヒ國領ニ關スル事件ニ付キ訴ヲ爲ス官吏

總テ其他ノ各人ニ關シテハ其上告ニ於テ敗訴トナリタル者罰金ヲ受ク可シ○然レトモ左ノ各人ハ罰金ヲ預クルヿヲ免除セラルヽモノトス

第一 懲治罪及ヒ逸警罪ノ事項ニ於テ自由ノ劫奪ヲ惹起スル刑ヲ言渡サレタル者

第二 其破毀ヲ得ントスル訟求書ニ第一ニ六[フランク]以下ノ稅金ヲ納ムル旨ヲ證明スル納稅人姓名表ノ拔書又ハ租稅ヲ課セラレサル旨ヲ證スル其邑ノ收稅吏ノ保證書ト第二ニ其貧困ナルカ爲メ罰金ヲ預クルヿ能ハサル旨ヲ證明スル保證書トヲ添ユル所ノ各人○右ノ保證書ハ其者ノ住所ノ邑ノ邑長又ハ副職ヨリ其者ニ之ヲ交付シテ其郡ノ郡長之ヲ認可シ又州ノ首地タル郡ニ於テハ州長之ヲ認可ス可シ

第四百貳拾壹條 (千八百七十七年六月二十八日ノ法律)六月以上ノ時間自由ノ劫奪ヲ惹起スル刑ヲ言渡サレタル各人ニシテ收監ノ景狀ニアラサル者

又ハ保證人ノ有無ヲ問ハス假リノ釋放ヲ得サル者ハ其破毀ヲ得ント上訴スルノ權利ヲ失ヒタリト宣告セラル可シ

過クヒ大審院ニ於テ其事件ヲ呼上クル時ニ至リ其者ノ入獄狀又ハ其釋放ヲ得タルノ證書ヲ大審院ニ差出ス可シ

原告人ノ其訴ヲ受理セラルヽ爲メニハ大審院所在ノ地ノ拘留場內ニ現ニ收監セラルヽ旨ヲ證明スルヲ以テ足レリトス但シ其拘留場ノ監守人ハ大審院ノ檢事長ニ宛テ差出シ而シテ其檢事長ノ檢署シタル訟求書ヲ檢視シタル上ニテ右ノ原告人ヲ其拘留場ニ收受スルヿヲ得可シ

第四百貳拾貳條　刑ヲ言渡サレタル者又ハ民事原告人ハ其申述ヲ爲ス時又ハ其後十日內ニ其取消サント訴フル所ノ裁判ヲ爲セシ上等裁判所又ハ下等裁判所ノ書記ハ其受取證書ヲ附與シテ即時ニ其請願書ヲ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏ニ交付ス可シ

○書記ハ其受取證書ヲ附與シテ即時ニ其請願書ヲ差出スヿヲ得可シ

第四百貳拾三條　申述ヲ爲シタルヨリ十日ノ後ニ右ノ官吏ヨリ訴ノ證據物

ト訴人ヨリ請願書ヲ差出シタル時ハ其請願書トヲ司法卿ニ送呈ス可シ

其取消サント訴ヘラレタル裁判ヲ爲セシ上等裁判所又ハ下等裁判所ノ書記ハ證據物ノ目錄ヲ無費ニテ作リタル上之ヲ添ヘ置ク可シ若シ之ニ違フ時ハ大審院ヨリ百「フランク」ノ罰金ヲ宣告セラル可キモノトス(治四二四)

第四百貳拾四條　司法卿ハ右ノ證據物ヲ受取リタルヨリ二十四時內ニ之ヲ大審院ニ差送リ且ツ之ヲ送呈セシ官吏ニ其旨ヲ通知ス可シ

刑ヲ言渡サレタル者ハ亦其請願書若クハ上等又ハ下等裁判所ノ裁判書並ニ其破毀ヲ得ントスル訟求書ノ送達セラレタル副本或ハ寫ヲ直接ニ大審院ノ書記局ニ差出スヿヲ得可シ然レヒ民事原告人ハ大審院附代言人ノ紹介ヲ得ルニ非サレハ右ノ成規ノ利益ヲ受クルヿヲ得サルモノトス

第四百貳拾五條　大審院ハ總テ重罪、懲治罪、違警罪ノ事件ニ於テ本章ニ職セタル期限ノ終リシ後直チニ其破毀ヲ得ントスルノ訴ヲ裁定スル事ヲ得可ク而シテ右ノ期限ノ終リシ日ヨリ起算シテ過クヒ一月內ニ之ヲ裁定セサルヲ得ス

第四百貳拾六條　大審院ハ豫メ許容スルノ裁判ヲ爲スヲ要セスシテ訟求ヲ棄却シ又ハ上等或ハ下等裁判所ノ裁判ヲ取消ス可シ

第四百貳拾七條　大審院ニ於テ懲治罪ノ事項ニ付キ若クハ違警罪ノ事項ニ付キ爲セシ裁判ヲ取消シタル時ハ其取消サレタル裁判ヲ爲セシ裁判所ト同性質ノ上等裁判所又ハ下等裁判所ニ其訴ト關係人トヲ移送ス可シ（沿四一三四二六四二九）

第四百貳拾八條　大審院ニ於テ重罪ノ事項ニ付キ爲セシ裁判ヲ取消シタル時ハ次キノ七條ニ記スル如クニ處分ス可シ

第四百貳拾九條　大審院ハ左ノ如クニ訴ノ移送ヲ宣告ス可シ

若シ第二百九十九條ニ明記シタル原由中ノ一箇ノ爲メニ裁判ヲ取消シタル時ハ裁判管轄ヲ規定シ且ツ重罪裁判所ニ移ス旨ヲ宣告シタル控訴裁判所ヨリ更ニ他ノ控訴裁判所ニ移送ス可シ

若シ重罪裁判所ニ於テ行ヒタル無效ノ原由ノ爲メニ裁判及ヒ豫審ヲ取消シタル時ハ其裁判ヲ爲セシ重罪裁判所ヨリ更ニ他ノ重罪裁判所ニ移送ス可シ

若シ民事上ノ利益ニ關スル箇條ノミニ付キ裁判及ヒ豫審ヲ取消シタル時ハ豫審裁判官ノ屬シタル始審裁判所ヨリ更ニ他ノ始審裁判所ニ移送スヘシ但シ此場合ニ於テハ其始審裁判所ハ豫メ勸解ニ於ケル呼出ナクシテ其訴ヲ管轄スルモノトス

若シ管轄違ノ原由ノ爲メニ裁判及ヒ訴ノ手續ヲ取消シタル時ハ大審院ヨリ其訴ヲ裁定ス可キモノタル裁判官ニ之ヲ移送シテ其裁判官ヲ指定ス可シ然レトモ若シ初メノ豫審ヲ爲セシ裁判官所在ノ始審裁判所ニ其管轄權ノ屬ス可キモノタル時ハ更ニ他ノ始審裁判所ニ移送ヲ爲ス可シ

若シ刑ノ言渡ノ原由タル所爲カ法律上ニ犯罪ノ名稱ヲ附スルモノタワサルニ依リ裁判ヲ取消シタル時民事原告人ノアルニ於テハ豫審裁判官ノ屬シタル始審裁判所ヨリ更ニ他ノ始審裁判所ニ移送ヲ爲ス可ク又民事原告人ノアワサルニ於テハ移送ヲ宣告ス可カラス（沿三六四四〇八四一二）

第四百三拾條　大審院ニ於テ移送セラレタル事件ノ裁判ノ爲メ一箇ノ上等

裁判所又ハ下等裁判所ヲ撰定スル事ヲ得可キ總テノ場合ニ於テハ破壞ノ裁判ヲ宣告シタル後直チニ會議室ニ於テ爲シタル特別ノ議定ニ依ルニ非ラサレハ右ノ撰定ヲ爲ス事ヲ得ス但シ其特別ノ撰定ハ右ノ裁判書中ニ之ヲ明記ス可キモノトス

第四百三拾壹條　移送セラレタル事件ノ豫審ヲ成就スル爲メニ委任ヲ受ク可キ新タナル豫審裁判官ハ其裁判ヲ取消サレタル控訴裁判所ノ管轄地内ニ設置セラレタル豫審裁判官中ヨリ之ヲ撰ム事ヲ得ス(治二一四)

第四百三拾貳條　一箇ノ控訴裁判所ニ移送ヲ爲シタル時ハ其控訴裁判所ニ於テ已レニ關スル所ノモノニ付キ豫審ヲ補正シタル後其管轄地内ニ於テ右ノ訴ヲ裁判ス可キ重罪裁判所ヲ指定ス可シ(治二五一)

第四百三拾三條　若シ一箇ノ重罪裁判所ニ訴ヲ移送シタル時未タ重罪公訴ノ求狀ニアラサル從犯ノアルニ於テハ其重罪裁判所ヨリ豫審裁判官一名ヲ委任シ又檢事長ヨリ其代職一名ヲ委任シテ各々其關スル所ノモノニ付キ豫審ヲ爲サシメ然ル後其豫審ノ證據物ヲ控訴裁判所ニ差送ル可ク而シテ其控訴裁判所ニ於テハ重罪裁判所ニ移ス可キヤ否ヤヲ宣告ス可シ(治二二六以下二三一二三七)

第四百三拾四條　若シ法律上ニテ重罪ノ性質ニ適用スル所ノ刑ヨリ更ニ他ノ刑ヲ宣告シタルカ爲メニ裁判ヲ取消シタル時ハ其訴ヲ移送セラレタル重罪裁判所ニ於テ陪審ノ既ニ爲シタル決斷ニ依リ其裁判ヲ爲ス可シ

若シ更ニ他ノ原由ノ爲メニ裁判ヲ取消シタル時ハ其訴ヲ移送セラレタル重罪裁判所ニ於テ更ニ再ヒ辨論ヲ爲ス可シ

若シ無效カ裁判ノ所定ノ一箇又ハ數箇ノミニ瑕瑾ヲ附スル時ハ大審院ニ於テ其裁判ノ一部分ノミヲ取消ス可キモノトス(治四〇八四一〇四三五)

第四百三拾五條　重罪被告人ノ刑ノ言渡ヲ取消シテ更ニ再ヒ重罪ニ於ケル裁判ヲ受ケシム可キ時ハ其重罪被告人ヲ拘留ノ求狀ノ儘若クハ拘引ノ命令書ヲ執行シテ其訴ヲ移送セラレタル控訴裁判所又ハ重罪裁判所ニ送致ス可シ

第四百三拾六條　重罪ノ事項若クハ懲治罪又ハ違警罪ノ事項ニ關スル其訴

ニ於テ敗訴トナリタル民事原告人ハ其放免セラレ不問ヲ言渡サレ又ハ免訴トナリタル者ニ對シテ百五十[フランク]ノ賠償ト費用トヲ言渡サレ又右ノ外國ニ對シテ百五十[フランク]ノ罰金ヲ言渡サル可ク若シ又上等又ハ下等裁判所ノ裁判カ重罪缺席又ハ其他ノ缺席ニテ爲セシモノタル時ハ七十五[フランク]ノミノ罰金ヲ言渡サル可シ

行政廳又ハ國領財産管理局及ヒ官吏ノ敗訴トナリタル時ハ費用及ヒ賠償ノミヲ言渡サル可シ

第四百三拾七條 若シ上等又ハ下等裁判所ノ裁判ヲ取消シタル時ハ其訴ヲ裁定セシ裁判書ニ用ヒタル文詞ノ如何ヲ問ハス又其裁判書ニ書テ預ケ置キタル罰金ノ返還ヲ命令スル事ヲ遺脱シタル時ト雖モ猶豫ナク其罰金ヲ返還ス可シ

第四百三拾八條 破毀ヲ得ントスル訟求ノ棄却セラレタル時ハ其訟求ヲ爲シタル者ハ如何ナル口實アリトモ又如何ナル憑據ニ依ルモ最早其同一ノ裁判ニ對シテ破毀ヲ得ント上訴スル事ヲ得ス

第四百三拾九條 破毀ヲ得ントスル訟求ヲ棄却シタル裁判書ハ書記ノ署名シタル單一ナル拔書ヲ以テ三日内ニ大審院ノ檢事長ニ之ヲ交付ス可シ而シテ檢事長ハ其拔書ヲ司法卿ニ送呈シ司法卿ハ其取消サント訴ヘラレタル裁判ヲ爲セシ上等裁判所又ハ下等裁判所ニ於テ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏ニ之ヲ送付ス可キモノトス

第四百四拾條 若シ第一回ノ破毀ノ後其訴ノ本案ニ付テノ第二回ノ裁判ヲ同一ノ憑據ヲ以テ駁撃シタル時ハ千八百七年九月十六日ノ法律ニ定メタル方法ニ從ヒ處分ス可キモノトス(千八百七年九月十六日ノ法律ハ千八百二十八年七月三十日ノ法律ハ千八百三十七年四月一日ノ法律ヲ以テ廢止セラレタリ但シ千八百三十七年四月一日ノ法律ハ此書ノ附錄中ニ之ヲ譯出ス)

第四百四拾壹條 若シ司法卿ヨリ附與セラレタル明確ナル命令書ヲ示シタル上ニテ大審院ニ於ケル檢事長ヨリ法律ニ抵觸シタル裁判上ノ證書又ハ上等或ハ下等裁判所ノ裁判書ヲ刑事局ニ告發シタル時ハ其證書又ハ上等

或ハ下等裁判所ノ裁判ヲ取消シ且ツ別段ノ理由アル時ハ本編第四卷第三章ニ明記シタル方法ヲ以テ警察官又ハ裁判官ノ罪ヲ訴フル事ヲ得可シ(治四八三五〇三)

第四百四拾貳條 若シ控訴裁判所又ハ重罪裁判所或ハ懲治裁判所又ハ警察裁判所ヨリ破毀ヲ受ク可キ終審ノ裁判ヲ爲シタリト雖モ定期内ニ之ヲ破毀セント訟求スル者アラサル時ハ大審院ニ於ケル檢事長其期限ノ終リタルニ拘ハラス亦其職權上ヨリ右ノ旨ヲ大審院ニ通知スル事ヲ得可ク而シテ其裁判ハ破毀セラル可シ但シ關係人ハ其裁判ノ執行ニ付キ故障ヲ申立ツル爲メ其破毀ヲ益用スル事ヲ得サルモノトス(治三七三三七四四〇九)

○第三章 再審ノ訟求

第四百四拾三條 (千八百六十七年六月二十九日ノ法律)左ノ各箇ノ場合ニ於テハ裁定シタル裁判權ノ如何ヲ問ハス重罪又ハ懲治罪ノ事項ニ於テ再審ヲ訟求スル事ヲ得可シ

第一 人殺ノ罪ノ爲メ刑ノ言渡アリタル後其殺サレタリト稱言セラレシ者ノ生存スル事ニ付キ充分ナル證憑ヲ生セシムルニ適當ナル證據物ノ差出サレタル時

第二 重罪又ハ輕罪ノ爲メ刑ノ言渡アリタル後更ニ新タナル裁判ヲ以テ同一ノ所爲ノ爲メ他ノ重罪被告人又ハ輕罪被告人ニ刑ヲ言渡シ而シテ其二箇ノ刑ノ言渡ヲ相調和セシムル事能ハサルニ依リ其抵觸カ右刑ヲ言渡サレタル者ノ中一方ノ無罪ナルノ證タル時

第三 證人中ノ一名カ刑ノ言渡アリタル後ニ其重罪被告人又ハ輕罪被告人ニ對スル僞證ノ罪ヲ訴ヘラレテ其刑ヲ言渡サレタル時

右ノ如クニ刑ヲ言渡サレタル證人ハ更ニ新タナル辨論ニ於テハ其申述ヲ聽カルヽ事ヲ得ス

第四百四拾四條 (千八百六十七年六月二十九日ノ法律)再審ヲ訟求スルノ權利ハ左ノ各人ニ屬スルモノトス

第一 司法卿

第二 刑ヲ言渡サレタル者

第三　刑ヲ言渡サレタル者ノ死去ノ後ニ於テハ其配偶者、其子、其血屬親、其全括ノ受遺囑者又ハ全括ノ名義ニ於ケル受遺囑者及ヒ刑ヲ言渡サレタル者ヨリ再審ヲ訟求スル爲メ明カナル囑託ヲ受ケタル者

懲治罪ノ事項ニ於テハ禁錮ノ刑ノ言渡又ハ國土權、民權、族權ノ執行ノ全部若クハ一部ノ禁止ヲ宣告シ又ハ惹起スル刑ノ言渡ノ爲メニ非サレハ再審ヲ爲ス事ヲ得ス

大審院ノ刑事局ハ司法卿ヨリ職權上ニテ附與シ若クハ前ニ列記シタル場合中ノ一箇ヲ申立ツル關係人ノ要求ニ依テ附與シタル明カナル命令ニ據リ本院ノ檢事長ヨリ掌轄セラル可キモノトス

前條ノ第二及ヒ第三ニ定メタル場合ニ於テハ相調和ス可カラサル二箇ノ刑ノ言渡中其第二ノモノ又ハ僞證ヲ述ヘシ證人ノ刑ノ言渡ヨリ二年ノ期限內ニ司法省ニ於テ關係人ノ再審ノ訟求書ヲ記入シタルニ非サレハ其訟求ヲ受理ス可カラス

如何ナル場合ニ於テモ再審ヲ訟求セラレタル上等又ハ下等裁判所ノ裁判

ノ執行ハ大審院ノ宣告アルニ至ル迄司法卿ノ命令ニ依リ當然之ヲ停止ス可ク然ル後別段ノ理由アル時ハ訟求ノ受理ス可キ事ヲ裁定スル大審院ノ裁判ニ依リ之ヲ停止ス可シ

第四百四拾五條（千八百六十七年六月二十九日ノ法律受理ス可キ場合ニ於テ若シ其事件カ裁判シ得可キ景狀ノモノタラサル時ハ大審院ニ於テ直接ニ又ハ委託ノ證書ニ依リ本案ニ付テノ總テノ證人訊問、對質、人違ニ非サル事ノ認定、審訊及ヒ事實ヲ明際ナラシムルニ適當ナル方法ニ取掛ル可シ

若シ其事件カ裁判シ得可キ景狀ノモノタル時大審院ニ於テ更ニ再ヒ對審ノ辨論ニ取掛ル事ヲ得可シト認定シタルニ於テハ大審院ニテ上等又ハ下等裁判所ノ裁判及ヒ再審ノ障碍タル總テノ所爲ヲ取消シテ其爲ス可キ所ノ間ヲ定メ而シテ重罪被告人又ハ輕罪被告人ヲ場合ニ從ヒ原來其事件ヲ裁定セシ裁判所ヨリ更ニ他ノ上等裁判所又ハ下等裁判所ニ移送ス可シ

陪審ニ附セラル可キ事件ニ於テハ移送セラレタル控訴裁判所ノ檢事長ニ於テ更ニ新タナル重罪公訴狀ヲ作ル可キモノトス

第四百四拾六條（千八百六十七年六月二十九日ノ法律）若シ關係各人ノ間ニ更ニ再ヒ口上ノ辨論ヲ爲サシムルヿ能ハサル時殊ニ刑ヲ言渡サレタル者一名又ハ數名ノ死去又ハ重罪缺席或ハ其他ノ缺席ノ場合及ヒ訴權ノ期滿效又ハ刑ノ期滿效ノ場合ニ於テハ大審院ニ於テ其口上ノ辨論ヲ爲サシムル事能ハサル旨ヲ明カニ証明シタル後若シ其訴ニ民事原告人ノアルニ於テハ其民事原告人ト死者各員ノ生前ノ名譽ノ爲メ大審院ヨリ擬任シタル管財人トノ面前ニテ豫メ破毀ヲ爲ス事ナク又移送ヲ爲ス事ナク其訴ノ本案ヲ裁定ス可シ

右ノ場合ニ於テ大審院ハ刑ノ言渡ノ中ニテ不正ニ爲サレタル所ノモノヽミヲ取消シ且ツ別段ノ理由アル時ハ死者ノ生前ノ名譽ヲ申雪ス可シ

第四百四拾七條（千八百六十七年六月二十九日ノ法律）第四百四十三條ノ第一ニ明記シタル再審ノ場合ニ於テ若シ生存スル所ノ刑ヲ言渡サレタル者ニ關シテ裁判ヲ取消スニ依リ重罪又ハ輕罪ノ名稱ヲ附スル事ヲ得可キモノヽ毫モ存在セサル時ハ移送ヲ宣告ス可カラス

○第四卷　特別ナル或ル訴ノ手續（第一章ヨリ第四章ニ至ル迄ハ千八百八年十二月十二日決定同月二十二日宣令第六章及ヒ第七章ハ同月十三日決定同月二十三日宣令）

○第壹章　偽造

第四百四拾八條　凡ソ書類偽造ノ爲メノ訴ニ於テハ其偽造ヲ申立テヲレタル証據物ヲ差出シタル時直チニ之ヲ書記局ニ納メ書記其各頁毎ニ之ニ署名シ及ヒ花押ヲ附シテ其証據物ノ物料上ノ景狀ノ詳細ナル調書ヲ作ル可ク又之ヲ納メタル者ノ署名スル事ヲ知ルニ於テハ亦各頁毎ニ之ニ署名シ及ヒ花押ヲ附シテ其旨ヲ記載ス可シ若シ之ニ逆フ時ハ右ノ法式ヲ履行セスシテ其証據物ヲ收受シタル書記ニ對シテ五十〔フランク〕ノ罰金ヲ言渡ス可キモノトス（條二一四以下二二五刑一四五ヨリ一六五ニ至ル）

第四百四拾九條　若シ偽造ヲ申立ヲレタル證據物ヲ公ケノ預リ所ヨリ取出シタル時ハ之ヲ手放ス所ノ官吏モ亦前條ニ記シタル如ク之ニ署名シ及ヒ花押ヲ附ス可シ若シ之ニ逆フ時ハ右ニ同シキ罰金ヲ言渡サル可キモノトス

第四百五拾條　偽造ヲ申立ヲレタル證據物ハ右ノ外司法警察官之ニ署名ス可ク又民事原告人又ハ其代書人ノ出席スル時ハ此等ノ者亦之ニ署名ス可シ

犯罪被告人モ亦其出席ノ時之ニ署名ス可シ

若シ出席人全員又ハ其中或者ノ署名スル事能ハス又ハ署名スル事ヲ欲セサル時ハ其旨ヲ調書ニ記載ス可シ

懈怠又ハ遺脱ノ場合ニ於テハ書記ニ五十「フランク」ノ罰金ヲ言渡ス可シ

第四百五拾壹條　偽造ノ訴ノ目的タル證據物カ裁判上又ハ民事上ノ證書ノ基本トナリタル時ト雖モ其偽造ニ於ケル告訴及ヒ告發ヲ常ニ繼續スル事ヲ得可シ（治六三訴二一四二五〇）

第四百五拾貳條　凡ソ偽造ヲ申立テラレタル證據物ノ公ケノ受託者又ハ私ノ受託者ハ檢察官又ハ豫審裁判官ヨリ附與シタル命令書ニ依リ其證據物ヲ差出ス可ク若シ之ニ逆フ時ハ拘留セラル可キモノトス

右ノ命令書及ヒ證據物差出シノ證書ハ其證據物ニ付キ關係ヲ有スル各人ニ對シテ其受託者ノ爲メニ義務免除ノ證トナル可キモノトス（治四四九四五四四五六訴二二一）

第四百五拾三條　照徴ノ用ヲ爲ス爲メニ差出シタル證據物ハ偽造ヲ申立テラレタル證據物ニ付キ本章ノ初メノ三條ニ記シタル如ク之ニ署名シ及ヒ花押ヲ附ス可シ若シ之ニ逆フ時ハ亦右三條ニ記スル所ト同一ノ刑ヲ受ク可キモノトス（訴二〇〇）

第四百五拾四條　凡ソ公ケノ受託者ハ假令拘留ノ方法ヲ以テスルモ其占有スル所ノ照徴ノ書類ヲ差出サシムルニ强ユル事ヲ得可シ但シ其命令書及ヒ書類差出シノ證書ハ其照徴ノ書類ニ付キ關係ヲ有スル各人ニ對シテ其受託者ノ爲メニ義務免除ノ證トナル可キモノトス（訴二〇一二二一）

第四百五拾五條 若シ公正ノ證書類ヲ移動スルノ必要ナル時ハ其受託者ニ對校シタル寫ヲ遣シ慥ヤ其郡ノ始審裁判所長ハ其細字ノ正本又ハ正本ニ據リ右ノ寫ヲ驗眞シテ其謄書ヲ作ル可シ而シテ若シ其受託者ノ公員タル時ハ右證書類ノ還付ニ至ル迄其細字正本ニ代用スル爲メ右ノ寫ヲ細字正本ノ部類中ニ加ヘテ其大字ノ副本又ハ其他ノ副本ヲ交付スル事ヲ得可シ但シ其旨ヲ謄書ニ記載ス可キモノトス

然レ𪜈若シ其證書類カ簿冊ノ一部分ヲ爲シタルニ依リ一時之ヲ引離ス事ヲ得サル時ハ裁判所ヨリ其簿冊ノ持參ヲ命令スルニ付キ本條ニ定メタル法式ヲ免除スル事ヲ得可シ(訴二〇三三六二四五以下)

第四百五拾六條 私ノ書類ト雖モ關係各人ノ之ヲ認定シタル時ハ亦照徵ノ書類トシテ之ヲ差出シ及ヒ其名義ヲ以テ許容スル事ヲ得可シ

然レ𪜈各個ノ人民ハ假令之ヲ占有スル旨ヲ自認シタル時ト雖モ直チニ之ヲ差出サシムルニ强ユル事ヲ得ス然レ𪜈若シ右ノ人民カ其差出ヲ爲サシムル爲メ又ハ其否拒ノ理由ヲ陳辨セシムル爲メ右ノ訴ヲ掌轄スル裁判所

ニ呼出サレタル後ニ敗訴トナリタル時ハ上等又ハ下等裁判所ノ裁判ヲ以テ之ヲ拘留ス可キ旨ヲ命令スル事ヲ得可シ(訴二〇〇)

第四百五拾七條 若シ證人カ訴ノ證據物ニ付キ說明ヲ爲ス時ハ之ニ花押ヲ附シ及ヒ署名ス可ク若シ署名スル事能ハサル時ハ其旨ヲ謄書ニ記載ス可シ(訴二一二三三四)

第四百五拾八條 若シ豫審又ハ訴ノ手續ノ進行中ニ其差出タル證據物ヲ關係人中ノ一人ヨリ僞造ナリト申立ツル時ハ其一人ヨリ相手方ニ右ノ證據物ヲ用ヒント欲スルヤ否ヲ申述スル事ヲ催促ス可シ(訴二一四二一五二一六)

第四百五拾九條 若シ相手方ニテ其證據物ヲ用ヒント欲セサル旨ヲ申述スル時又ハ相手方ヨリ八日內ノ期限內ニ何等ノ申述ヲモ爲サヽル時ハ其證據物ヲ訴ヨリ棄却シ而シテ其豫審及ヒ裁判ニ取掛ル可シ

若シ相手方ニ於テ其證據物ヲ用ヒント欲スル旨ヲ申述スル時ハ主タル訴ヲ掌轄スル上等裁判所又ハ下等裁判所ニ於テ其僞造ニ付テノ審理ヲ附帶ノ訴トシテ繼續ス可シ(訴二一五二一七以下)

第四百六拾條　若シ證據物ヲ偽造ナリト申立ツル者ニ於テ其證據物ヲ差出セシ者ノ其偽造ノ正犯又ハ從犯タル旨ヲ主持スル時又ハ其訴ノ手續ニ依リ偽造ノ正犯又ハ從犯ノ生存シ且ツ其重罪ノ起訴ノ期滿效ニ依テ消滅セサル旨ヲ知リ得タル時ハ其重罪ノ公訴ヲ前ニ定メタル方法ヲ以テ刑事上ニテ繼續ス可シ

若シ民事ノ訴訟アル時ハ偽造ニ付テノ宣告アルニ至ル迄其裁判ヲ延ハス可シ

若シ重罪、輕罪又ハ逆警罪ニ關スル時ハ之ヲ掌轄シタル上等裁判所又ハ下等裁判所ニ於テ檢察官ノ職務ニ任セラレタル官吏ノ申立ヲ聽キタル後孫メ其裁判ヲ延ハス可キヤヤ否ヲ裁決ス可キモノトス(訴二三九、二四〇、二五〇、四二七)

第四百六拾壹條　犯罪被告人又ハ重罪被告人ハ手記ノ文書ヲ差出シ及ヒ之ヲ作ル可キノ求メヲ受クルヿアル可シ而シテ若シ否拒又ハ默止ノ場合ニ於テハ其旨ヲ調書ニ記載ス可キモノトス(訴二〇六)

第四百六拾貳條　若シ上等裁判所又ハ下等裁判所ニ於テ假令民事ノモノタリ𪜈一箇ノ訴ノ檢査ヲ爲スニ當リ偽造ニ付テノ證憑及ヒ偽造ヲ行ヒタル者ニ付テノ證憑ヲ發見シタル時ハ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏又ハ裁判所長ヨリ其犯罪ヲ行ヒタリト思ハルヽ地若クハ犯罪被告人ヲ召捕フル事ヲ得タル地ノ管轄裁判官ニ於ケル檢事長ノ代職ニ其證據物ヲ送付ス可ク又然ノミナラス右ノ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏又ハ裁判所長ヨリ勾引狀ヲ交付スル事ヲ得可シ(訴二三九)

第四百六拾三條　若シ公正ノ證書カ其全部又ハ一部ニ於テ偽造ナリト宣告セラレタル時ハ其偽造ノ訴ヲ裁定シタル上等裁判所又ハ下等裁判所ニ於テ其證書ヲ復藉シ又ハ塗抹シ又ハ作リ直ス可キ旨ヲ命令シ而シテ右ノ諸件ヲ調書ニ記ス可シ

照微ノ書類ハ之ヲ取出セシ預リ所ニ還付シ又ハ之ヲ差出セシ各人ニ送還ス可シ但シ此等ノ諸件ハ上等又ハ下等裁判所ノ裁判ノ日ヨリ起算シテ十五日ノ期限内ニ之ヲ爲ス可ク若シ之ニ違フ時ハ書記ニ對シテ五十フラン(民一三一七、訴二四一以下)ノ罰金ヲ言渡ス可シ

第四百六拾四條　右ノ外偽造ノ罪ニ付テノ審理ハ其他ノ犯罪ニ於ケルカ如クニ之ヲ爲ス可シ但シ以下ノ例外ハ格別ナリトス

重罪裁判所長、檢事長又ハ其代職、豫審裁判官及ヒ治安裁判官ハ其管轄地外ニ於テモ偽造ノ政府發行證券、佛蘭西銀行又ハ各州銀行ノ偽造ノ手形ヲ製作シ、輸入シ又ハ分配シタルノ疑アル各人ノ家屋ニ於テ必要ナル臨檢ヲ繼續スル事ヲ得可シ

貨幣偽造又ハ國璽偽造ノ重罪ニ付テモ亦本條ノ成規ヲ適用ス可キモノトス

○第貳章　重罪ノ缺席

第四百六拾五條　若シ重罪裁判所ニ移ス裁判ノ後ニ重罪被告人ヲ召捕フル事ヲ得ス又ハ其住所ニ裁判書ヲ送付シタルヨリ十日內ニ其重罪被告人ノ出席セサル時

又ハ重罪被告人ノ出席シ或ハ召捕ヘラレタル後ニ其逃亡シタル時ハ

重罪裁判所長又其アラサルニ於テハ始審裁判所長又其數方共ニアラサル

ニ於テハ始審裁判所ノ裁判官中最先任ノ者ヨリ其重罪被告人ノ更ニ新タナル十日ノ期限內ニ出席ス可ク若シ然ラサレハ法律ノ命令ニ抗スルモノナリト宣告セラレテ國土ノ權利ノ執行ヲ停止セラレ其財產ハ重罪缺席ノ審理ノ時間之ヲ第三ノ人ニ附託シ且ツ右ト同一ノ時間其重罪被告人ニ總テ裁判所ニ於ケル訴ヲ禁止シ又其重罪被告人ニ對シテ處分ヲ爲ス可クシテ何人ニ限ラス其重罪被告人所在ノ地ヲ指示ス可キ旨ヲ記載スル命令書ヲ發ス可シ

其命令書ニハ右ノ外其重罪及ヒ拘引ノ命令書ヲ記載ス可キモノトス（治二四四六四一）

第四百六拾六條　右ノ命令書ハ次ノ日曜日ニ喇叭ヲ吹キ又ハ太鼓ヲ鳴ラシテ之ヲ公布シ且ツ重罪被告人ノ住所ノ入リ口ト邑廳ノ入リ口ト重罪裁判所ノ訟庭ノ入リ口トニ之ヲ貼附ス可シ

檢事長又ハ其代職ハ亦其命令書ヲ重罪缺席者ノ住所ノ國領財產及ヒ簿冊登記稅ノ理事者ニ差送ル可シ

第四百六拾七條　十日ノ期限ノ後ニ至リ重罪缺席ノ裁判ニ取掛ル可シ

第四百六拾八條　如何ナル代辨人如何ナル代書人タリヒ重罪缺席者タル被告人ヲ辨護スル爲メニ出席スルヿヲ得ス

若シ重罪被告人ノ歐羅巴ニアル佛蘭西ノ領地內ニ在ラス又ハ眞ニ出席スルヿ能ハサル時ハ其血屬親又ハ朋友ヨリ其辨解ノ理由ヲ申立テ、之レカ正當ナル旨ヲ辨論スルヿヲ得可シ(治二九四)

第四百六拾九條　若シ裁判所ニ於テ其辨解ノ理由ヲ正當ナリト爲シタル時ハ其辨解ノ理由ト場所ノ距離トニ準シテ定ム可キ時間中其重罪被告人ノ裁判及ヒ其財產ノ附託ヲ延ハス可キ旨ヲ命令ス可シ

第四百七拾條　右ノ場合ノ外ハ重罪裁判所ニ移送スルノ裁判書、重罪缺席者ヲ出席セシムル事ヲ以テ目的ト爲ス命令書送付ノ證書並ニ其命令書ノ公布及貼附ヲ證明スル爲メニ作リタル調書ノ謄讀ニ直チニ取掛ル可シ

其期讀ノ後裁判所ニ於テ檢事長又ハ其代職ノ請求ニ依リ重罪缺席ニ付キ宣告ヲ爲ス可シ

若シ審理ノ法律ニ適合セサル時ハ裁判所ニ於テ其審理ヲ無效ノモノナリト宣告シテ其法律ニ遵フタル最寄ノ所爲ヨリ更ニ再ヒ其審理ヲ始ム可キ旨ヲ命令ス可シ

其審理ノ正規ニ適ヒシモノタル時ハ裁判所ニ於テ重罪ノ公訴ニ付キ宣告ヲ爲シ且ツ民事上ノ關係ヲ裁定ス可シ但シ此等ノ諸件ハ陪審員ノ補助ナク又其參涉ナクシテ之ヲ爲ス可キモノトス(治二三一四〇八五一九)

第四百七拾壹條　重罪缺席者ノ刑ヲ言渡サレタル時ハ其裁判執行ノ時ヨリ以來右重罪缺席者ノ財產ヲ失踪者ノ財產ト看做シテ其財產ノ如クニ之ヲ管理ス可シ而シテ其重罪缺席ヲ滌除スル爲メニ附與セラレタル期限ノ終リシニ依リ刑ノ言渡ノ廢止ス可カラサルモノトナリタル後ニ至リ其財產受託者ノ計算ヲ當然ノ權利アル各人ニ爲ス可キモノトス(治六四一民一二〇以下)

第四百七拾貳條(千八百五十年一月二日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)刑ヲ言渡ス裁判書ノ拔書ハ其宣告ヨリ八日內ニ檢事長又ハ其代職ノ求メニ依

リ刑ヲ言渡サレタル者ノ最後ノ住所ノ州ノ新聞紙中ノ一箇ニ之ヲ記入ス可シ

又其拔書ハ右ノ外第一ニ其最後ノ住所ノ入リ口ト第二ニ重罪ヲ行ヒタル郡ノ首地タル邑ノ邑廳ノ入リ口ト第三ニ重罪裁判所ノ訟庭ノ入リ口トニ之ヲ貼附ス可シ

右ニ同シキ拔書ヲ右ト同一ノ期限内ニ重罪缺席者ノ住所ノ簿冊登記稅及ヒ國領財產管理局ノ理事者ニ差送ル可シ

法律上ニテ肖像ニ依レル裁判執行ニ附スル所ノ效力ハ本條ニ定メタル貼附ノ法式ヲ履行シタル旨ヲ證明スル最後ノ調書ノ日附ヨリ以來之ヲ生ス可キモノトス

第四百七拾三條　重罪缺席ノ裁判ニ對シ破毀ヲ得ントスルノ訴ハ檢事長及ヒ民事原告人ノミノ爲メニ開始セラルヽモノトス但シ民事原告人ハ自己ニ關スル所ノモノヽミニ付キ其訴ヲ爲スヿヲ得可シ

第四百七拾四條　如何ナル場合ニ於テモ重罪被告人中一名ノ缺席ハ出席シタル其共同重罪被告人ニ關シテ當然審理ヲ停止ス可カラス又之ヲ延ハス可カラス

裁判所ハ其共同重罪被告人ヲ裁判シタル後嘗テ有罪ノ證據物トシテ書記局ニ納メタル物品ヲ其所有者又ハ承權人ヨリ得ント求ムル時ハ之ヲ還付ス可キ旨ヲ命令スルヿヲ得可シ○裁判所ハ亦別段ノ理由アルニ於テハ更ニ其物件ヲ差出ス可キノ負任ヲ定メシメテ之レカ還付ヲ命令スルヿヲ得可シ

其還付ヲ爲ス前ニ書記ニ於テ其明記ノ調書ヲ作ル可ク若シ之ニ違フ時ハ百「フラン」ノ罰金ヲ言渡サル可シ（第三〇〇）

第四百七拾五條　若シ重罪被告人ノ妻子、父母ノ窮乏ナル時ハ其財產ヲ第三ノ人ニ附託スル間此等ノ者ニ其扶助料ヲ給與スルヿヲ得可シ

其扶助料ハ行政官ニ於テ之ヲ規定ス可シ

第四百七拾六條　重罪被告人ノ期滿效ニ依リ其刑ノ消滅セサル前ニ拘留セラレ又ハ逮捕セラレタル時ハ重罪缺席ニテ爲シタル裁判及ヒ拘引又ハ出

席ノ命令書ヨリ後ニ其重罪被告人ニ對シテ爲シタル訴ノ手續ヲ當然無效ノモノト爲シ其重罪被告人ニ關シテ通常ノ法式ヲ以テ處分ス可キモノトス

若シ然レトモ重罪缺席ニ於ケル刑ノ言渡カ准死ヲ惹起ス可キ性質ノモノニシテ其重罪被告人ノ其缺席裁判執行ノ時ヨリ五年ノ後ニ至リテ逮捕セラレ又ハ投首シタル時ハ其裁判ハ民法第三十條ニ從ヒ其五年ノ期限ノ終リシ時期ヨリ其重罪被告人ノ裁判所ニ出タル日ニ至ル迄ノ時間ニ准死ヨリ生シタル效ヲ既往ニ付キ保存ス可キモノトス(治四七七六三五六四一)

參看 准死ハ千八百五十四年五月三十一日ノ法律ヲ以テ廢止シタリ

第四百七拾七條 若シ前條ニ定メタル場合ニ於テ其原由ノ如何ヲ問ハス辨論ノ席ニ證人ヲ出スヿ能ハサル時ハ其證據ノ申述書及ヒ同罪ヲ犯セシ他ノ重罪被告人ノ返答書ヲ審問席ニ於テ讀上ク可シ其他又其犯罪及ヒ犯罪人ヲ明瞭ナラシム可キ性質ノモノナリト裁判所長ノ思考シタル總テノ證據物ニ付テモ亦右ト同一タル可シ(治二六八三一七五一二)

第四百七拾八條 投首シタル後ニ重罪公訴ノ免訴ヲ得タル重罪缺席者ハ常ニ必ス其重罪缺席ニ依テ生セシメタル費用ノ償還ヲ言渡サル可シ(治一六二一九四三六八)

○第三章 裁判官ノ其職務外ニテ行ヒタル犯罪及ヒ其職務ノ執行ニ於テ行ヒタル犯罪

○第壹節 裁判官ノ其職務外ニテ行ヒタル重罪及ヒ輕罪ノ爲メ其裁判官ニ對スル起訴及ヒ審理

第四百七拾九條 若シ治安裁判官懲治裁判所又ハ始審裁判所ノ裁判官又ハ此等ノ裁判所中ノ一箇ニ於テ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏ノ其職務外ニテ懲治ノ刑ニ當ル可キ輕罪ヲ行ヒシ旨ヲ訴ヘラレタル時ハ控訴裁判所ノ檢事長之ヲ其裁判所ニ呼出サシメ而シテ其裁判所ヨリ宣告ヲ爲ス可シ但シ其宣告ハ之ヲ控訴スルヿヲ得サルモノトス(治一七九)

第四百八拾條 若シ施體又ハ加辱ノ刑ニ當ル可キ重罪ニ關スル時ハ控訴裁判所ノ檢事長ハ司法警察官ノ職務ヲ執行ス可キ官吏ヲ指定シ又控訴裁判

所長ハ豫審裁判官ノ職務ヲ執行ス可キ官吏ヲ指定ス可シ(治五五三七一)

第四百八拾壹條 若シ控訴裁判所ノ裁判官又ハ控訴裁判所ニ於テ檢察官ノ職務ヲ執行スル官吏カ其職務外ニテ輕罪又ハ重罪ヲ行ヒシ旨ヲ訴ヘラレタル時ハ其告發狀又ハ告訴狀ヲ受ケタル官吏ハ前ニ規定シタル如クニ繼續ス可キ審理ヲ遲延セシムルヿナク直チニ其告發狀又ハ告訴狀ノ寫ヲ司法卿ニ送呈シ並ニ又其證據物ノ寫ヲ同卿ニ送呈ス可シ

第四百八拾貳條 司法卿ハ其証據物ヲ大審院ニ送付シ而シテ大審院ニ於テハ別段ノ理由アル時ハ其犯罪被告人所屬ノ控訴裁判所管轄地外ニアル懲治警察裁判所若クハ豫審裁判官ニ其訴ヲ移送ス可シ

若シ重罪裁判所ニ移ス旨ヲ宣告スル事ニ關スル時ハ他ノ控訴裁判所ニ移送ヲ爲ス可シ

○第貳節 大審院ノ各裁判官、控訴裁判所全体及ヒ重罪裁判所全体ヲ除クノ外其他ノ裁判官及ヒ裁判所ニ對シ其瀆職ノ罪及ヒ其職務ニ關スル其他ノ重罪又ハ輕罪ノ爲メ其裁判

官及ヒ裁判所ニ對スル起訴及ヒ審理

第四百八拾三條 若シ治安裁判官或ハ警察裁判官又ハ商事裁判所ノ裁判官、司法警察官懲治裁判所或ハ始審裁判所ノ裁判官又ハ此等ノ裁判官或ハ裁判所中ノ一箇ニ對シテ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏ノ其職務ノ執行ニ於テ懲治ノ刑ニ當ル可キ輕罪ヲ行ヒシ旨ヲ訴ヘラレタル時ハ第四百七十九條ニ記シタル如クニ其犯罪ヲ訴ヘ及ヒ之ヲ裁判ス可シ(旧五〇五以下刑一八四以下)

第四百八拾四條 若シ前條ニ明記シタル性質ノ官吏カ瀆職ノ刑又ハ其他ノ更ニ重劇ノ刑ニ當ル可キ重罪ヲ行ヒシ旨ヲ訴ヘラレタル時ハ通常豫審裁判官及ヒ檢事ニ任セラレタル職務ハ控訴裁判所長及ヒ控訴裁判所ノ檢事長ニ於テ各自其關係アル所ノモノニ付キ直チニ之ヲ履行シ又ハ控訴裁判所長及ヒ控訴裁判所ノ檢事長ヨリ各自特ニ指定シタル其他ノ官吏ニ於テ直チニ之ヲ履行ス可シ

犯罪ノ物件ノ存在スル場合ニ於テハ右ノ代任アルニ至ル迄ノ間ハ總テノ

司法警察官ニ於テ其犯罪ノ物件ヲ證明スルヿヲ得可シ而シテ又其餘ノ訴ノ手續ニ付テハ此法典ノ一般ノ成規ニ從フ可キモノトス(刑一二一二六一八三)

第四百八拾五條 若シ職務ノ執行ニ於テ行ヒシモノニシテ瀆職ノ刑又ハ其他ノ更ニ重劇ノ刑ニ當ル可キ重罪カ商事裁判所(懲治裁判所又ハ始審裁判所ノ全員ニ歸セラレ若クハ各個ニ控訴裁判所ノ裁判官一名或ハ數名又ハ控訴裁判所ニ於ケル檢事長及ヒ其代職ニ歸セラレタル時ハ以下ニ記スル如クニ處分ス可キモノトス

第四百八拾六條 其重罪ハ之ヲ司法卿ニ告發シ司法卿ハ別段ノ理由アル時ハ其告發ニ依リ之ヲ訴フ可キ旨ヲ大審院ノ檢事長ニ命令ス可シ

其重罪ハ亦損害ヲ被ムリタリト稱言スル各人ヨリ直接ニ之ヲ大審院ニ告發スルヿヲ得可シ但シ其各人ヨリ裁判所又ハ裁判官ニ對シテ損害賠償ヲ得ント訟求スル時又ハ其告發カ大審院ニ於テ審理中ノモノタル訴ニ附帶シタル時ノミニ限ル可シ(訴五〇五以下)

第四百八拾七條 若シ大審院ノ檢事長カ司法卿ヨリ已レニ送付シタル證據物又ハ關係人ヨリ差出シタル證據物ニ於テ其必要ナリト思考スル所ノ總テノ參照件ヲ見出サヽル時ハ其請求ニ依リ大審院長ヨリ其院ノ裁判官中一名ヲ指定メ同院所在ノ都府ニ於テ爲スヿヲ得可キ證人ノ訊問及ヒ其他ノ豫審ノ所爲ヲ行ハシム可シ(治七一以下二二八)

第四百八拾八條 若シ大審院所在ノ都府外ニ於テ證人ヲ訊問シ又ハ豫審ノ所爲ヲ行フ可キ時ハ大審院長ヨリ之レカ爲メ其犯罪ヲ訴ヘラレタル裁判所又ハ裁判官ノ州郡ヨリ更ニ他ノ州郡ノモノタリヒ豫審裁判官一名ニ總テ必要ナル代任ヲ爲ス可シ(治八四五一一)

第四百八拾九條 前條ニ記載セラレタル豫審裁判官ハ證人ヲ訊問シ及ヒ已レニ委任セラレタル豫審ヲ終了シタル後調書及ヒ其他ノ證書ヲ封緘シテ之ヲ大審院長ニ差送ル可シ(治八五五一二五一六)

第四百九拾條 大審院長ハ司法卿ヨリ送付セラレタル證據物又ハ關係人ヨリ差出シタル證據物若クハ其後ニ得タル參照件ヲ檢視シタル上ニテ拘留

狀ヲ發スル可キヿアル時ハ之ヲ發スル可シ

其令狀ニハ犯罪被告人ヲ入レ慥ク可キ收監場ヲ指定スル可キモノトス（治九五九七五〇〇六〇三六〇八以下）

第四百九拾壹條　大審院長ハ直チニ其訴ノ手續ノ書類ヲ檢事長ニ通知傳觀セシム可キ旨ヲ命令シ而シテ檢事長ハ次キノ五日內ニ犯罪被告人ノ犯罪告發ヲ記シタル自己ノ請求書ヲ願訴局ニ差送ル可シ（治二一七四八六四九二以下）

第四百九拾貳條　願訴局ニ差出シタル犯罪告發狀ヨリ前ニ拘留狀ヲ發シタルト否トヲ問ハス其局ニ於テハ總テノ事件ヲ止息シテ之ヲ裁定スル可シ

若シ其局ニ於テ犯罪告發狀ヲ棄却スル時ハ犯罪被告人ノ釋放ヲ命令スル可シ

若シ其局ニ於テ犯罪告發狀ヲ容受スル時ハ犯罪ヲ訴ヘラレタル裁判所又ハ裁判官ヲ民事局裁判官ノ面前ニ移送シ民事局裁判官ハ重罪裁判所ニ移ス事ニ付キ宣告ヲ爲ス可シ（治二二九以下）

第四百九拾三條　大審院ニ於テ審理中ノモノタル訴ニ附帶シタル犯罪ノ告發ハ其訴ヲ掌轄シタル局ニ之ヲ申告ス可シ而シテ其告發ノ容受セラレタル時ハ刑事局又ハ願訴局ヨリハ之ヲ民事局ニ移送シ又民事局ヨリハ之ヲ願訴局ニ移送ス可シ

第四百九拾四條　若シ裁判官ニ對シ損害賠償ヲ求ムルノ訴又ハ總テ其他ノ訴ヲ審問スルニ當リ直接又ハ附帶ノ犯罪告發ヲ受クル事ナクシテ大審院中ノ一局ニ於テ第四百七十九條ニ明記シタル性質ノ裁判所又ハ裁判官ヲ重罪上ニテ訴ヘシム可キ性質ノ或ル犯罪ヲ發見シタル時ハ其局ヨリ職權上ニテ前條ニ從ヒ移送ヲ命令スル事ヲ得可シ

第四百九拾五條　若シ併合シタル數局ニ申告シタル訴ノ審問ニ依リ前條ニ明記シタル職權上ノ移送ヲ爲ス可キ時ハ民事局ニ其移送ヲ爲ス可シ

第四百九拾六條　如何ナル場合ニ於テモ犯罪ノ告發ニ依リ又ハ職權ニ依リ移送ヲ爲サレタル局ハ重罪裁判所ニ移ス事ニ付キ宣告ヲ爲ス可シ

其局長ハ法律上ニテ豫審裁判官ニ附與スル所ノ職務ヲ履行ス可シ

第四百九拾七條　其局長ハ證人ノ訊問及ヒ犯罪被告人ノ審訊ヲ其犯罪被告

人所在ノ郡及ヒ州ノ外ニテ攫ミタル者ト雖モ他ノ豫審裁判官ニ委任スル事ヲ得可シ(治八四)

第四百九拾八條 其局長ヨリ交付スル所ノ收監狀ニハ其犯罪被告人ヲ送致ス可キ收監場ヲ指定ス可シ

第四百九拾九條 大審院中ノ其訴ヲ掌轄シタル局ニ於テハ公ケナラサル會席ニテ重罪裁判所ニ移ス事ヲ議定ス可シ但シ其裁判官ノ員數ハ奇數タラサルヲ得サルモノトス

若シ裁判官中ノ多數ニ於テ重罪裁判所ニ移ス可カラスト思考スル時ハ裁判書ヲ以テ其犯罪ノ告發ヲ棄却シ而シテ檢事長ハ犯罪被告人ヲ釋放セシム可シ(治二二三二二五二二九)

第五百條 若シ裁判官中ノ多數ニ於テ重罪裁判所ニ移ス可シト思考スル時ハ裁判書ヲ以テ重罪裁判所ニ移ス旨ヲ宣告ス可シ但シ其裁判書ニハ亦拘引ノ命令ヲ記載ス可キモノトス

右ノ裁判書ニ據リ重罪被告人ハ大審院ヨリ其裁判書ヲ以テ指定シタル重

罪裁判所ノ拘留場内ニ之ヲ移ス可キモノトス(治二三一以下六〇三六〇八)

第五百壹條 右ノ如クニ大審院ニ於テ爲シタル豫審ハ其法式ニ付テハ之ヲ駁擊スル事ヲ得ス

其豫審ハ罪ヲ訴ヘヲレタル裁判所又ハ裁判官ノ從犯カ司法上ノ職務ヲ執行セサル時ト雖モ其從犯ニ共通ノモノトス(治二二六四三三刑五九以下)

第五百貳條 右ノ外此法典ノ其他ノ成規ニシテ本章ニ定メタル處分ノ法式ニ抵觸セサルモノハ之ヲ遵守ス可シ

第五百三條 若シ訴ヲ移送セヲレタル重罪裁判所ノ裁判ニ對シテ爲シタル破毀ノ訴ヲ掌轄スル所ノ刑事局中ニ當テ他ノ局中ノ一箇ニ於テ重罪裁判所ニ移ス事ヲ贊助セシ裁判官ノアル時ハ其裁判官ハ其裁判ニ關スル事ヲ差控ユ可シ

然レトモ數局併合ヲ爲ス可キ第二回ノ破毀ノ訴ノ場合ニ於テハ如何ナル裁判官ト雖モ之ヲ裁定スル事ヲ得可シ

○第四章 設置セヲレタル官憲ニ對スル尊敬ヲ失フノ罪

第五百四條　若シ審問席ニ於テ又ハ其他總テ裁判上ノ審理ヲ公ケニ爲ス所ノ場所ニ於テ來聽者中ノ一名亦ハ數名カ稱讚又ハ誹謗ノ形容ヲ爲シ又ハ其方法ノ如何ヲ問ハス騷擾ヲ起シタル時ハ裁判所長又ハ裁判官之ヲ逐出サシム可ク而シテ若シ其者ノ右ノ命令ニ抗シ又ハ更ニ再ヒ入リ來ル時ハ裁判所長又ハ裁判官之ヲ逮捕シテ收監場ニ送致ス可キ旨ヲ命令シ其命令ヲ調書ニ記載ス可シ但シ收監場ノ監守人ニ右ノ命令書ヲ示シタル上ニテ其騷擾者ヲ收監場ニ收受シ二十四時間之ヲ留置ク可キモノトス（治一八一祈一〇二一八九刑二二二以下）

第五百五條　若シ其騷擾ニ添ヘテ誹毀又ハ强暴ヲ行ヒ之レカ爲メ後ニ懲治ノ刑又ハ警察ノ刑ヲ適用ス可キ時ハ其會席ニ於テ右ノ所爲ヲ證明シタル後直チニ左ノ如ク其刑ヲ宣告スル事ヲ得可シ

單一ナル警察ノ刑ハ如何ナル裁判所又ハ裁判官ヨリ發スルヲ問ハス控訴ナク之ヲ宣告ス可シ

懲治警察ノ刑ハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ヨリ其言渡ヲ爲シ又ハ裁判官一名ノミニテ其言渡ヲ爲シタル時ハ控訴ノ負任ニテ之ヲ宣告ス可シ（治一七二一八一一九九祈九一刑二二二以下）

第五百六條　若シ裁判官一名ノミノ審問席又ハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ審問席ニ於テ行ヒタル重罪ニ關スル時ハ其裁判官又ハ裁判所ニ於テ犯罪人ヲ逮捕セシメ且ツ其所爲ノ調書ヲ作リタル後其證據物ト犯罪被告人トヲ該管裁判官ノ面前ニ送ル可シ（治一八一祈九二刑二二二以下）

第五百七條　大審院控訴裁判所重罪裁判所ノ審問席ニテ行ヒタル所ノ重罪ニ變性セシ强暴又ハ總テ其他ノ現行重罪ニ關シテハ其裁判所ニ於テ即時直チニ裁判ニ取掛ル可シ

其裁判所ニ於テハ證人犯罪人並ニ其犯罪人ノ自ヲ撰ミ又ハ裁判所長ヨリ其犯罪人ノ爲メニ指定シタル代辨人ノ申述ヲ聽キ且ツ其所爲ヲ證明シテ檢事長又ハ其代職ノ申立ヲ聽キタル後其理由ヲ附シタル裁判ヲ以テ刑ヲ適用ス可シ但シ右ノ諸件ハ公ケニ爲ス可キモノトス

第五百八條　前條ノ場合ニ於テ若シ審問席ニアル裁判官ノ員數ノ五名又ハ

六名タル時ハ其刑ノ言渡ヲ爲スニハ四名ノ發言ヲ必要トス
若シ其員數ノ七名タル時ハ刑ノ言渡ヲ爲スニハ五名ノ發言ヲ必要トス
若シ其員數ノ八名以上タル時ハ全員四分三ノ發言ヲ以テ刑ヲ言渡ス裁判ヲ宣告ス可シ然レ𪜈其四分三ノ算計ニ於テ若シ端數アル時ハ其端數ヲ犯罪不問ノ爲メニ用フ可キモノトス

第五百九條　州長、郡長、邑長及ヒ副職、行政警察官又ハ司法警察官ハ其職務上ノ所爲ヲ公ケニ履行スル時ハ亦第五百四條ニ規定セラレタル警察上ノ職務ヲ執行ス可シ而シテ右ノ各員ハ騷擾者ヲ召捕ヘシメタル後其犯罪ノ調書ヲ作リテ別段ノ理由アル時ハ其調書ト犯罪被告人トヲ該管裁判官ノ面前ニ送ル可シ

○第五章　重罪懲治罪及ヒ逃警罪ノ事項ニ於テ皇族及ヒ政府ノ或ル官員ノ證據申述ヲ受ク可キ方法

第五百拾條　王家ノ血統タル男女ノ皇族、大臣及ヒ司法卿ハ陪審ノ面前ニ於テ爲ス所ノ辨論ニ付テモ決シテ證人トシテ呼出スヿヲ得ス但シ關係人中

一方ノ訟求ト司法卿ノ報告トニ依リ國王ヨリ特別ノ命令ニ依リ其出席ヲ允許シタル時ハ格別ナリトス(治三一七)

第五百拾壹條　前條ニ指名シタル各人カ控訴裁判所ノ首地ニ居住シ又ハ其首地ニ在ル時ハ前ニ定メタル例外ヲ除クノ外其分限アル各人ノ證據申述ハ控訴裁判所長ニ於テ之ヲ書面ニ記シテ收受ス可ク若シ然ラサル時ハ右各人ノ住所ヲ有シ又ハ其偶然在ル所ノ郡ノ始審裁判所長ニ於テ其證據申述ヲ書面ニ記シテ之ヲ收受ス可シ

之レカ爲メ其訴ヲ掌轄シタル裁判所又ハ豫審裁判官ヨリ前ニ記シタル裁判所長ニ其證據ヲ要スル所ノ所爲、訟求及ヒ間廻ノ目錄ヲ差送ル可シ

其裁判所長ハ右各人ノ證據申述ヲ受クル爲メ其居所ニ赴ク可シ(治八三四四八)

第五百拾貳條　右ノ如クニ收受シタル證據申述書ハ直チニ之ヲ書記局ニ差出シ又ハ之ヲ封緘シテ其請求ヲ爲シタル裁判所或ハ裁判官ニ送リ且ツ猶豫ナク之ヲ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏ニ通知他觀セシム可シ

陪審ノ面前ニ於ケル訊問ニ於テハ其證據申述書ヲ公ケニ陪審員ニ讀ミ聞カセテ辨論ニ附ス可ク若シ之ニ遵フ時ハ無效ナリトス(沿四八九)

第五百拾三條 國王ヨリ前ニ指定シタル各人中或者ノ陪審ノ面前ニ出席スル事ヲ命令シ又ハ允許シタル場合ニ於テハ其命令書ニ右ノ者ニ關シテ遵守ス可キ禮式ヲ指定スヘシ

第五百拾四條 司法卿ヲ除クノ外其他各省ノ卿、宮內ノ高官、公ケノ行政中ノ一部分ヲ委任セラレタル參議員、現役ノ將官、外國ノ朝廷ニ派出シタル大使又ハ其他ノ國王ノ代理員ニ關シテハ左ノ如クニ處分ス可シ

若シ右各人ノ居住ノ地又ハ其偶然在ル所ノ地ノ重罪裁判所又ハ豫審裁判官ノ面前ニ於テ右各人ノ證據申述ヲ要スル時ハ右ノ各人ハ通常ノ法式ヲ以テ其證據申述ヲ爲サヽルヲ得ス

若シ右各人ノ其職務執行ノ爲メニ居住スル地及ヒ右各人ノ偶然在ル所ノ地ノ外ニ於テ訴ヘラレタル事件ニ關係アル證據申述ニ關シ而シテ陪審ノ面前ニ於テ其證據申述ヲ要セサル時ハ其訴ヲ掌轄スル裁判所長又ハ豫審

裁判官ヨリ右諸官吏ノ其職務ノ爲メニ居住スル地ノ裁判所長又ハ豫審裁判官ニ右官吏ノ證據ヲ要スル所ノ爲、訟求及ヒ聞題ノ目錄ヲ差送ル可シ

若シ外國政府ニ派出シタル代理員ノ證據ニ關スル時ハ右ノ目錄ヲ司法卿ニ差送ル可ク而シテ司法卿ハ其地ニ之ヲ差送リテ證據申述ヲ受ク可キ者ヲ指定ス可シ

參看 千八百十二年五月四日ノ告令ヲ看ル可シ

第五百拾五條 前條ニ記シタル目錄ヲ差送ラレタル裁判所長又ハ豫審裁判官ハ右ノ諸官吏ヲ自己ノ面前ニ呼出サシメ書面ヲ以テ其證據申述ヲ受ク可シ

第五百拾六條 右ノ證據申述書ハ之ヲ封緘シテ其請求ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判官ノ書記局ニ之ヲ送リ且ツ第五百十二條ニ記シタル如ク之ヲ通知傳觀セシメ並ニ之ヲ讀聞カス可シ若シ之ニ遵フ時ハ同條ニ記スル所ニ同シキ罰款ヲ受ク可キモノトス(沿四八九)

第五百拾七條 若シ第五百十四條ニ明記シタル性質ノ官吏カ其職務執行ノ

爲メニ居住スル地又ハ其偶然在ル所ノ地ノ外ニ於テ集會シタル陪審ノ面前ニ證人トシテ出席スル爲メニ呼出サル、時ハ國王ノ命令ヲ以テ之ヲ免セラルヽヿヲ得可シ

此場合ニ於テ右ノ官吏ハ書面ヲ以テ其證據ヲ申述ス可ク而シテ第五百十四條第五百十五條第五百十六條ニ定メタル成規ヲ遵守ス可シ

○第六章　刑ヲ言渡サレテ逃亡シ更ニ逮捕セラレタル者ノ人違ヒニ非サル事ノ認定

第五百拾八條　刑ヲ言渡サレテ逃亡シ更ニ逮捕セラレタル者ノ人違ヒニ非サル事ノ認定ハ其刑ノ言渡ヲ宣告シタル裁判所ニ於テ之ヲ爲ス可シ

流刑又ハ追放ノ刑ヲ言渡サレタル者ノ其追放ノ命令ヲ犯シテ更ニ逮捕セラレタル時ハ其者ノ人違ヒニ非サル事ノ認定ニ付キ亦右ト同一タル可シ而シテ裁判所ハ其人違ヒニ非サル旨ヲ宣告スルニ當リ更ニ法律上ニテ右ノ逃犯ニ附スル所ノ刑ヲ其者ニ適用ス可キモノトス(刑二三)

第五百拾九條　總テ右ノ裁判ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ依リ招喚シタル

證人ノ申述ヲ聽キ若シ又更ニ逮捕セラレタル者ヨリ證人ヲ呼出サシメタル時ハ其者ノ請求ニ依リ招喚シタル證人ノ申述ヲ聽キタル後陪審ノ補助ナクシテ之ヲ爲ス可シ

其審問席ハ公ケノモノタル可ク且ツ其更ニ逮捕セラレタル者ハ必ス其席ニ在ル可シ若シ之ニ逆フ時ハ無效ナリトス(治一五三、一九〇)

第五百貳拾條　檢事長及ヒ更ニ逮捕セラレタル者ハ其人違ヒニ非サル事ノ認定ニ於ケル訴ニ依リ爲シタル裁判ニ對シ此法典ニ定メタル法式ト期限トニ於テ破毀ヲ得ント上訴スルコトヲ得可シ(治三七三、四〇八以下)

○第七章　訴ノ証據物又ハ裁判書ノ滅盡又ハ取去ノ場合ニ於テ處分スルノ方法

第五百貳拾壹條　若シ火災洪水又ハ總テ其他ノ非常ナル原由ニ依リ重罪又ハ懲治罪ノ事項ニ於テ爲シタル裁判書ノ細字正本ニシテ未タ執行セサルモノ又ハ未決ノ手續書ノ滅盡シ又ハ取去ラレ又ハ之ヲ見失ヒ而シテ更ニ之ヲ取戻スヿ能ハサル時ハ以下ニ記スル如クニ處分ス可シ(刑二五四以下)

第五百貳拾貳條 若シ裁判書ノ公正ナル副本又ハ寫ノ存在スル時ハ之ヲ細字正本ト看做ス可ク依テ裁判書保存ノ爲メニ設ケタル預リ所ニ之ヲ納ム可シ

之レカ爲メ裁判書ノ公正ナル副本又ハ寫ノ受託者タル各個ノ公ケノ役員又ハ各個ノ人民ハ其裁判ヲ爲シタル裁判所ノ長ヨリ附與セラレタル命令書ニ依リ其裁判所ノ書記局ニ其副本又ハ寫ヲ納ム可ク若シ之ニ遲フ時ハ拘留ヲ受ク可シ

其命令書ハ右ノ受託者ノ爲メニハ其證據物ニ付キ關係ヲ有スル各人ニ對シテ義務免除證書ノ用ヲ爲スモノトス

其滅盡シ、取去ラレ又ハ見失ヒタル細字正本ノ公正ナル副本又ハ寫ノ受託者ハ公ケノ預リ所ニ之ヲ納メタル上無費ニテ之レカ副本ヲ受取ル可自由ナリトス(治四五二五二三五二四民一三三四以下)

第五百貳拾三條 若シ重罪ノ事項ニ於テ其裁判書ノ公正ナル副本又ハ寫ノ最早存在セサル時陪審ノ決斷書ノ細字正本又ハ其公正ナル寫ノ猶存在スルニ於テハ其決斷書ニ從ヒ更ニ再ヒ裁判ニ取掛ル可シ

第五百貳拾四條 若シ陪審ノ決斷書ヲ最早差出スヿヲ得サル時又ハ陪審ナクシテ訴ヲ裁判シ之レカ證據タル書面ノ存在セサル時ハ細字正本並ニ公正ナル副本又ハ寫ニ於テ其證據物ノ欠缺シタル點ヨリ更ニ再ヒ審理ヲ爲シ始ム可キモノトス

○第五卷 裁判管轄ヲ定ムルノ訴

ニ裁判管轄ヲ移スノ訴(千八百八年十二月十四日決定同月二十四日宣令)

○第壹章 裁判管轄ヲ定ムルノ訴

第五百貳拾五條 凡ソ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ハ簡畧ノ式ヲ以テ單一ナル懇書ニ依リ之ヲ審理シ及ヒ裁判ス可シ(訴三六三)

第五百貳拾六條　若シ此彼互ニ管轄ヲ受ケサル上等裁判所、下等裁判所又ハ豫審裁判官ニ於テ同一ノ犯罪又ハ相率連シタル犯罪又ハ同一ノ逆警罪ノ裁定ヲ掌轄シタル時ハ重罪、懲治罪又ハ逆警罪ノ事項ニ付キ大審院ニ於テ其裁判管轄ヲ定ム可キモノトス（訴二二六、二二七、三〇八、訴三六三）

第五百貳拾七條　若シ一方ニ付テハ陸海軍ノ裁判所又ハ陸軍警察官又ハ總テ其他ノ特別裁判所ト他ノ一方ニ付テハ控訴裁判所、重罪裁判所、懲治裁判所、警察裁判所又ハ豫審裁判官トニ於テ同一ノ犯罪又ハ相率連シタル犯罪又ハ同一ノ逆警罪ノ裁定ヲ掌轄シタル時ハ亦大審院ニ於テ其裁判管轄ヲ定ム可キモノトス

第五百貳拾八條　大審院ノ刑事局ニ於テハ請願書及ヒ證據物ヲ檢視シタル上ニテ其諸件ヲ關係人ニ通知傳觀セシム可キ旨ヲ命令シ又ハ確然裁定ス可シ但シ其裁定ニ付テハ故障ノ申立ヲ爲スヿヲ得可キモノトス（訴三六四）

第五百貳拾九條　犯罪被告人、重罪被告人又ハ民事原告人ヨリ爲シタル裁判管轄抵觸ノ上訴ニ依リ通知傳觀ヲ命令スル場合ニ於テハ其裁定書ヲ以テ

相抗競シテ掌轄シタル二箇ノ裁判官懲ニ於テ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏雙方ニ其訴ノ證據物ト管轄抵觸ニ付テノ其理由ヲ付シタル意見書トヲ差出ス可キ旨ヲ命ス可シ（治五四六）

第五百三拾條　若シ右官吏中ノ一方ヨリ爲シタル上訴ニ依リ通知傳觀ヲ命令スル時ハ其裁判書ヲ以テ他ノ一方ニ證據物ト其理由ヲ附シタル意見書トヲ差出ス可キ旨ヲ命令ス可シ

第五百三拾壹條　通知傳觀ヲ爲サシムルノ裁判書ニハ管轄抵觸ヲ生セシメタル所爲ノ簡略ナル記載ヲ爲シ且ツ場所ノ距離ニ從ヒ證據物ト理由ヲ附シタル意見書トヲ書記局ニ持來ル可キ期限ヲ定ム可シ

右ノ裁判書ヲ關係人ニ送付シタル時ハ當然訴ノ裁判ノ猶豫ヲ惹起ス可ク又重罪ノ事項ニ於テハ重罪裁判所ニ移ス事ノ猶豫ヲ惹起ス可ク若シ又既ニ重罪裁判所ニ移ス事ヲ宣告シタル時ハ重罪裁判所ニ於テ陪審ヲ組成スル事ノ猶豫ヲ惹起ス可シ然レ𪜈權利保存又ハ審理ノ所爲及ヒ手續ノ猶豫ハ之ヲ惹起セサルモノトス

犯罪被告人又ハ重罪被告人及ヒ民事原告人ハ破毀ヲ得ントスルノ訴ニ付キ本編第三卷第二章ニ規定シタル法式ヲ以テ管轄抵觸ニ付テノ其憑據ヲ呈示スルヿヲ得可シ(治五五〇)

第五百三拾貳條 若シ單一ナル請願書ニ依リ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ裁定スル所ノ裁判ヲ爲シタル時ハ其裁判書ヲ大審院檢事長ノ求メニ依リ且ツ司法卿ヲ經由シテ其管轄ヲ釋カレタル上等裁判所、下等裁判所又ハ裁判官ニ對シテ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏ニ送付ス可シ

其裁判書ハ犯罪被告人又ハ重罪被告人ト民事原告人アル時ハ其民事原告人トニ亦右ニ同シク之ヲ送付ス可シ(治五四八)

第五百三拾三條 犯罪被告人又ハ重罪被告人及ヒ民事原告人ハ破毀ヲ得ントスルノ訴ニ付キ本編第三卷第二章ニ定メタル法式ヲ以テ三日ノ期限內ニ其裁判書ニ付キ故障ノ申立ヲ爲スヿヲ得可シ(治四一六以下)

第五百三拾四條 前條ニ記シタル故障申立ハ第五百三十一條ニ記シタル如ク當然訴ノ裁判ノ猶豫ヲ惹起スルモノトス

第五百三拾五條 拘留セラレタル犯罪被告人又ハ拘留場ニ留置カレサル重罪被告人及ヒ民事原告人ハ若シ豫メ其管轄ノ抵觸スル二箇ノ裁判官憲中一箇ノ所在ノ地ニ於テ住所ヲ撰定セス又ハ第五百三十三條ニ定メタル期限內ニ其住所ヲ撰定セサル時ハ故障申立ノ利益ヲ許容セラレサルモノトス

若シ右各員ノ其住所ノ撰定ヲ爲サヽル時ハ已レニ通知傳觀ヲ受ケサル旨ヲ以テ亦其抗辨ノ憑據ト爲スヿヲ得ス但シ要求者ハ右ノ各員ニ關シテ其通知傳觀ヲ爲スヿヲ免セラルヽモノトス(治六八)

第五百三拾六條 大審院ニ於テハ管轄抵觸ヲ裁判スルニ付キ其管轄ヲ釋カレタル上等裁判所、下等裁判所又ハ裁判官ノ行ヒタル總テノ所爲ヲ裁定ス可シ

第五百三拾七條 若シ管轄抵觸ノ裁判ヨリ前ニ通知傳觀ヲ爲サシムルノ裁判ヲ爲シ而シテ適法ニ其裁判ヲ執行シタル時ハ故障申立ノ方法ヲ以テ其裁判ヲ駁廢スルヿヲ得ス

第五百三拾八條　通知傳觀ヲ爲サシムルノ裁判ノ後又ハ故障申立ノ上ニテ發シタル裁判書ハ其前ニ發シタル裁判書ト同一ノ法式ヲ以テ同一ノ關係人ニ之ヲ送付ス可シ

第五百三拾九條　若シ犯罪被告人又ハ重罪被告人、檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏又ハ民事原告人ヨリ始審裁判所又ハ豫審裁判官ノ管轄違ヲ申立テ、抗辨ノ憑據ト爲シ又ハ他ノ裁判所ニ訴ヲ移サントスルノ申立ヲ爲シタル時ハ其抗辨ノ憑據ノ許容セラレタルト棄却セラレタルトヲ問ハス何人タリトモ裁判管轄ヲ定メシムル爲メ大審院ニ訴フルヿヲ得ス但シ其始審裁判所又ハ豫審裁判官ノ爲シタル裁決ニ對シテ控訴裁判所ニ上訴スルヿヲ得可ク又別段ノ理由アル時ハ控訴裁判所ヨリ爲シタル裁判ニ對シテ破毀ヲ得ント上訴スルヿヲ得可キモノトス(治一三五、四〇八、四一六)

第五百四拾條　若シ同一ノ控訴裁判所ノ管轄地内ニ設置シタル二名ノ豫審裁判官又ハ二箇ノ始審裁判所ニ於テ同一ノ犯罪又ハ相牽連シタル犯罪ノ裁定ヲ掌轄シタル時ハ本章ニ定メタル法式ニ從ヒ右ノ控訴裁判所ニ於テ

其裁判管轄ヲ定ム可シ但シ別段ノ理由アル時ハ大審院ニ訴フルヿヲ得可キモノトス

若シ二箇ノ單一ナル警察裁判所ニ於テ同一ノ違警罪又ハ相牽連シタル違警罪ノ裁定ヲ掌轄シタル時ハ其二箇ノ警察裁判所ヲ管轄スル始審裁判所ニ於テ其裁判管轄ヲ定ム可シ若シ又其二箇ノ警察裁判所カ相異ナリタル始審裁判所ノ管轄ヲ受クルモノタル時ハ控訴裁判所ニ於テ其裁判管轄ヲ定ム可シ但シ別段ノ理由アル時ハ大審院ニ訴フルヿヲ得可キモノトス(治二二六、二二七)

第五百四拾壹條　民事原告人、犯罪被告人又ハ重罪被告人ノ其起シタル裁判管轄ヲ定ムルノ訴ニ於テ敗訴トナリタル時ハ三百[フランク]ノ金額ニ過ク可カラサル罰金ヲ言渡スヿヲ得可シ但シ其罰金ノ半額ハ相手方ニ給與ス可キモノトス(旧三六七)

○第貳章　此ノ裁判所ヨリ彼ノ裁判所ニ裁判管轄ヲ移スノ訴

第五百四拾貳條　大審院ハ重罪懲治罪及ヒ違警罪ノ事項ニ付キ同院ニ於ケ

ル檢事長ノ請求ニ依リ公ケノ安寧又ハ正當ナル嫌疑ノ原由ノ爲メ一箇ノ訴ノ裁定ヲ此ノ控訴裁判所或ハ此ノ重罪裁判所ヨリ彼ノ控訴裁判所或ハ彼ノ重罪裁判所ニ移送シ又ハ此ノ懲治裁判所或ハ此ノ警察裁判所ヨリ之ト同性質ノ他ノ裁判所ニ移送シ又ハ此ノ豫審裁判官ヨリ彼ノ豫審裁判官ニ移送スルヿヲ得可シ

其移送ハ亦關係各人ノ請求ニ依リ之ヲ命令スルヿヲ得可シ然レ𪜈唯正當兼疑ノ原由ノ爲メノミニ限ルモノトス(訴三六八)

第五百四拾三條 凡ソ任意ニテ一箇ノ上等裁判所又ハ下等裁判所又ハ豫審裁判官ノ面前ニ出テタル各關係人ハ其後ニ至リ正當ナル嫌疑ヲ生セシム可キ性質アル景況ノ起リタルニ非サレハ移送ヲ訟求スルヿヲ許サス(治二六一訴三六九)

第五百四拾四條 檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏ハ正當ナル嫌疑ノ原由ニ付キ移送ヲ訟求スル爲メ直チニ大審院ニ上訴スルヿヲ得可シ然レ𪜈若シ公ケノ安寧ノ原由ニ付キ移送ノ訟求ニ關スル時ハ右ノ官吏ヨリ其要求

書其理由書及ヒ憑據タル證據物ヲ司法卿ニ送呈ス可ク而シテ司法卿ハ別段ノ理由アルニ於テハ大審院ニ之ヲ送付ス可シ

第五百四拾五條 大審院ノ刑事局ニ於テハ其請願書及ヒ證據物ヲ檢視シタル上ニテ確然裁定ヲ爲シ又ハ諸件ヲ通知傳觀セシム可キ旨ヲ命令ス可シ但シ其確然裁定ヲ爲シタル場合ニ於テハ故障ヲ申立ツルヿヲ得可キモノトス(治五二八以下)

第五百四拾六條 若シ犯罪被告人、重罪被告人又ハ民事原告人ヨリ移送ヲ訟求シタル時大審院ニ於テ即時ニ其訟求ヲ容受スルヿヲモ又棄却スルヿヲモ適當ナリト思考セサル時ハ裁判書ヲ以テ右犯罪ノ裁定ヲ掌轄シタル上等裁判所、下等裁判所又ハ豫審裁判官ニ對シテ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏ニ右ノ訟求ヲ通知ス可キ旨ヲ命令シ且ツ右ノ官吏ニ其移送ノ訟求ニ付テノ理由ヲ附シタル旨見書ト共ニ之レカ證據物ヲ差出ス可キ旨ヲ命ス可シ又其裁判書ニハ右ノ外別段ノ理由アル時ハ相手方ニモ亦其通知ヲ爲ス可キ旨ヲ命令ス可シ(治五二九)

第五百四拾七條　若シ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏ヨリ移送ノ訟求ヲ爲シタル時大審院ニ於テ確然之ヲ裁定セサルニ於テハ大審院ヨリ別段ノ理由アル時ハ關係各人ニ其通知ヲ爲ス可キ旨ヲ命令シ又ハ其必要ナリト思考スル所ノ其他ノ豫審ノ處分ヲ宣告ス可シ

第五百四拾八條　凡ソ請願書及ヒ證據物ヲ檢視シタル上ニテ移送ノ訟求ニ付キ確然裁定ヲ爲シタル裁判書ハ大審院ニ於ケル檢事長ノ求メニ依リ且ツ司法卿ヲ經由シテ其管轄ヲ釋カレタル上等裁判所、下等裁判所又ハ豫審裁判官ニ對シテ檢察官ノ職務ヲ任セラレタル官吏若クハ民事原告人、犯罪被告人又ハ重罪破告人自身又ハ其撰定シタル住所ニ之ヲ送付ス可シ(治五三二五四五)

第五百四拾九條　故障ノ申立ハ本卷第一章ニ定メタル規則ニ從ヒ且ツ其期限內ニ之ヲ爲サヽル時ハ受理ス可カラス(治五三三以下)

第五百五拾條　故障ノ申立ヲ受理セラレタル時ハ第五百三十一條ニ記スル如ク當然其訴ノ裁判ノ猶豫ヲ惹起スルモノトス

第五百五拾壹條　第五百二十五條、第五百三十條、第五百三十一條、第五百三十四條、第五百三十五條、第五百三十六條、第五百三十七條、第五百三十八條、第五百四十一條ハ此ノ裁判所ヨリ彼ノ裁判所ニ移送セントスルノ訟求ニ共通ノモノトス

第五百五拾貳條　移送ノ訟求ヲ棄却シタル裁判ハ其後ニ起リタル所爲ニ基ク所ノ新タナル移送ノ訟求ヲ排斥ス可カラサルモノトス(治五四二五四三)

○第六卷　特別裁判所(千八百八年十二月十五日決定同月二十五日宣令)

第五百五拾三條　ヨリ第五百九十九條ニ至ル迄ノ各條ハ特別裁判所ヲ廢止シタル千八百三十年ノ憲法第五十四條ヲ以テ削除シタリ

○第七卷　公ケノ資益及ヒ一般ノ安寧ニ關スル或ル事件（千八百八年十二月十六日決定同月二十六日宣令）

○第壹章　裁判書書留ノ一般ノ時藏

第六百條　懲治裁判所及ヒ重罪裁判所ノ書記ハ懲治ノ爲メノ禁錮ノ刑又ハ更ニ重劇ノ刑ヲ言渡サレタル各人ノ姓名、職業、年齢、居住ヲ〔アベセ〕ノ順序ヲ以テ特別ノ簿冊ニ記載ス可シ但シ其簿冊ニハ各箇ノ訴及ヒ刑ノ言渡ノ簡畧ナル書留ヲ記ス可ク若シ之ニ逆フ時ハ各箇ノ遺脫毎ニ五十〔フランク〕ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第六百壹條　書記ハ三月毎ニ右簿冊ノ寫ヲ司法卿及ヒ警察卿ニ送呈ス可ク若シ之ニ逆フ時ハ百〔フランク〕ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第六百貳條　右ノ二卿ハ前ニ記シタル所ト同一ノ法式ヲ以テ其各箇ノ寫ヨリ組成シタル總簿冊ヲ設ケシム可シ

○第貳章　獄舍收監場及ヒ拘留場

第六百三條　處刑ノ爲メニ設置シタル獄舍ニ拘ハラス各郡ニ於テ始審裁判所ニ附屬シテ犯罪被告人ヲ留置ク爲メノ收監場ヲ設ク可ク又各箇ノ重罪裁判所ニ附屬シテ拘引ノ命令書ヲ發セラレタル者ヲ留置ク爲メノ拘留場ヲ設ク可シ（治一〇〇、一〇四、一〇七、一一〇、二四三、四九〇、五〇〇、刑一二二、二三七）

第六百四條　收監場及ヒ拘留場ハ處刑ノ爲メニ設置シタル獄舍ト全ク相異ナリタルモノトス（治六〇三、六〇五以下）

第六百五條　各州長ハ收監場及ヒ拘留場ノ堅牢ナルノミナラス其清潔ニシテ囚人ノ健康ヲ害セサルモノタル様注意ス可シ（治六一一以下）

第六百六條　收監場及ヒ拘留場ノ監守人ハ州長ヨリ之ヲ撰任ス可シ

第六百七條　收監場拘留場及ヒ獄舍ノ監守人ハ一箇ノ簿冊ヲ設ケ置ク可シ其簿冊ハ收監場ニ付テハ各頁毎ニ孫審裁判官之ニ署名シ及ヒ花押ヲ附ス可ク又拘留場ニ付テハ各頁毎ニ重罪裁判所長又其不在ニ於テハ始審裁判所長之ニ署名シ及ヒ花押ヲ附ス可ク又處刑ノ爲メノ獄舍ニ付テハ州長之

ニ署名シ及ヒ花押ヲ附ス可シ(治六〇四、六〇八以下六一八刑一二〇)

第六百八條　凡ソ收監狀、拘引ノ命令書、拘留ノ命令書又ハ處刑言渡ノ裁判書ヲ執行スル者ハ其送致スル各人ヲ監守人ニ交付スル前ニ其所持スル所ノ證書ヲ簿冊ニ記入セシム可ク而シテ交付ノ證書ハ其者ノ面前ニ於テ之ヲ書記ス可シ

右ノ諸件ハ其者ト監守人トニ於テ之ニ署名ス可シ

監守人ハ其者ノ義務免除ノ爲メ自己ノ署名シタル其寫ヲ其者ニ交付ス可シ(治一〇〇、一〇四、一〇七、一一〇、六〇七、六〇九以下)

第六百九條　如何ナル監守人タリトモ法律ニ定メタル法式ニ從ヒ發セラレタル勾留狀若クハ收監狀若クハ重罪裁判所ニ移スノ裁判書、重罪公訴ノ告令書又ハ施體ノ刑或ハ禁錮ノ刑ヲ言渡ス上等又ハ下等裁判所ノ裁判書ニ據リ且ツ自己ノ簿冊ニ之レカ登記ヲ爲シタルニ非サレハ如何ナル人ヲモ收受スルヿヲ得ス又之ヲ留置クヿヲ得ス若シ之ニ逆フ時ハ擅枉ナル收監ノ罪アリトシテ訴ヘラレ及ヒ罰ヲ受ク可シ

第六百拾條　前ニ記シタル簿冊ニハ亦交付ノ證書ノ端ニ囚人ノ出場ノ日附並ニ其出場ヲ爲サシムル命令書又ハ上等或ハ下等裁判所ノ裁判書ヲ附記ス可シ

第六百拾壹條　豫審裁判官ハ本郡ノ收監場內ニ留置セラレタル各人ヲ少クモ毎月一回巡視ス可シ

重罪裁判所長ハ拘留場內ニ留置セラレタル各人ヲ其重罪裁判所ノ各會席ヲ開ク毎ニ少クモ一回巡視ス可シ

州長ハ本州內ノ各拘留場及ヒ獄舍並ニ囚人ヲ少クモ毎年一回巡視ス可シ

第六百拾貳條　前條ニ定メタル巡視ニ拘ハラス收監場若クハ拘留場若クハ獄舍所在ノ各邑ノ邑長又邑長ノ數名アル各邑ニ於テハ警察總長又ハ警部長少クモ毎月一回右各所ノ巡視ヲ爲ス可シ

第六百拾三條　千八百六十五年七月十四日ノ法律巴里ニ於テハ警察總長又州長ノ警察總長ノ職務ヲ履行スル所ノ各都府ニ於テハ州長又其他ノ各都府又ハ各邑ニ於テハ邑長其囚人ノ飲食物ノ充分ニシテ且ツ衛生上ノ害ナ

キヿニ注意ス可シ但シ右各所ノ警察權ハ右ノ各員ニ屬スルモノトス

然レトモ豫審裁判官及ヒ重罪裁判所長ハ收監場及ヒ拘留場内ニ於テ執行ス可キ總テノ命令ニシテ審理ノ爲メ若クハ裁判ノ爲メニ其必要ナリト思フ所ノモノヲ各自附與スルヿヲ得可シ

若シ豫審裁判官カ犯罪被告人ニ關シテ接見ノ禁止ヲ定メサルヲ得スト思フ時ハ獄舍ノ簿冊ニ登記ス可キ命令書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス○其禁止ハ十日以外ニ及ホスヿヲ得スト雖モ之ヲ更新スルヿヲ得可シ○右ノ旨ハ之ヲ檢事長ニ報告ス可キモノトス

第六百拾四條 若シ或ル囚人カ監守人又ハ其下役ニ關シ若クハ他ノ囚人ニ關シテ脅迫罵詈又ハ暴行ヲ爲ス時ハ其當然ノ權力アル者ノ命令ヲ以テ更ニ嚴密ニ之ヲ禁錮シ又ハ唯一人ニテ之ヲ監禁シ又然ノミナラス暴怒又ハ重劇ナル暴行ノ場合ニ於テハ之ヲ鎖繫ス可キモノトス但シ之レカ爲メニ爲スヿアル可キ犯罪ノ訴ト相關ルヽヿナカル可シ(刑二〇九以下二一九以下)

○第三章 不法ノ收監又ハ其他ノ擅枉ナル所爲ニ對シテ各人ノ自由ヲ確保スルノ方法

第六百拾五條 共和立國第八年「フリメイル」月二十二日ノ憲法第七十七條、第七十八條、第七十九條、第八十條、第八十一條、第八十二條ニ據リ何人ニ限ラス收監場、拘留場又ハ獄舍ノ用ニ供セサル場所ニ收監セラルヽ者アル事ヲ知リタル各人ハ治安裁判官、檢事或ハ其代職又ハ豫審裁判官又ハ控訴裁判所ニ於ケル檢事長ニ其旨ヲ通知ス可シ(刑一一四以下一二〇三四一以下)

第六百拾六條 各治安裁判官、檢察官ノ職務ヲ任セラレタル各官吏、各豫審裁判官ハ其職權上ヨリ又ハ其受ケタル通知ニ依リ直チニ其擅枉ノ收監ヲ爲シタル場所ニ赴キテ其收監セラレタル者ヲ釋放セシム可ク若シ又其收監ニ付キ或ル適法ノ原由ヲ申立テラレタル時ハ其收監セラレタル者ヲ即時ニ該管裁判官ノ面前ニ送致セシム可キモノトス若シ之ニ遵フ時ハ其擅枉ナル收監ノ從犯トシテ其罪ヲ訴ヘラル可シ

其各員ハ右ノ諸件ヲ其調書ニ記ス可キモノトス(刑一一九以下)

第六百拾七條 其各員ハ已ムヲ得サル場合ニ於テハ此法典第九十五條ニ定

メタル法式ヲ以テ一箇ノ命令書ヲ發ス可シ

若シ抗拒スル者アル場合ニ於テハ其各員ハ必要ナル力ノ助ケヲ受クルヿヲ得可ク而シテ何人ニ限ラス其請求ヲ受ケタル者ハ助力ヲ爲ス可キモノトス(治一〇八)

第六百拾八條　凡ソ收監場、拘留場又ハ獄舍ノ警察權ヲ有スル文官ノ命令書ノ所持人ヨリ其收監セラレタル者ヲ見ント欲スルノ請求ヲ受ケテ之ヲ示スヿヲ否ミタル監守人又ハ其收監セラレタル者ヲ接見セシムルヲ禁示スル命令書ヲ示スヿヲ否ミタル監守人又ハ治安裁判官ニ其簿冊ヲ示スヿヲ否ミ或ハ治安裁判官ノ其簿冊ノ一部分ノ必要ナリト思考スル寫ヲ取ラシムルヿヲ否ミタル監守人ハ擅枉ナル收監ノ罪アリ又ハ其從犯ナリトシテ其罪ヲ訴ヘラル可シ(治六〇七六〇九刑一二〇三四一)

○第四章　刑ヲ言渡サレタル者ノ復權(此書ニ記スル所ノ本章中ノ各條ハ千八百五十二年七月三日ノ法律ヲ以テ改定シタルモノナリ)

第六百拾九條　凡ソ施體又ハ加辱ノ刑又ハ懲治ノ刑ヲ言渡サレタル者ノ其刑ヲ受ケ終リタル時又ハ時赦狀ヲ得タル時ハ復權セラルヽヿヲ得可シ(刑七以下)

第六百貳拾條　施體又ハ加辱ノ刑ヲ言渡サレタル者ノ爲メノ復權ノ諸願ハ其釋免ノ日ヨリ五年ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

然レトモ其期限ハ公權剝奪ノ刑ヲ言渡サレタル者ノ爲メニハ其言渡ノ廢止ス可カラサルモノトナリタル日ヨリ之ヲ起算ス可ク又禁錮ノ刑ヲ宣告シタル時ハ其刑ノ終リタル日ヨリ之ヲ起算ス可シ

其期限ハ主刑トシテ宣告セラレタル高等警察ノ監視ヲ言渡サレタル者ノ爲メニハ其言渡ノ廢止ス可カラサルモノトナリタル日ヨリ之ヲ起算ス可シ

其期限ハ懲治ノ刑ヲ言渡サレタル者ノ爲メニハ之ヲ減シテ三年トス(刑七以下三四三六四四以下)

第六百貳拾壹條　施體又ハ加辱ノ刑ヲ言渡サレシ者ハ五年以來同一ノ郡內

ニ居住シ且ツ其最後ノ二年間ハ同一ノ邑内ニ居住シタルニ非サレハ其復權ヲ請願スルヿヲ許サレサルモノトス

德治ノ刑ヲ言渡サレシ者ハ三年以來同一ノ郡内ニ居住シ且ツ最後ノ二年間ハ同一ノ邑内ニ居住シタルニ非サレハ其復權ヲ請願スルヿヲ許サレサルモノトス

第六百貳拾貳條 刑ヲ言渡サレシ者ハ其復權ノ請願書ヲ本郡ノ檢事ニ差出シテ左ノ諸件ヲ申出ツ可シ

第一 其刑ノ言渡ノ日附

第二 釋免ノ時期ヨリ後ニ第六百二十條ニ定メタル時間ヨリモ更ニ長キ時間ノ經過シタル時ハ其釋免以後ニ居住シタル地

第六百貳拾三條 刑ヲ言渡サレシ者ハ其言渡サレタル裁判ノ費用罰金及ヒ損害賠償ヲ辨濟シタル事又ハ之ヲ釋放セラレタル事ヲ証明セサルヲ得ス」若シ刑ヲ言渡サレシ者ノ其証明ヲ爲サヽルニ於テハ法律上ニ定メタル時間拘留ヲ受ケタル事又ハ損害ヲ被ムリタル者ノ其執行ノ方法ヲ拋棄シタル事ヲ証セサルヲ得ス

若シ其者ノ詐欺ノ倒産ノ爲メニ刑ヲ言渡サレシ時ハ家資分散ノ所動件ヲ元金利息及ヒ費用共ニ辨濟シタル事又ハ之ヲ釋放セラレタル事ヲ証明セサルヲ得ス(商五九一刑四〇二四〇四四六三)

第六百貳拾四條 檢事ハ其刑ヲ言渡サレシ者ノ居住シタル各邑ノ邑會ヲシテ左ノ諸件ヲ知ラシムル所ノ証明ヲ議定セシムル事ヲ郡長ヲ經由シテ要求ス可シ

第一 其者ノ各邑内ニ於ケル居住ノ時間並ニ其居住ヲ爲シ始メタル日及ヒ之ヲ爲シ終リタル日ノ指示

第二 其在住中ノ品行

第三 其在住中ノ生計ノ方法

右ノ証明書ニハ復權請願ノ判定ニ用フル爲メ之ヲ作リタル旨ヲ明白ニ記載セサル可ラス

檢事ハ右ノ外其刑ヲ言渡サレシ者ノ居住シタル各邑ノ邑長及ヒ各縣ノ治

安裁判官並ニ其郡ノ郡長ノ意見ヲ問フ可シ

第六百貳拾五條　檢事ハ左ノ諸件ヲ受取ル可シ

第一　刑ヲ言渡シタル裁判書ノ副本

第二　刑ヲ言渡サレシ者ノ品行如何ヲ証明スル其處刑收監所ノ簿冊ノ拔書

檢事ハ右ノ証據物ニ自己ノ意見書ヲ添ヘテ之ヲ檢事長ニ送付ス可シ

第六百貳拾六條　刑ヲ言渡サレシ者ノ居住スル地ヲ管轄スル控訴裁判所ハ其請願ヲ掌轄スルモノトス○其証據物ハ檢事長ノ管照ヲ以テ右裁判所ノ書記局ニ之ヲ納ム可シ

第六百貳拾七條　其証據物ヲ納メタル時ヨリ二月內ニ其事件ヲ重罪取調局ニ報告シ而シテ檢事長ハ書面ヲ以テ其理由ヲ附シタル請求ヲ爲ス可シ

檢事長ハ取調中何時タリトモ更ニ新タナル審理ヲ請求スルヿヲ得可ク又裁判所ハ假令其職權上タリトモ之ヲ命令スルヿヲ得可シ但シ之レカ爲メ六月以上ノ遲延ヲ生セシムルヿヲ得ス

第六百貳拾八條　裁判所ニ於テハ檢事長ノ申立ヲ聽キタル上ニテ其理由ヲ附シタル意見ヲ發ス可シ

第六百貳拾九條　若シ裁判所ノ意見カ復權ヲ可トセサルモノタル時ハ更ニ二年ノ期限ノ終ヲサル前ニ再ヒ請願ヲ爲スヿヲ得ス

第六百三拾條　若シ其意見カ復權ヲ可トスルモノタル時ハ其意見書ト差出シタル証據物トヲ成ル可キ丈速カニ檢事長ヨリ司法卿ニ送呈シ司法卿ハ書テ其刑ノ言渡ヲ宣告セシ上等裁判所又ハ下等裁判所ニ諮問スルヿヲ得可シ

第六百三拾壹條　皇帝(共和國大統領)ハ司法卿ヨリ報告ノ上ニテ裁定ス可シ

第六百三拾貳條　請願許容ノ場合ニ於テハ復權狀ヲ發ス可シ

第六百三拾三條　復權狀ハ意見ヲ議定シタル裁判所ニ之ヲ差送ル可シ

又其公正ナル寫ヲ書テ其刑ノ言渡ヲ宣告セシ上等裁判所又ハ下等裁判所ニ差送ル可シ○其復權狀ハ刑ヲ言渡セシ裁判書ノ細字正本ノ端ニ之ヲ登記ス可シ

第六百三拾四條 復權ハ刑ヲ言渡サレシ者ノ身ニ於テ將來其刑ノ言渡ヨリ生セシ所ノ總テノ無能力ヲ止息セシム

前記ノ成規ニ據リ得タル復權ニ拘ハラス商法第六百十二條ニ定メタル禁止ヲ保存ス可シ

何人タリトモ重罪ノ爲メニ刑ヲ言渡サレタル後更ニ重罪ヲ犯シテ再ヒ施體又ハ加辱ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ復權ヲ許容セラレサルモノトス

刑ヲ言渡サレシ者ノ其復權ヲ得タル後更ニ再ヒ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ最早前記ノ成規ノ利益ヲ許容セラレサルモノトス

○第五章 期滿效

第六百三拾五條 重罪ノ事項ニ於テ爲シタル上等又ハ下等裁判所ノ裁判書ニ載セタル刑ハ其裁判書ノ日附ヨリ起算シ滿二十年ヲ以テ期滿效ニ依リ消滅スルモノトス

然レトモ刑ヲ言渡サレタル者ハ其重罪ノ爲メ身體又ハ財産ニ害ヲ受ケタル者若クハ其者ノ直系ノ相續人ノ居ル所ノ州內ニ居住スルヿヲ得ス

政府ハ刑ヲ言渡サレタル者ニ其住所ノ地ヲ指定ムルヿヲ得可シ(民二二一九以下)

第六百三拾六條 懲治罪ノ事項ニ於テ爲シタル上等又ハ下等裁判所ノ裁判書ニ載セタル刑ハ其終審ニテ爲シタル裁判書ノ日附ヨリ起算シ滿五年ヲ以テ期滿效ニ依リ消滅スルモノトス又始審裁判所ヨリ宣告シタル刑ニ關シテハ控訴ノ方法ヲ以テ之ヲ駁擊スルヿヲ得サルニ至リシ日ヨリ起算シ滿五年ヲ以テ期滿效ニ依リ消滅スルモノトス(治二〇三二〇五)

第六百三拾七條 死刑又ハ無期ノ施體ノ刑ヲ惹起ス可キ性質ノモノタル重罪又ハ其他總テ施體或ハ加辱ノ刑ヲ惹起ス可キ重罪ヨリ生スル所ノ公訴權及ヒ民事訴權ハ其重罪ヲ行ヒタル日ヨリ起算シ滿十年ノ後ニ期滿效ニ依リ消滅スルモノトス但シ其間ニ如何ナル審理ノ所爲ヲモ又起訴ノ所爲ヲモ行ハサルヿヲ必要トス

若シ其間ニ審理ノ所爲又ハ起訴ノ所爲ヲ行ヒタルヿアリテ之ニ引續テ裁判ヲ爲サヽリシ時ハ假令其審理ノ所爲又ハ起訴ノ所爲中ニ關係セサリシ

各人ニ關シテモ其公訴權及ヒ民事訴權ハ最後ノ所爲ヨリ起算シ滿十年ノ後ニ非サレハ期滿效ニ依リ消滅セサルモノトス(治二民二二四四)

第六百三拾八條　若シ懲治上ニテ罰スヘキ性質ノモノタル輕罪ニ關スル時ハ前條ニ明記シタル二箇ノ場合ニ於テ且ツ前條ニ定メタル時期ノ差別ニ從ヒ期滿效ノ期限ヲ減シテ滿三年トス

第六百三拾九條　逆警罪ニ付キ爲シタル裁判書ニ載セタル刑ハ終審ニ於ケル上等又ハ下等裁判所ノ裁判ニ依リ宣告シタル刑ニ付テハ其裁判ノ日ヨリ起算シ滿二年ノ後ニ期滿效ニ依リ消滅スルモノトシ又始審裁判所ヨリ宣告シタル刑ニ關シテハ控訴ノ方法ヲ以テ之ヲ駁撃スルヿヲ得サルニ至リシ日ヨリ起算シ滿二年ノ後ニ期滿效ニ依リ消滅スルモノトス(治一三七一七二一七四)

第六百四拾條　逆警罪ノ爲メノ公訴權及ヒ民事訴權ハ假令調書差押審理又ハ起訴ノアリタル時ト雖モ若シ刑ノ言渡アラサルニ於テハ其逆警罪ヲ行ヒタル日ヨリ起算シ滿一年ノ後ニ期滿效ニ依リ消滅スルモノトシ若シ又

控訴ノ方法ヲ以テ駁撃スルヿヲ得可キ性質ノモノタル始審ノ確定裁判アリタル時ハ其公訴權及ヒ民事訴權ハ控訴狀ノ送付ヨリ起算シ滿一年ノ後ニ期滿效ニ依リ消滅スルモノトス

第六百四拾壹條　如何ナル場合ニ於テモ犯罪缺席又ハ重罪缺席ニテ刑ヲ言渡サレシ者ノ其刑ノ期滿效ニ依リ消滅シタル時ハ其犯罪缺席又ハ重罪缺席ヲ滌除スル爲メニ出席スルヿヲ許サス(治一四九一八六四六五四七六以下)

第六百四拾貳條　重罪懲治罪逆警罪ノ事項ニ於テ發シタルモノニシテ廢止ス可カラサルモノトナリタル上等又ハ下等裁判所ノ裁判書ニ載セタル民事上ノ言渡ハ民法ニ定メタル規則ニ從ヒ期滿效ニ依リ消滅スルモノトス(民二二六二)

第六百四拾三條　本章ノ成規ハ或ル輕罪又ハ或ル逆警罪ヨリ生スル訴權ノ期滿效ニ關シタル別段ノ法律ニ觸ルヽヿナカル可シ(刑四八四林一八五)

○前加成規（千八百十年二月十二日決定同月二十二日宣令）

第壹條　法律上ニテ警察ノ刑ヲ以テ罰スル所ノ違犯ハ違警罪タリ

法律上ニテ懲治ノ刑ヲ以テ罰スル所ノ違犯ハ輕罪タリ

法律上ニテ施體又ハ加辱ノ刑ヲ以テ罰スル所ノ違犯ハ重罪タリ（刑二六、七九、四〇以下、四六四以下、治一三七以下、一七九以下）

第貳條　凡ソ執行ノ開端ニ依リ顯ハレタル重罪ノ謀試ハ其犯人ノ意ニ關セサル景況ノミニ依テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ仕損シタル時ハ即チ重罪ト看做ス可シ（刑七六、八八以下、一七九、三一、一七三、三一、四〇五）

第三條　輕罪ノ謀試ハ法律ノ特別ナル成規ヲ以テ定メタル場合ニ非サレハ輕罪ト看做ス可カラス（刑一七九、二四一、三四五、三八八、四〇〇、四〇一、四〇五、四一四、四一五）

第四條　如何ナル違警罪、如何ナル輕罪、如何ナル重罪ト雖モ之ヲ行フ前ニ法

律上ニ定メアラサル刑ヲ以テ罰スルヿヲ得ス(刑四三五〇民二)

第五條　此法典ノ成規ハ軍事ノ逆警罪、輕罪、重罪ニ適用セサルモノトス(刑五六)

○第壹編　重罪及ヒ懲治罪ノ事項ニ於ケル刑及ヒ其效力(千八百十年二月十二日ノ法律ノ續)

第六條　重罪ノ事項ニ於ケル刑ハ施體且ツ加辱ノモノアリ又ハ唯加辱ノミノモノアリ(刑七八二一)

第七條　施體且ツ加辱ノモノタル刑ハ左ノ如シ

第一　死刑
第二　無期ノ徒刑
第三　流刑
第四　有期ノ徒刑
第五　禁獄
第六　懲役(刑二一以下二八ヨリ三一ニ至ル三四三六四七五六七〇以下)

第八條　加辱ノ刑ハ左ノ如シ

第一　追放
第二　公權剝奪(刑二八三二三四三五三六四八五六)

第九條　懲治罪ノ事項ニ於ケル刑ハ左ノ如シ

第一　懲治ノ場所ニ於ケル有期ノ禁錮

第二　特定ノ國土糧民糧又ハ族糧ノ有期ノ禁止

第三　罰金(刑一一四〇四二五二五五八)

第拾條　法律上ニ定メタル刑ノ言渡ハ關係各人ニ對シテ負擔スルヿアル可キ物件返還及ヒ損害賠償ニ必ス抵觸スルヿナキ樣之ヲ宣告ス可シ(刑五一以下一一七二四四六八治一二三六六一六一九一三五八三六六)

第拾壹條　高等警察ノ特別監視ニ附スル事及ヒ罰金並ニ犯罪物件ノ所有糧カ刑ヲ言渡サレタル者ニ屬スル時ハ其犯罪物件ノ特別ナル沒收若クハ犯罪ニ依テ得タル物件若クハ犯罪ヲ行フニ用ヒ又ハ犯罪ヲ行フノ用ニ供シタル物件ノ特別ナル沒收ハ重罪及ヒ懲治罪ノ事項ニ共通ノ刑トス(刑四四以下四七一七六一八〇四六四四七〇四七七四八一治六三五)

○第壹章　重罪ノ事項ニ於ケル刑

第拾貳條　凡ソ死刑ヲ言渡サレタル者ハ之ヲ斬首ス可シ(刑一三一四三六治三七七

以下)

第拾三條　尊屬親殺害ノ爲メニ死刑ヲ言渡サレタル者ハ繩絆ノ儘跣足ニテ頭ニ黑絹ヲ被ラシメ處刑ノ場所ニ送致ス可シ

其者ハ裁判所使吏ノ處刑言渡ノ裁判書ヲ公衆ニ讀ミ聞カス間刑壇ノ上ニ肆シ置キテ直チニ之ヲ死刑ニ處ス可シ(刑八六二九九三〇二)

第拾四條　死刑ニ處セラレタル者ノ遺骸ハ其親族ヨリ請求スル時ハ之ヲ交付ス可シ但シ親族ハ禮式ナク之ヲ埋葬セシム可キモノトス

第拾五條　徒刑ヲ言渡サレタル者ハ至難ノ役ニ使用セラル可シ但シ其使用セラルヽ役ノ性質ニ依リ爲シ得可キ時ハ其兩足ニ重球ヲ繫キ又ハ二人ツヽ鎖ヲ用ヒテ聯接ス可キモノトス(刑七五六七〇)

參看　千八百五十四年五月三十日ノ法律ヲ看ル可シ

第拾六條　徒刑ヲ言渡サレタル婦女ハ苦役場ノ內部ノミニ於テ使用セラル可シ

參看　前條ニ同シ

第拾七條（千八百三十五年九月九日ノ法律）

流刑ハ王國（共和國）ノ大陸ノ領地外ニ於テ法律上ニ定メタル地ニ移送セラレ期限無ク其地ニ居住スルニ在リトス

若シ流刑ニ處セラレタル者ノ王國（共和國）ノ領地内ニ歸リ來ル時ハ其者ノ人違ニ非サルノ證據ノミニ依リ無期ノ徒刑ヲ言渡サル可シ

流刑ヲ言渡サレタル者ノ王國（共和國）ノ領地内ニ歸リ來ラスト雖モ佛蘭西兵ノ占據スル國ニ於テ召捕ヘラレタル時ハ其流刑ノ地ニ送致セラル可シ」

流刑ノ地ヲ設定セサル間ハ裁判官ノ其處刑言渡ノ裁判書ヲ以テ明白ニ裁定シタル所ニ從ヒ其刑ヲ言渡サレタル者王國（共和國）ノ獄舍ニテ期限無ク禁獄ノ刑ヲ受ケ若クハ法律上ニ定ムル可キ佛蘭西領地中ノ一箇ニ於テ其大陸ノ領地外ニ在ル獄舍ニテ期限無ク禁獄ノ刑ヲ受ク可シ

若シ本國ト處刑ノ場所トノ間ニ往來ノ極塞シタル時ハ佛蘭西ニ於テ假リニ處刑ノ執行ヲ爲ス可シ（刑七三六七〇）

第拾八條　無期ノ徒刑及ヒ流刑ヲ言渡シタル時ハ准死ヲ惹起スルモノトス

○然レトモ政府ハ流刑ヲ言渡サレタル者ニ民權ノ執行又ハ民權中或者ノ執行ヲ許ルスヿヲ得可シ（本條ハ准死ヲ廢シタル千八百五十四年五月三十一日ノ法律ヲ以テ削除シタリ）

第拾九條　有期徒刑ノ言渡ハ少クトモ五年間多クトモ二十年間之ヲ宣告ス可シ（刑七ノ第四四七五六七〇七二）

第貳拾條　何人ニ限ラス禁獄ヲ言渡サレタル者ハ公ケノ行政規則ノ體裁ヲ以テ發シタル國王ノ命令書（共和國大統領ノ告令書）ニ依リ定ムル所ノ王國（共和國）大陸ノ領地内ニ在ル城築中ニ之ヲ監禁ス可シ

其者ハ國王ノ命令書（共和國大統領ノ告令書）ニ定メタル警察規則ニ從ヒ其禁獄場ノ内部ニ在ル各人又ハ其外ニ在ル各人ト通交ス可シ

禁獄ハ五年間ヨリ少ナク又二十年間ヨリ多ク之ヲ宣告スルヿヲ得ス但シ第三十三條ニ定メタル場合ハ格別ナリトス（刑七ノ第五一七二三四七五六七一）

第貳拾壹條　凡ソ男女ヲ問ハス懲役ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ苦役場内ニ監禁セラレテ使役ヲ受ク可シ但シ其使役ノ上リ高ハ政府ヨリ規定スル如ク

二一部分ハ其者ノ利益ニ於テ之ヲ用フルヿヲ得可キモノトス

此刑ノ期限ハ少クトモ五年多クトモ十年タル可シ(刑七ノ第六二二以下四七七一以下)

第貳拾貳條　何人ニ限ラス無期ノ徒刑有期ノ徒刑又ハ懲役ノ刑中ノ一箇ヲ言渡サレタル者ハ其刑ヲ受クル前ニ一時間公場ニ於テ公衆ノ目前ニ肆シ慴ク可シ○其者ノ頭上ニ其姓名職業住所刑名及ヒ其處刑言渡ノ原由ヲ認ミ易キ大字ニテ記シタル貼附書ヲ慴ク可シ

有期ノ徒刑又ハ懲役ノ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テハ重罪裁判所ヨリ其刑ヲ言渡サレタル者ノ再犯ノ景狀ニアラサルニ於テハ公肆ヲ受ケサル可キ旨ヲ其裁判書ヲ以テ命令スルヿヲ得可シ

然レトモ十八歲以下ノ幼者及ヒ七十歲以上ノ者ニ關シテハ決シテ公肆ヲ宣告ス可カラス(刑七七〇以下一六五)

本條ハ公肆ノ刑ヲ廢止シタル千八百四十八年四月十二日ノ告令ヲ以テ削除シタリ

第貳拾三條　有期刑ノ期限ハ其言渡ノ廢止ス可カラサルモノトナリタル日ヨリ之ヲ起算ス可シ(刑二四四〇二二六治三七三)

第貳拾四條　然レトモ豫メ禁獄ノ景狀ニアル所ノ各人ニ對シテ宣告シタル禁錮ノ言渡ニ關シテハ其刑ノ期限ハ其刑ヲ言渡サレタル者ノ上訴セサルニ於テハ檢察官ノ控訴又ハ上訴ニ拘ハラス又其控訴或ハ上訴ノ成果如何ヲ問ハス上等又ハ下等裁判所ノ裁判ノ日ヨリ之ヲ起算ス可シ

刑ヲ言渡サレタル者ノ控訴又ハ上訴ノ上ニテ其刑ノ減セラレタル場合ニ於テモ亦右ト同一タル可シ

第貳拾五條　如何ナル刑ノ言渡ト雖モ國祭又ハ敬祭ノ日ニモ又日曜日ニモ之ヲ執行スルヿヲ得ス(刑二六〇昨六三七三一八二八一〇三七治三七五)

第貳拾六條　其執行ハ刑ノ言渡ノ裁判書ニ指示シタル地ノ公場中ノ一箇ニ於テ之ヲ爲ス可シ(刑四七五ノ第十二治三七六四七二)

第貳拾七條　若シ死刑ヲ言渡サレタル婦女カ其懷胎ナル旨ヲ申述シ而シテ其旨ヲ驗明シタル時ハ出產ノ後ニ非サレハ其刑ヲ受ケサルモノトス

第貳拾八條　有期徒刑、禁獄ノ刑、懲役ノ刑、追放ノ刑ヲ言渡シタル時ハ公權剝

奪ヲ惹起スルモノトス○公權剝奪ハ其刑ノ言渡ノ廢止ス可カラサルモノトナリタル日ヨリ之ヲ受ク可ク又重罪缺席ニテ刑ヲ言渡サレタル場合ニ於テハ肖像ニ依レル執行ノ日ヨリ之ヲ受ク可シ(刑七八、治四七二)

第貳拾九條 何人ニ限ラス有期徒刑、禁獄ノ刑、懲役ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ右ノ外其刑ノ期限間法律上ノ治産禁ノ景狀ニアル可キモノトス但シ治産禁ヲ受ケタル者ノ後見人及ヒ代後見人ヲ撰任スル爲メニ定メタル法式ヲ以テ右刑ヲ言渡サレタル者ノ爲メ其財産ヲ管理スル爲メノ後見人及ヒ代後見人ヲ撰任ス可シ(刑三〇、三一、民四〇五以下、四二〇以下五〇五)

第三拾條 刑ヲ言渡サレタル者ノ財産ハ其者ノ刑ヲ受ケ終リシ後之ヲ其者ニ還付ス可ク而シテ後見人ハ其者ニ管理ノ計算ヲ爲ス可シ(民四六九)

第三拾壹條 其刑ノ期限間ハ如何ナル金額ヲモ又如何ナル手當ヲモ又如何ナル入額ノ部分ヲモ其者ニ交付スルヿヲ得ス

第三拾貳條 何人ニ限ラス追放ヲ言渡サレタル者ハ政府ノ命令ヲ以テ王國(共和國)ノ領地外ニ移送セラル可シ

追放ノ期限ハ少クモ五年多クモ十年タル可シ(刑八ノ第一、三八、三六、四八、五六)

第三拾三條 若シ追放セラレタル者ノ其刑期ノ終ル前ニ王國(共和國)ノ領地內ニ歸リ來ル時ハ其人逃ニ非サルノ証據ノミニ依リ少クモ其追放ノ期限ノ終リニ至ル迄ノ殘期ニ等シク又其殘期ノ二倍ニ過クルヿヲ得サル時間禁獄ノ刑ヲ言渡サル可シ(刑八、治五一八)

第三拾四條 公權剝奪ハ左ノ諸件ニアリトス

第一 刑ヲ言渡サレタル者ノ總テ公ケノ職務、役務又ハ職任ノ罷免及ヒ除斥

第二 投票選擧被選擧ノ權利及ヒ一般ニ總テノ國士權及ヒ政權ノ剝奪並ニ勳章ヲ佩フル權利ノ剝奪

第三 宣誓鑒定人トナルノ無能力、証書ニ於テ証人トシテ用ヒラルヽノ無能力及ヒ單一ナル參照件ヲ備フル爲メノ外裁判上ニテ証據ヲ申述スルノ無能力

第四 親族會議ニ加ハルノ無能力及ヒ後見人、管財人、代後見人又ハ裁判

上ノ輔佐人トナルノ無能力但シ親族ノ同意スル意見ニ依リテ自己ノ子ノ爲メニスルハ格別ナリトス

第五　兵器ヲ携帶スルノ權利、護國兵ニ加ハルノ權利、佛蘭西ノ兵役ニ服スルノ權利、學校ヲ開設シ又ハ教師、教員、校監ノ名義ヲ以テ學校ニ於テ教授ヲ爲シ及ヒ任用ヲ受クル權利ノ剝奪(刑八ノ第二三、三八四二治六三三)

第三拾五條　公權剝奪ヲ主刑トシテ宣告スル度毎ニ禁錮ノ刑ヲ之ニ附添スルヿヲ得可シ但シ其禁錮ノ刑ノ期限ハ刑ヲ言渡ス裁判書ヲ以テ定ム可キモノニシテ五年ニ過ク可カラス

若シ其犯罪人カ外國人タリ又ハ國士タルノ分限ヲ失ヒシ佛蘭西人タル時ハ常ニ必ス禁錮ノ刑ヲ宣告セサルヲ得ス(刑四〇以下一七七)

第三拾六條　凡ソ死刑、無期及ヒ有期ノ徒刑、流刑、禁獄ノ刑、懲役ノ刑、公權剝奪ノ刑追放ノ刑ヲ賦スル處ノ裁判書ハ拔書ヲ以テ之ヲ印刷ス可シ

其裁判書ハ本州中央ノ都府ト其裁判ヲ爲シタル都府ト犯罪ヲ行ヒタル地ノ邑ト執行ヲ爲ス邑ト刑ヲ言渡サレタル者ノ住所ノ邑トニ於テ之ヲ貼附

ス可シ(刑七)

第三拾七條、第三拾八條、第三拾九條(此三條ハ千八百三十二年四月二十八日ノ法律第百三條ヲ以テ削除シタリ)

○第貳章　懲治罪ノ事項ニ於ケル刑

第四拾條　何人ニ限ラス禁錮ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ懲治場內ニ之ヲ監禁シ其撰擇ニ從ヒ懲治場內ニ設ケアル數箇ノ使役中ノ一ニ使用セラル可シ

其刑ノ期限ハ少クトモ六日多クトモ五年タル可シ但シ再犯ノ場合又ハ法律上ニ右ト異ナレル制限ヲ定メタル其他ノ場合ハ格別ナリトス

一日禁錮ノ刑ハ二十四時トス

一月禁錮ノ刑ハ三十日トス(刑九五七以下四六三)

第四拾壹條　懲治輕罪ノ爲メニ禁錮セラレタル各人ノ使役ノ上リ高ハ一部分ハ懲治場ノ共同ノ入費ニ用ヒ一部分ハ其各人ニ或ル慰安ヲ得セシムルノ適宜ナル時ハ之ヲ得セシムルニ用ヒ一部分ハ其各人出場ノ時ニ於テ之レカ爲メ貯蓄ノ資本ヲ設クルニ用フ可シ但シ右ノ諸件ハ公ケノ行政規則

ニ定メタル所ニ從フ可キモノトス

第四拾貳條　懲治上ニテ裁判ヲ爲ス裁判所ハ或ル場合ニ於テハ左ノ國士權、民權及ヒ族權ノ執行ヲ全ク禁止シ又ハ一部分禁止スルヿヲ得可シ

第一　投票及ヒ選擧ノ權利

第二　被選擧ノ權利

第三　陪審員ノ職務又ハ其他ノ公ケノ職務或ハ行政上ノ役務ニ招喚セラレ又ハ選任セラルヽノ權利又ハ右ノ職務或ハ役務ヲ執行スルノ權利

第四　兵器ヲ携帶スルノ權利

第五　親族ノ評議ニ於ケル投票及ヒ發言ノ權利

第六　後見人又ハ管財人タルノ權利但シ親族ノ意見ノミニ依リテ自己ノ子ノ爲メニスルハ格別ナリトス

第七　鑒定人タルノ權利又ハ証書ニ於テ証人トシテ用ヒラルヽノ權利

第八　單一ナル申述ヲ爲ス爲メノ外裁判上ニテ証據ヲ申述スルノ權利

第四拾三條　裁判所ハ法律ノ別段ナル成規ニ依テ許可セラレ又ハ命令セラレタル時ニ非サレハ前條ニ記載シタル禁止ヲ宣告ス可カラス（刑四）

○第三章　重罪又ハ輕罪ノ爲メニ宣告スルヿヲ得可キ刑及ヒ其他ノ言渡

第四拾四條（千八百七十四年一月二十三日ノ法律）高等警察ノ監視ニ附スル事ノ效ハ刑ヲ言渡サレタル者ノ其刑ヲ受ケ終リシ後ニ其赴クヿヲ禁止ス可キ別段ノ地ヲ定ムルノ權利ヲ政府ニ附與スルニアリトス

刑ヲ言渡サレタル者ハ其釋放ヲ得ルヨリ少クモ十五日前ニ其居住ヲ定メント欲スル地ヲ申述セサルヲ得ス若シ其申述ヲ爲サヽルニ於テハ政府自ミカヲ之ヲ定ムル可シ

監視ヲ言渡サレタル者ハ內務卿ノ許可ヲ受クルニ非サレハ六月ノ期限ノ終ヲサル前ニ其管テ自カヲ撰定シ又ハ政府ヨリ定メラレタル居住ヲ去ルヿヲ得ス

然レ𪜈州長ハ左ノ場合ニ於テハ右ノ許可ヲ附與スルヿヲ得可シ

第一　其州ノ限界内ニ於テ單一ナル移動ノ場合

第二　至急ヲ要スル場合但シ此場合ニ於テハ假リノ名義ノミヲ以テス可シ

刑ヲ言渡サレタル者ハ六月ノ期限ノ終リシ後又必要ナル許可ヲ得タル時ハ其期限ノ終ラサル前ト雖モ禁止セラレサル總テノ居住ニ移轉スルヿヲ得可シ但シ八日前ニ邑長ニ通知ス可キノ負任アリトス

刑ヲ言渡サレタル者ハ總テ其監視ヲ受クル間ニ逐次撰定シタル各箇ノ居住ニ於テ六月間ノ滞在ヲ必要トス但シ前ノ成規ニ從ヒ内務卿若クハ州長ヨリ附與シタル特別ノ許可アル時ハ格別ナリトス

凡ソ刑ヲ言渡サレタル者ノ其居住ニ赴ク時ハ途中必ス離ルヽヿヲ得サル路筋ト其通行ノ各地ニ於ケル滞在ノ時間トヲ規定スル所ノ路券ヲ受ク可シ

刑ヲ言渡サレタル者ハ其到着ノ時ヨリ二十四時内ニ其居住ス可キ邑ノ邑長ノ面前ニ出廷ス可シ

第四拾五條　若シ高等警察ノ監視ニ附セラレタル者ノ前條ニ定メタル成規ニ背戻シタル場合ニ於テハ懲治裁判所ヨリ五年ニ過クルヿヲ得サル禁錮ヲ言渡サル可シ(刑四〇以下五八)

第四拾六條　(千八百七十四年一月二十三日ノ法律)如何ナル場合ニ於テモ監視ノ期限ハ二十年ニ過クルヿヲ得ス

有期ノ徒刑禁獄ノ刑懲役ノ刑ヲ言渡サレタル犯罪人ハ其刑ヲ受ケ終リシ後二十年間ハ當然高等警察ノ監視ヲ受ク可キモノトス

然レ𪜈刑ヲ言渡ス上等又ハ下等裁判所ノ裁判ヲ以テ監視ノ期限ヲ減縮スルヿヲ得可ク又然ノミナラス刑ヲ言渡サレタル者ノ監視ヲ受ケサル可キ旨ヲ宣告スルヿヲ得可シ

凡ソ無期ノ刑ヲ言渡サレタル者ノ其刑ノ變換又ハ釋免ヲ得タル時ハ當然二十年間高等警察ノ監視ヲ受ク可シ但シ特赦ノ裁定ニ依リ之ニ異ナレル處分ヲ定メタル時ハ格別ナリトス

第四拾七條（千八百七十四年一月二十三日ノ法律追放ノ刑ヲ言渡サレタル犯罪人ハ其受ケ終リタル刑ノ期限ニ等シキ時間當然高等警察ノ監視ヲ受ク可シ但シ刑ヲ言渡ス上等又ハ下等裁判所ノ裁判ニ依リ之ニ異ナレル處分ヲ定メタル時ハ格別ナリトス

本條ト前條ノ第二項及ヒ第三項トニ定メタル場合ニ於テ若シ上等又ハ下等裁判所ノ裁判書ニ監視ノ免除又ハ減輕ヲ記セサル時ハ免除又ハ減輕ノ事ヲ評議セシ旨ノ記載ヲ爲ス可ク若シ之ニ違フ時ハ無效ナリトス

第四拾八條（千八百七十四年一月二十三日ノ法律）監視ハ特赦ノ方法ヲ以テ之ヲ釋免シ又ハ減輕スルヿヲ得可シ

監視ハ行政上ノ處分ヲ以テ之ヲ停止スルヿヲ得可シ

刑ノ期滿效ハ刑ヲ言渡サレタル者ニ其受クル所ノ監視ヲ免カレシムルヿナシ

無期ノ刑ノ期滿效ノ場合ニ於テハ其刑ヲ言渡サレタル者ハ當然二十年間高等警察ノ監視ヲ受ク可シ

監視ハ期滿效ノ成就シタル日ヨリ後ニ非サレハ其效ヲ生セサルモノトス

第四拾九條 國ノ內部又ハ外部ノ安寧ニ關スル重罪又ハ輕罪ノ爲メニ刑ヲ言渡サレタル者ハ亦右ニ同シキ監視ニ附セサルヲ得ス（刑一一七五以下）

第五拾條 前數條ニ定メタル場合ヲ除クノ外、刑ヲ言渡サレタル者ハ法律ノ別段ノ成規ヲ以テ許シタル場合ニ非サレハ國ノ高等警察ノ監視ヲ受ケシム可カラサルモノトス（刑四四七以下五八六七一〇〇一〇八一三八一三九一四二一四四一五六一七四二二一二二八二四六二五一三七一二八二三〇五以下三〇九以下三一五三一七三二六三三五三四三三六二以下三八七三八八三九九四〇〇四〇一四一五以下四一八四一九以下四四四五二四六三）

第五拾壹條 物件返還ヲ爲スヿヲ得キヿアル時ハ其犯罪人ハ右ノ外被害者ノ求メニ依リ其被害者ニ對シテ賠償ヲ言渡サルヽヿアル可ク而シテ其賠償ノ定メ方ハ法律上ニ之ヲ規定セサル時ハ上等裁判所又ハ下等裁判所ノ裁定ニ任カス可シ但シ上等裁判所又ハ下等裁判所ハ右被害者ノ承諾アリト雖モ其賠償ヲ各種ノ事業ニ適用ス可キ旨ヲ宣告スルヿヲ得サルモノトス（刑

一〇五二五四以下七三四二九民一一四九一三八二以下治一以下六六二六一二九四三五八以下三六六)

第五拾貳條　罰金、物件返還、損害賠償及ヒ費用ニ付テノ言渡ノ執行ハ拘留ノ方法ヲ以テ之ヲ要求スルヿヲ得可シ(刑四六七四六九林二一一以下)

第五拾三條　國ノ利益ニ於テ罰金及ヒ費用ヲ宣告シタル時若シ施體又ハ加辱ノ刑ノ終リシ後右金圓上ノ言渡ヲ辨濟セシムル爲メ滿一年間其刑ヲ言渡サレタル者ヲ禁錮シタルニ於テハ法律上ノ方法ニ依リ其完全ナル無資力ノ證據ヲ獲得シタル上其者ニ於テ假リノ釋放ヲ得ルヿヲ得可シ

其禁錮ノ期限ハ輕罪ニ關スル時ハ之ヲ減シテ六ケ月トス但シ如何ナル場合ニ於テモ若シ刑ヲ言渡サレタル者ノ幾許カ其辨濟ノ資力ヲ得タル時ハ更ニ再ヒ之ヲ拘留スルヿヲ得可シ(刑四六七四六九)

本條ハ千八百六十七年七月二十二日ノ法律ヲ以テ之ヲ更改シタリ

第五拾四條　若シ刑ヲ言渡サレタル者ノ不足ナル財産ニ付キ罰金ト物件返還及ヒ損害賠償ト相牴觸スル場合ニ於テハ物件返還及ヒ損害賠償ノ言渡

ニ先取リノ權利アルモノトス(刑四六八治一二一)

第五拾五條　同一ノ重罪ノ爲メ又ハ同一ノ輕罪ノ爲メニ刑ヲ言渡サレタル各人ハ相連帶シテ罰金、物件返還、損害賠償及ヒ費用ヲ負擔ス可シ(民一二〇〇以下)

○第四章　重罪及ヒ輕罪ニ付キ再犯ノ刑

第五拾六條　何人ニ限ラス施體又ハ加辱ノ刑ヲ言渡サレタル後更ニ主刑トシテ公權剝奪ヲ惹起スル第二回ノ重罪ヲ行ヒタル者ハ追放ノ刑ヲ言渡サル可シ

若シ第二回ノ重罪カ追放ノ刑ヲ惹起スル時ハ禁獄ノ刑ヲ言渡サル可シ

若シ第二回ノ重罪カ懲役ノ刑ヲ惹起スル時ハ有期ノ徒刑ヲ言渡サル可シ

若シ第二回ノ重罪カ禁獄ノ刑ヲ惹起スル時ハ其同刑ノ最上限ヲ言渡サル可シ但シ其刑ハ二倍ニ至ル迄之ヲ加重スルヿヲ得ルキモノトス

若シ第二回ノ重罪カ有期ノ徒刑ヲ惹起スル時ハ其同刑ノ最上限ヲ言渡サル可シ但シ其刑ハ二倍ニ至ル迄之ヲ加重スルヿヲ得可キモノトス

若シ第二回ノ重罪カ流刑ヲ惹起スル時ハ無期ノ徒刑ヲ言渡サル可シ

何人ニ限ラス無期ノ徒刑ヲ言渡サレタル後更ニ同刑ヲ惹起スル第二回ノ重罪ヲ行ヒタル者ハ死刑ヲ言渡サル可シ

然レ𪜈陸軍又ハ海軍ノ裁判所ヨリ刑ヲ言渡サレタル者ハ通常ノ刑事ノ法律ニ從ヒ問ス可キ重罪又ハ輕罪ノ爲メ其第一回ノ刑ノ言渡ヲ宣告シタル時ニ非サレハ其後ノ重罪又ハ輕罪ノ場合ニ於テ再犯ノ刑ヲ受ケサルモノトス(刑七八二五一九以下二八三二三四四七四六三)

第五拾七條 (千八百六十三年五月十三日ノ法律)何人ニ限ラス重罪ノ爲メ禁錮一年以上ノ刑ヲ言渡サレタル後更ニ懲治ノ刑ノミヲ以テ罰ス可キ輕罪又ハ重罪ヲ行ヒタル者ハ法律上ニ定メタル刑ノ最上限ヲ言渡サル可シ而シテ其刑ハ二倍ニ至ル迄之ヲ加重スルヿヲ得可キモノトス

其刑ヲ言渡サレタル者ハ右ノ外少クも五年多クも十年間高等警察ノ特別監視ニ附セラル可シ(刑四〇以下四四四五)

第五拾八條 (千八百六十三年五月十三日ノ法律)懲治上ニテ一年以上ノ禁錮

ヲ言渡サレタル犯罪人ハ亦更ニ懲治ノ刑ノミヲ以テ罰ス可キ第二回ノ輕罪又ハ重罪ヲ行ヒタル場合ニ於テハ法律上ニ定メタル刑ノ最上限ヲ言渡サル可ク而シテ其刑ハ二倍ニ至ル迄之ヲ加重スルヿヲ得可シ又其犯罪人ハ右ノ外少クも五年多クも十年間政府ノ特別監視ニ附セラル可キモノトス(刑四〇以下四六三四七八四八二四八三)